

* 0007928000 *

0007928-000

特 263-987

警防関係法令集

茨城県警防義会

昭和 14

ABH

警防關係法令集

特263
987

防空法同關係法規目次

防空法	一
防空法施行細則	七
防空法施行令	七
防空委員會令	三
防空通信規則	三
防空通信取扱規程	三

防空通信取扱ニ關スル件
 訓練防空警報規則

一 七 七 三 三 三



防空警報傳達信號ノ統一ニ關スル件…………… 四
海上ニ對スル防空警報傳達信號ノ統一ニ關スル件…………… 四
燈火管制規則…………… 四
燈火管制規則施行細則…………… 七
燈火管制規則施行細則取扱手續…………… 八
燈火管制規則施行細則第二條第三條ニ依ル告示…………… 八
燈火管制規則施行細則第二條第三條ニ依ル告示…………… 八
燈火管制參考資料…………… 八
船舶ノ燈火管制ニ關スル逓信省告示…………… 一〇三
逓信省管船局長通知燈火管制ニ關スル件…………… 一〇三
海上衝突豫防法(抄)…………… 一〇九
燈火管制ノ要義ニ關スル照復ノ件…………… 一一三

防毒資材取締規則…………… 一三六
防毒資材取締規則施行細則…………… 一三六
防毒資材取締規則施行細則取扱手續…………… 一三六
行政執行法(抄)…………… 一四二
行政執行法施行令(抄)…………… 一四二
警 防 團 令…………… 一四三
警防團令施行細則…………… 一四六
警防團令施行細則取扱手續…………… 一七三
警防團徽章並警防團旗制式ニ關スル件…………… 一九一
警防團提灯樣式ニ關スル件…………… 一九三
警 防 團 操 典…………… 一九四

警防團禮式令……………二九
 警防團點檢規則……………三四
 警防團操典、同禮式令及同點檢規則制定ニ關スル件……………四四
 警防團員 服制……………四八
 財團茨城縣警防義會寄附行爲……………五九
 財團茨城縣警防義會寄附行爲……………六五
 財團茨城縣警防義會寄附行爲施行細則……………七〇
 表 彰 規 程……………七二
 防毒資材取締規則中改正ノ件……………七二

防空法 (昭和十二年四月二日 法律第四十七號)

第一條 本法ニ於テ防空ト稱スルハ戰時又ハ事變ニ際シ航空機ノ來襲ニ因リ生ズベキ危害ヲ防止シ又ハ之ニ因ル被害ヲ輕減スル爲陸海軍ノ行フ防衛ニ即應シテ陸海軍以外ノ者ノ行フ燈火管制、消防、防毒、避難及救護並ニ此等ニ關シ必要ナル監視、通信及警報ヲ、防空計畫ト稱スルハ防空ノ實施及之ニ關シ必要ナル設備又ハ資材ノ整備ニ關スル計畫ヲ謂フ
第二條 防空計畫ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ地方長官(東京府ニアリテハ警視總監ヲ含ム以下之ニ同ジ)又ハ地方長官ノ指定スル市町村長防空委員會ノ意見ヲ徵シ之ヲ設定シ

主務大臣又ハ地方長官ノ認可ヲ受クベシ
第三條 主務大臣ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ規模大ナル事業又ハ施設ニシテ防空上特ニ必要アルモノニ付行政廳ニ非ザル者ヲ指定シテ防空計畫ヲ設定セシムルコトヲ得
 前項ノ防空計畫ハ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ
第四條 防空計畫ノ設定者ハ其ノ防空計畫ニ基キ防空ヲ實施シ又ハ防空ノ實施ニ關シ必要ナル設備若ハ資材ノ整備ヲ爲スベシ
第五條 地方長官ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ防空計畫ニ基キ特殊施設ノ管理者又ハ所有者ヲシテ防空ノ實施ニ關シ必要ナル設備若ハ資材ノ整備ヲ爲サシメ又ハ防空ノ實施ニ際シ必要ナル設備若ハ資材ヲ供用セシムルコ

トヲ得

第六條 地方長官ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ特殊技能ヲ有スル者ヲシテ防毒、救護其ノ他防空ノ實施ニ從事セシムルコトヲ得

第三條第一項ノ規定ニ依ル防空計畫ノ設定者ハ其ノ從業者ヲシテ防空ノ實施ニ從事セシムルコトヲ得

第七條 防空ノ實施ノ開始及終止ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第八條 燈火管制ヲ實施スル場合ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ實施區域内ニ於ケル光ヲ發スル設備又ハ裝置ノ管理者又ハ之ニ準ズベキ者ハ他ノ法令ノ規定ニ拘ラズ其ノ光ヲ秘匿スベシ

第九條 防空ノ實施ニ際シ緊急ノ必要アルト

第一項ノ規定ニ依リ燈火管制ノ訓練ヲ爲ス場合ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ訓練區域内ニ於ケル光ヲ發スル設備又ハ裝置ノ管理者又ハ之ニ準ズベキ者ハ他ノ法令ノ規定ニ拘ラズ其ノ光ヲ秘匿スベシ

第十一條 防空ニ關スル調査ノ爲必要アルトキハ主務大臣、地方長官又ハ市町村長ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ關係者ニ對シ資料ノ提出ヲ命ジ又ハ官吏若ハ吏員ヲシテ關係アル場所ニ立入り検査ヲ爲サシムルコトヲ得但シ私人ノ邸宅竝ニ業務上ノ秘密ニ屬スル事項及設備ニ付テハ此ノ限ニアラズ
前項ノ規定ニ依リ立入ル場合ニ於テハ其ノ旨豫メ其ノ場所ノ管理者ニ通知ズベシ
當該官吏又ハ吏員第一項ノ規定ニ依リ關係

キハ地方長官又ハ市町村長ハ他人ノ土地若ハ家屋ヲ一時使用シ、物件ヲ收用若ハ使用シ又ハ防空ノ實施區域内ニアル者ヲシテ防空ノ實施ニ從事セシムルコトヲ得

行政執行法第五條及第六條ノ規定竝ニ之ニ基キテ發スル命令ハ前項ノ規定ニ基キテ爲ス處分ニ依リテ負フ義務ノ履行ヲ市町村長ガ強制スル場合ニ之ヲ準用ス

第十條 主務大臣ハ防空計畫ノ設定者ニ對シ防空計畫ノ全部又ハ一部ニ基キ防空ノ訓練ヲ爲スベキコトヲ命ズルコトヲ得
前項ノ規定ニ依リ防空ノ訓練ヲ爲ス場合ニ於テハ第三條第一項ノ規定ニ依ル防空計畫ノ設定者ハ其ノ從業者ヲシテ防空ノ訓練ニ從事セシムルコトヲ得

アル場所ニ立入ル場合ハ其ノ證票ヲ携帯スベシ

第十二條 第六條又ハ第九條第一項ノ規定ニ依リ防空ノ實施ニ從事スル者之ガ爲傷痍ヲ受ケ、疾病ニ罹リ又ハ死亡シタル場合ニ於テハ地方長官、市町村長又ハ第三條第一項ノ規定ニ依ル防空計畫ノ設定者ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ本人又ハ其ノ葬祭ヲ行フ者ニ對シ療養又ハ葬祭ニ要スル費用ヲ給スベシ
第十三條 地方長官第五條ノ規定ニ依リ防空ノ實施ニ際シ必要ナル設備若ハ資材ヲ供用モシメ又ハ地方長官若ハ市町村長第九條第一項ノ規定ニ依リ土地家屋物件ヲ收用若ハ使用スル場合ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ損失ヲ補償スベシ

前項ノ規定ニ依リ補償ヲ受クベキ者補償ニ付不服アルトキハ其ノ金額ノ決定ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ、供用、收用又ハ使用ノ後六月ヲ經過シテ補償金額ノ決定ノ通知ヲ受ケザルトキハ其ノ期間經過シタル日ヨリ六月以内ニ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第十四條 地方長官第六條第一項ノ規定ニ依リ特殊技能ヲ有スル者ヲシテ防空ノ實施ニ從事セシメ又ハ第三條第一項ノ規定ニ依ル防空計畫ノ設定者第六條第二項ノ規定ニ依リ其ノ從業者ヲシテ防空ノ實施ニ從事セシムル場合ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ實費ヲ辨償スベシ

前條第二項ノ期定ハ前項ノ實費辨償ニ之ヲ準用ス

第十五條 防空計畫ノ設定、防空ノ實施、防空ノ實施ニ關シ必要ナル設備若ハ資材ノ整備、第十條第一項ノ規定ニ依ル防空ノ訓練又ハ第十二條ノ規定ニ依ル給與ヲ爲スニ要スル費用ハ地方長官之ヲ爲ス場合ニ於テハ北海道又ハ府縣、市町村長之ヲ爲ス場合ニ於テハ市町村、第三條第一項ノ規定ニ依ル防空計畫ノ設定者之ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ者ノ負擔トス

特殊施設ノ管理者又ハ所有者第五條ノ規定ニ依リ設備又ハ資材ノ整備ヲ爲スニ要スル費用ハ其ノ者ノ負擔トス

第十六條 防空委員會ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十七條 國庫ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ左ノ

諸費ニ對シ其ノ二分ノ一以内ヲ補助ス

一 第十五條第一項ノ規定ニ依リ北海道、府縣、市町村又ハ第三條第一項ノ規定ニ依ル防空計畫ノ設定者ノ負擔スル費用

二 第十五條第二項ノ規定ニ依リ特殊施設ノ管理者又ハ所有者ノ負擔スル費用

三 防空委員會ニ關シ北海道、府縣又ハ市町村ノ負擔スル費用

第十八條 特殊技能ヲ有スル者故ナク第六條第一項ノ規定ニ依ル地方長官ノ命令ニ從ハザルトキハ三月以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十九條 第八條ノ規定ニ違反シタル者ハ三百圓以下ノ罰金、拘留又ハ料科ニ處ス

故ナク第十一條第一項ノ規定ニ依ル資料ノ

提出ヲ拒ミ若ハ虚偽ノ資料ヲ提出シ又ハ當該官吏若ハ吏員ノ立入検査ヲ拒ミ若ハ妨ゲタル者亦前項ニ同ジ

第二十條 町村組合ニシテ町村ノ事務ノ全部又ハ役場事務ヲ共同處理スル者ハ本法ノ適用ニ付テハ之ヲ一町村、其ノ組合管理者ハ之ヲ町村長ト看做ス

町村制ヲ施行セザル地ニ於テハ本法中町村ニ關スル規定ハ町村ニ準ズベキモノニ、町村長ニ關スル規定ハ町村長ニ準ズベキ者ニ之ヲ適用ス

第二十一條 國ニ於テ管理スル施設ニ關スル防空ニ付テハ勅令ノ定ムル所ニ依ル

第二十二條 本法ヲ朝鮮、臺灣又ハ樺太ニ施行セル場合ニ於テ必要アルトキハ勅令ヲ以

テ特別ノ定ヲ爲スコトヲ得

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

防空法施行期日ノ件

(昭和十二年九月二十八日)
(勅令第五百四十八號)

防空法ハ昭和十二年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

防空法施行令

(昭和十二年九月二十八日)
(勅令第五百四十九號)

第一條 地方長官(東京府ニ在リテハ警視總監ヲ含ム以下之ニ同ジ)ハ道府縣ノ全區域又ハ敷市町村ノ區域ニ亙リ計畫スベキ事項其ノ他必要ト認ムル事項ニ關シ防空計畫ヲ設定スベシ

前項ノ防空計畫ハ道府縣防空委員會ノ意見ヲ徵シ之ヲ設定シ内務大臣ノ認可ヲ受クベ

シ

防空法第二條ノ規定ニ依リ指定セラレタル市町村長ハ市町村ノ區域内ニ於テ計畫スベキ事項其ノ他必要ト認ムル事項ニ關シ防空計畫ヲ設定スベシ

前項ノ防空計畫ハ市町村防空委員會ノ意見ヲ徵シ之ヲ設定シ地方長官ノ認可ヲ受クベシ

第二條 防空法第三條第一項ノ事業又ハ施設ハ工場、鑛山、鐵道、軌道、無線電信、無線電話又ハ電氣、瓦斯、海運若ハ航空ニ關スル事業若ハ施設トス

第三條 防空法第五條ノ規定ニ依リ整備ヲ爲サシムルコトヲ得ベキ設備又ハ資材ハ左ノ各號ニ掲グルモノトス

- 一 電氣工作物、工場、鐵山、鐵道、軌道
診療所ノ類ニ付テハ燈火管制ニ關シ必要ナルモノ
 - 二 水道、下水道、瓦斯工作物、石油タンク、工場、鐵山ノ類ニ付テハ消防ニ關シ必要ナルモノ
 - 三 劇場、診療所、百貨店、地下ニ敷設シタル鐵道又ハ軌道、地下室ヲ有スル建築物ノ類ニ付テハ防毒、避難又ハ救護ニ關シ必要ナルモノ
- 防空法第五條ノ規定ニ依リ供用セシムルコトヲ得ベキ設備又ハ資材ハ左ノ各號ニ掲グルモノトス
- 一 高層建築物ノ類ニ付テハ監視ニ關シ必要ナルモノ

- 二 號報器ヲ有スル施設ニ付テハ警報ニ關シ必要ナルモノ
 - 三 學校、集會場、劇場、診療所、百貨店、地下ニ敷設シタル鐵道又ハ軌道、地下室ヲ有スル建築物、避難上有効ナル空地ヲ有スル工場其ノ他ノ建築物、運動場ノ類ニ付テハ防毒、避難又ハ救護ニ關シ必要ナルモノ
- 第四條 防空法第六條第一項ノ特殊技能ヲ有スル者ハ左ノ各號ニ掲グル者トス
- 一 醫師、齒科醫師、獸醫師、藥劑師及看護婦
 - 二 防空ニ關スル技能ニ付特殊ノ教育訓練ヲ受ケタル者ニシテ内務大臣ノ認可ヲ受ケテ地方長官ノ定ムルモノ

防空法第三條第一項ノ規定ニ依ル防空計畫ノ設定者ノ從業者ニシテ其ノ防空計畫ニ基キ防空ノ實施ニ從事スベキモノ其ノ他正當ノ事由アル者ハ同法第六條第一項ノ規定ニ依リ防空ノ實施ニ從事セシムルコトヲ得ズ

第五條 防空ノ實施ノ開始及終止ハ内務大臣之ヲ命ズ

前項ノ命令ハ關係アル地方長官及防空法第三條第一項ノ防空計畫ノ設定者ニ對シテハ内務大臣、關係アル市町村長ニ對シテハ内務大臣ノ通知ニ依リ地方長官之ヲ發ス

内務大臣第一項ノ命令ヲ爲スニ付テハ其ノ時期及區域ニ關シテハ陸軍大臣又ハ海軍大臣ノ通知ニ依ルベシ

第六條 前條ノ規定ニ依リ防空ノ實施ノ開始

命令アリタルトキハ防空計畫ノ設定者ハ監視及之ニ伴フ通信ニ關シテハ直ニ之ヲ實施シ防空上必要ナル其ノ他ノ事項ニ關シテハ其ノ準備ヲ爲シ適宜之ヲ實施スベシ

監視及之ニ伴フ通信ハ前條ノ規定ニ依リ防空ノ實施ノ終止命令アル迄之ヲ繼續スベシ

第七條 防空ヲ實施スル場合ニ於テ航空機ノ來襲ニ關シテハ左ノ各號ノ區分ニ依リ防空警報ヲ發ス

- 一 警戒警報 航空機ノ來襲ノ虞アル場合
- 二 警戒警報解除 航空機ノ來襲ノ虞ナキニ至リタル場合
- 三 空襲警報 航空機ノ來襲ノ危險アル場合
- 四 空襲警報解除 航空機ノ來襲ノ危險ナシ

キニ至リタル場合

當該區域ノ防衛ヲ擔任スル防衛司令官、師團長、要塞司令官、鎮守府司令官若ハ要塞部司令官（以下陸海軍司令官ト稱ス）又ハ其ノ指定スル者ノ發スル防空警報ヲ以テ前條ノ防空警報トス

第八條 防空法第十一條第一項ノ關係者ハ第二條ニ掲グル事業若ハ施設又ハ第三條ニ掲グル特殊施設ノ管理者又ハ所有者トシ關係アル場所ハ此等ノ者ノ管理又ハ所有スル土地及建物其ノ他ノ工作物トス
防空法第十一條第三項ノ證票ハ別記様式ニ依ル

第九條 防空法第十二條ノ規定ニ依ル療養又ハ葬祭ニ要スル費用ハ防空ノ實施ニ從事セ

額ニ對シ補助ス

前項ノ規定ニ依リ交付シタル國庫補助金ハ左ニ掲グル場合ニ於テハ其ノ全部又ハ一部ヲ返還セシムルコトヲ得

一 設備又ハ資材ヲ廢棄又ハ變更シ當初ノ目的ヲ達シ得ザルニ至リタルトキ

二 補助金交付ノ條件ニ違反シタルトキ

第十三條 防空法第三條及第十條ノ主務大臣ハ内務大臣、同法第十一條ノ主務大臣ハ内務大臣、陸軍大臣又ハ海軍大臣トス

第十四條 陸海軍司令官ハ監視網構成ノ概要ニ付及陸海軍ノ行フ防衛ノ必要上使用ヲ禁止又ハ制限スルコトアルベキ土地建物ニ付防空計畫ノ設定上必要ナル事項ヲ防空計畫ノ設定者ニ通知スベシ

シメタル者ニ於テ之ヲ給スベシ

前項ノ費用ノ支給ニ關シ必要ナル事項ハ地方長官又ハ防空法第三條第一項ノ規定ニ依ル防空計畫ノ設定者ニ在リテハ内務大臣、市町村長ニ在リテハ地方長官ノ認可ヲ受ケ之ヲ定ムベシ

第十條 防空法第十三條ノ規定ニ依リ補償スベキ損失ハ通常生ズベキ損失ニ限ル

第十一條 防空法第十四條ノ規定ニ依ル實費辨償ニ關シ必要ナル事項ハ地方長官又ハ同法第三條第一項ノ規定ニ依ル防空計畫ノ設定者内務大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ定ム

第十二條 防空法第十七條ノ規定ニ依ル國庫補助ハ支出精算額ニ對シ之ヲ爲ス但シ寄附金其ノ他ノ收入アルトキハ之ヲ控除シタル

前項ノ通知アリタルトキハ之ニ準據シテ防空計畫ヲ設定スベシ

第十五條 防空計畫ノ認可ヲ爲ス場合ニ於テ陸海軍ノ行フ防衛ニ則應セシムル爲必要ナル事項ニ關シテハ内務大臣ハ陸軍大臣及海軍大臣ニ、地方長官ハ陸海軍司令官ニ協議スベシ

第十六條 左ニ掲グル事項ニ關シテハ内務大臣ハ關係各大臣ニ、地方長官ハ關係地方官廳ニ協議スベシ

一 防空計畫ノ認可ヲ爲ス場合ニ於テ當該計畫中國ニ於テ管理スル土地家屋物件ノ使用ニ關スル事項

二 防空計畫ノ認可ヲ爲ス場合ニ於テ設備又ハ資材ノ整備又ハ供用ニシテ他ノ法令

ニ依リ認可又ハ許可ヲ要スルモノニ關スル事項

三 防空法第三條第一項ノ規定ニ依ル指定及同條第二項ノ規定ニ依ル認可

四 設備又ハ資材ノ整備又ハ供用ニシテ他ノ法令ニ依リ認可又ハ許可ヲ要スルモノニ關スル防空法第五條ノ規定ニ依ル命令

五 防空法第三條第一項ノ規定ニ依ル防空計畫ノ設定者ニ對スル同法第十條第一項ノ規定ニ依ル命令

第十七條 町村組合ニシテ町村ノ事務ノ全部又ハ役場事務ヲ共同處理スルモノハ本令ノ適用ニ付テハ之ヲ一町村、其ノ組合管理者ハ之ヲ町村長ト看做ス

町村制ヲ施行セザル地ニ於テハ本令中町村

ニ關スル規定ハ町村ニ準ズベキモノニ、町村長ニ關スル規定ハ町村長ニ準ズベキ者ニ之ヲ適用ス

附則

本令ハ防空法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(別記様式)

表面 日本標準規格第九二號B列八番

(91mm×91mm)

第 號 年 月 日交付

防空法第十一條第三項ノ規定ニ依ル證票

主務省、
廳府縣印
又ハ市町村

官職氏名

裏面

防空法摘要

第十一條 防空ニ關スル調査ノ爲必要アルトキハ主務大臣、地方長官又ハ市町村長ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ關係者ニ對シ資料ノ提出ヲ命ジ又ハ官吏若ハ吏員ヲシテ關係アル場所ニ立入り検査ヲ爲シシムルコトヲ得但シ私人ノ邸宅竝ニ業務上ノ秘密ニ屬スル事項及設備ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ
前項ノ規定ニ依リ立入り場所ニ於テハ其ノ旨豫メ其ノ場所ノ管理者ニ通知スベシ
當該官吏又ハ吏員第一項ノ規定ニ依リ關係アル場所ニ立入り場合ハ其證票ヲ携帯スベシ
第十九條 第八條ノ規定ニ違反シタル者ハ三百圓以下ノ罰金、拘留又ハ科料ニ處ス
故ナク第十一條第一項ノ規定ニ依ル資料ノ提出ヲ拒ミ若ハ虛偽ノ資料ヲ提出シ又ハ當該官吏若ハ吏員ノ立入り検査ヲ拒ミ若ハ妨ゲタル者亦前項ニ同ジ

防空法施行令摘要

第八條 防空法第十一條第一項ノ關係者ハ第二條ニ掲グル事業若ハ施設又ハ第三條ニ掲グル特殊施設ノ管理者又ハ所有者トシ關係アル場所ハ此等ノ者ノ管理又ハ所有スル土地及建物其ノ他ノ工作物トス
第十三條 防空法第三條及第十條ノ主務大臣ハ內務大臣、同法第十一條ノ主務大臣ハ內務大臣、陸軍大臣又ハ海軍大臣トス

官廳防空令

(昭和十二年九月二十八日)
勅令第 五百五十號

第一條 本令ニ於テ官廳防空計畫ト稱スルハ
國ニ於テ管理スル施設ニ關スル防空ノ實施
及之ニ關シ必要ナル設備又ハ資材ノ整備ニ
關スル計畫ヲ謂フ

第二條 內閣總理大臣又ハ各省大臣(陸軍大
臣及海軍大臣ヲ除ク以下之ニ同ジ)ハ自ラ
官廳防空計畫ヲ設定シ又ハ其ノ監督ニ屬ス
ル行政官廳ニシテ必要アリト認ムルモノヲ
指定シ官廳防空計畫ヲ設定セシムマシ
內閣總理大臣又ハ各省大臣ノ設定スル官廳
防空計畫ハ內務大臣、陸軍大臣及海軍大臣
ニ、其ノ他ノ行政官廳ノ設定スル官廳防空

計畫ハ地方長官及防空法施行令第七條ノ陸
海軍司令官ニ協議スベシ

第三條 官廳防空計畫ノ設定者ハ其ノ防空計
畫ニ基キ防空ヲ實施シ又ハ防空ノ實施ニ關
シ必要ナル設備若ハ資材ノ整備ヲ爲スベシ
第四條 內務大臣ハ防空法施行令第五條ノ規
定ニ依リ防空ノ實施ノ開始又ハ終止ヲ命ズ
ルトキハ同時ニ內閣總理大臣及各省大臣ニ
其ノ旨通知スベシ

內務大臣前項ノ通知ヲ爲シタルトキ又ハ內
閣總理大臣及各省大臣前項ノ通知ヲ受ケタ
ルトキハ直ニ其ノ監督ニ屬スル關係アル官
廳防空計畫ノ設定者ニ其ノ旨通知スベシ
前二項ノ通知アリタル場合ニ於テ防空ノ實
施ノ開始及終止ニ關シテハ防空法施行令第

六條ノ規定ヲ準用ス

第五條 國ニ於テ管理スル施設(陸海軍ノ官
衙學校ヲ除ク)ニ關スル燈火管制ノ實施及
訓練ニ關シテハ防空法第八條及第十條第三
項ノ規定並ニ之ニ基キテ發スル命令ノ規定
ヲ準用ス但シ之ニ依リ難キ事項ニ關シテハ
內閣總理大臣又ハ各省大臣ハ內務大臣、陸
軍大臣及海軍大臣ニ協議シ別段ノ規定ヲ設
クルコトヲ得

第六條 內閣總理大臣及各省大臣ハ其ノ監督
ニ屬スル官廳防空計畫ノ設定者ニ對シ防空
計畫ノ全部又ハ一部ニ基キ防空ノ訓練ヲ爲
スベキコトヲ命ズルコトヲ得

附則

本令ハ防空法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

防空委員會令

(昭和十二年十月二十二日)
勅令第五百九十八號

第一條 防空委員會ハ中央防空委員會、道府縣防空委員會及市町村防空委員會トス
中央防空委員會及道府縣防空委員會ハ内務大臣、市町村防空委員會ハ地方長官(東京府ニ在リテハ警視總監以下之ニ同ジ)ノ監督ニ屬ス
道府縣防空委員會及市町村防空委員會ハ防空法第二條及防空法施行令第一條ノ規定ニ依リ其ノ權限ニ屬セシメタル事項ヲ調査審議ス
委員會ハ前項ノ外關係行政廳ノ諮問ニ應ジ防空ニ關スル重要事項ヲ調査審議ス

臣、市町村防空委員會ノ委員ノ定數ハ地方長官之ヲ定ム
前二項ノ定員ノ外必要アルトキハ臨時委員ヲ置クコトヲ得
第六條 中央防空委員會ノ委員及臨時委員ハ内務大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ズ
道府縣防空委員會ノ委員及臨時委員ハ内務大臣之ヲ命ズ
市町村防空委員會ノ委員及臨時委員ハ地方長官之ヲ命ズ
第七條 委員ノ任期ハ四年トス但シ特別ノ事由アル場合ニ於テハ任期中之ヲ解任スルコトヲ妨ゲズ
第八條 會長ハ會務ヲ總理ス
會長事故アルトキハ中央防空委員會ニ在リ

委員會ハ防空ニ關スル重要事項ニ付關係行政廳ニ建議スルコトヲ得

第二條 中央防空委員會ハ内務省ニ之ヲ置ク
道府縣防空委員會ハ道府縣毎ニ、市町村防空委員會ハ防空法第二條ノ規定ニ依リ地方長官ノ指定スル市町村長ノ統轄スル市町村毎ニ之ヲ置キ道府縣又ハ市町村ノ名ヲ冠ス
第三條 委員會ハ會長及委員ヲ以テ組織ス
第四條 中央防空委員會ノ會長ハ内務大臣、道府縣防空委員會ノ會長ハ地方長官、市町村防空委員會ノ會長ハ市町村長ヲ以テ之ニ充ツ
第五條 中央防空委員會ノ委員ハ四十人以内
道府縣防空委員會ノ委員ノ定數ハ内務大

臣、内務大臣ノ指名スル委員、道府縣防空委員會ニ在リテハ地方長官ノ指名スル委員、市町村防空委員會ニ在リテハ市町村長ニ代リ其ノ職務ヲ行フ者會長ノ職務ヲ代理ス
第九條 委員會ニ幹事ヲ置ク中央防空委員會ノ幹事ハ内務大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ジ道府縣防空委員會ノ幹事ハ内務大臣、市町村防空委員會ノ幹事ハ地方長官之ヲ命ズ
幹事ハ會長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス
第十條 委員會ニ書記ヲ置ク中央防空委員會ノ書記ハ内務大臣、道府縣防空委員會ノ書記ハ地方長官、市町村防空委員會ノ書記ハ市町村長之ヲ命ズ
書記ハ會長及幹事ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事

ス

第十一條 中央防空委員會ニ關スル費用ハ國庫、道府縣防空委員會ニ關スル費用ハ道府縣、市町村防空委員會ニ關スル費用ハ市町村ノ負擔トス

第十二條 町村組合ニシテ町村ノ事務ノ全部又ハ役場事務ヲ共同處理スルモノハ本令ノ適用ニ付テハ之ヲ一町村、其ノ組合管理者ハ之ヲ町村長ト看做ス
町村制ヲ施行セザル地ニ於テハ本令中町村ニ關スル規定ハ町村ニ準ズベキモノニ、町村長ニ關スル規定ハ町村長ニ準ズベキ者ニ之ヲ適用ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

防空通信規則

(昭和十三年一月二十八日
逕信省令第九號)

第一條 防空通信ニ關シテハ本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條 防空通信トハ戰時又ハ事變ニ際シ防空ノ實施ニ直接必要ナル電信、電話、無線電信又ハ無線電話ニ依ル通信ニシテ關係陸海軍官憲、關係官公署及之等ノ命ヲ受ケ防空ノ實施ニ從事スル者相互間ニ發受スルモノヲ謂フ

第三條 防空通信ハ左ノ三種トス

- 一 警報 防空警報ヲ防空警報發令官又ハ通信官署ヨリ通報スル通信
- 二 情報 防空監視ノ事務ニ從事ス

ル者ヨリ航空機ノ行動ヲ報告スル通信

三 指揮連絡報 防空機關相互間ニ於ケル指揮及當該指揮ニ對スル措置報告等ニシテ緊急ヲ要スル通信

第四條 警報ハ最先順位ヲ以テ之ヲ取扱フ情報ハ警報ニ次グ先順位ヲ以テ之ヲ取扱フ指揮連絡報ハ至急官報又ハ至急通話ト同一順位ヲ以テ之ヲ取扱フ

第五條 防空電報ハ電報取扱時間ニ拘ラズ之ヲ取扱フ

第六條 電話官署警報又ハ情報ノ取扱上必要アリト認ムルトキハ他ノ通話ヲ中斷スルコトアルベシ

第七條 防空通信ヲ發スル者ハ其ノ請求ノ際第三條ノ種別ヲ申出ヅベシ

第八條 防空通信ハ無料トス

防空通信ノ爲必要ナル加入又ハ専用電話ニ
關スル料金ハ之ヲ特定又ハ免除スルコトア
ルベシ

第九條 公衆通信ヲ取扱ハザル私設又ハ官廳
用ノ電信、電話、無線電信若ハ無線電話ヲ
シテ防空通信ノ取扱ヲ爲サシムルトキハ其
ノ旨ヲ當該施設者ニ通知ス

第十條 防空通信ノ取扱ヲ爲ス私設又ハ官廳
用ノ電信、電話、無線電信若ハ無線電話ハ
其ノ専用通信ニ優先シ防空通信ヲ取扱フベ
シ但シ人命、財産ノ安全ニ關シ緊急ヲ要ス
ル専用通信ハ此ノ限ニ在ラズ

第十一條 第九條ノ通知ヲ受ケタル私設又ハ
官廳用ノ無線電信若ハ無線電話ハ其ノ通信

執務時間ニ拘ラズ防空通信ノ取扱ヲ爲スベ
シ

第十二條 電信法第二條第四號、無線電信法

第二條第三號、官廳用電信電話規程第一條

第四號又ハ官廳用無線電信無線電話規則第

一條第三號ニ依ル施設ニシテ第九條ノ規定

ニ依リ防空通信ノ取扱ヲ爲スモノハ私設電

信私設無線電信公衆通信取扱規則第三條及

第十一條ノ規定ニ拘ラズ託送取扱ヲ爲スコ

トヲ得

第十三條 私設又ハ官廳用ノ電信、電話、無

線電信若ハ無線電話ニ於テ取扱ヒタル防空

通信ニ對シテハ取扱費ヲ支給セズ

第十四條 逓信大臣ハ防空通信上必要アリト

認ムルトキハ私設又ハ官廳用ノ電信、電話

ノ設備ノ變更、使用ノ制限若ハ停止ヲ命ズ
ルコトアルベシ

第十五條 本令ニ規定ナキ事項ハ電信、電話、
無線電信又ハ無線電話ニ關スル一般ノ規定
ニ依ル

第十六條 防空ノ訓練ニ際シ逓信大臣ニ於テ
必要アリト認ムルトキハ別ニ告示スル所ニ
依リ本令ノ規定ヲ準用ス

附則

本令ハ昭和十三年二月十日ヨリ之ヲ施行ス

防空通信取扱規程

(昭和十三年一月二十九日)
(公達第百二十七號)

第一章 總 則

- 第一條 防空通信ニ關シテハ別ニ定ムル場合ヲ除クノ外本規程ニ依リ之ヲ處理スベシ
- 第二條 防空通信ノ取扱ハ正確迅速ヲ旨トシ其ノ取扱上知得シタル事項ハ特ニ秘密ヲ嚴守スベシ
- 第三條 電信局所又ハ電話局所ハ常ニ防空通信關係回線及機器ノ狀態ニ注意シ特ニ警報通信用等ノ特殊裝置ニ付テハ隨時點檢又ハ試験ヲ行フベシ
- 第四條 防空通信ノ取扱ニ關シテハ關係防空機關ト緊密ナル連絡ヲ保持シ其ノ圓滑ナル

疏通ニ遺憾ナキヲ期スベシ

- 第五條 防空通信ハ一般ノ電報又ハ通話ノ取扱時間外ニ於テ全ク其ノ取扱ヲ爲サザル局所ト雖モ出來得ル限り臨機之ヲ取扱フベシ無線電信局所ニシテ電報取扱時間中ニ於テ無線電報ノ取扱ヲ爲サザルモノニ付亦同ジ
- 第六條 警報トシテ取扱フ通信ハ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノトス
 - 一 防空警報發令官ヨリ防空警報下令ノ通知ヲ受ケタル電信局所又ハ電話局所ガ所轄遞信局長ノ定ムル傳達系統ニ從ヒ他ノ電信局所又ハ電話局所ニ當該防空警報ヲ傳達スル電報又ハ通話
 - 二 防空警報發令官ヨリ防空機關ニ對シ防空警報ノ下令ヲ通告スル通話

- 三 防空警報ヲ入手シタル電信局所又ハ電話局所ヨリ第十三條ノ規定ニ依ル警報受領者ニ對シ當該防空警報ヲ傳達スル通話其ノ他ノ通知

第七條 警報ヲ分チテ左ノ四種トス

- 一 警戒警報 敵航空機ノ來襲ノ虞アル場合發スルモノ
- 二 警戒警報解除 敵航空機ノ來襲ノ虞ナキニ至リタル場合發スルモノ
- 三 空襲警報 敵航空機ノ來襲ノ危険アル場合發スルモノ
- 四 空襲警報解除 敵航空機ノ來襲ノ危険ナキニ至リタル場合發スルモノ

第八條 情報トシテ取扱フ通信ハ航空機ヲ發見シタル場合ニ於テ防空監視ノ事務ニ從事

スル者ヨリ上級防空機關ニ對シ又ハ第十四條ノ規定ニ依ル局所ヨリ防空機關ニ對シ當該發見所名若ハ發見位置、發見時刻、進行方向、機種、機數等ヲ通報スル電報又ハ通話トス

第九條 指揮連絡報トシテ取扱フ通信ハ防空

ノ爲ニスル用兵作戰、燈火管制、監視、消防、防毒、避難又ハ救護ニ關シ防空機關ノ指揮及當該指揮ニ對スル措置報告ノ爲發スル電報又ハ通話並特ニ防空實施上緊急ヲ要スル戰況被害狀況及氣象ヲ通報スル電報又ハ通話トス

第十條 警報傳達系統ハ所轄遞信局長ニ於テ

豫メ之ヲ決定シ關係電信局所又ハ電話局所ニ傳達スベシ此ノ場合ニ於テ當該傳達系統

中ニ他ノ通信局管内ノ電信局所又ハ電話局所ヲ含マシムル必要アルトキハ關係通信局長ニ協議ノ上之ヲ決定スベシ

第十一條 電信局所又ハ電話局所防空警報發令官ヨリ防空警報下令ノ通知ヲ受ケタルトキハ直ニ左ノ區別ニ依ル略號ヲ以テ適宜ノ用紙ニ之ヲ書取リ反復校正シタル上領諾ノ旨ヲ告ゲ受領時刻及當務者名ヲ記載シ直ニ警報傳達系統ニ依リ之ヲ傳達スベシ

略號

警戒警報

ケハ

警戒警報解除

ケカ

空襲警報

クハ

空襲警報解除

クカ

前項ノ場合ニ於テ警報發令區域ヲ冠稱シ來

リタルトキハ其ノ區域名略號ヲ冠記スベシ

第十二條 警報發令區域名ノ略號ハ所轄通信局長ニ於テ豫メ之ヲ決定シ關係電信局所又ハ電話局所ニ傳達スベシ此ノ場合當該區域ガ二以上ノ通信局管内ニ渉ルモノニ付テハ關係通信局長協議ノ上之ヲ決定スベシ

第十三條 電信局所又ハ電話局所警報ヲ入手シタルトキハ警報受領者ニ對シ當該警報ヲ電話其ノ他便宜ノ方法ニ依リ速報スベシ前項ノ警報受領者ハ當該電信局所長又ハ電話局所長ニ於テ重要ナル防空機關又ハ之ニ準ズル者ノ申出ヲ俟テ豫メ決定シ置クベシ第十四條 海岸局及航空局竝ニ特ニ指定スル電信局所及電話局所ニ於テ敵航空機ヲ發見シタルトキハ第八條ニ定ムル通報事項ヲ防

空機關ニ速報スベシ

前項ノ防空機關名及通知方法 電信、電話、無線電話ニ依ル所轄通信局長ニ於テ關係局所別ニ豫メ之ヲ決定シ當該局所ニ傳達スベシ

第十五條 遞信局長私設又ハ官廳用ノ電信、電話、無線電信若ハ無線電話ヲシテ防空通信ヲ取扱ハシムルノ要アリト認ムルトキハ遞信大臣ノ名ニ於テ之ヲ防空通信ニ供用スベシ

此ノ場合ニ於テハ其ノ要旨ヲ遞信大臣ニ報告スベシ

第十六條 遞信局長前條ニ依リ私設又ハ官廳用ノ電信、電話、無線電信若ハ無線電話ヲ防空通信ニ供用シタル場合ハ左ノ區別ニ依

リ當該施設者ニ對シ事業用品ヲ交付スベシ但シ當該遞信局長ニ於テ其ノ要ナシト認ムル場合ハ其ノ全部又ハ一部ノ交付ヲ省略スルヲ妨グズ

物品

一 防空電報ヲ取扱フ者ニ對シ交付スベキ 賴信紙(和文)、中繼紙(和文)、著送紙(和文)、黑色炭酸紙、遞信法規類纂(電信編上卷)及同訂正書

二 防空通話ヲ取扱フ者ニ對シ交付スベキ 物品

通話券、呼出券、呼出證、交換證、前納通話券、遞信法規類纂(電話編)及同訂正書

第十七條 遞信局長ニ於テ防空通信上必要ト

認ムル場合逓信大臣ノ指令ヲ俟ツ違ナキト
キハ逓信大臣ノ名ニ於テ其ノ管内ニ在ル私
設又ハ官廳用ノ電信、電話、無線電信若ハ
無線電話ノ設備ノ變更、使用ノ制限若ハ停
止ヲ命ズルコトヲ得
前項ノ措置狀況ハ直ニ逓信大臣ニ之ヲ報告
スベシ

第十八條 防空通信關係電報原書、通話券、
交換證、呼出券、呼出證及前納通話券ハ適
宜整理シ三箇月間當該電信局所又ハ電話局
所ニ之ヲ保存スベシ

第十九條 防空通信取扱所 防空通信規則第九
ノミヲ取扱フ電信局所又ニ依リ防空通信
ハ電話局所トス以下全ジニ於テハ特ニ指示
スル場合ヲ除クノ外電報及通話ニ關スル一
般ノ規定ニ依ル通信日附印ノ使用及統計其

ノ他ノ報告ヲ要セズ

第二十條 防空通信ノ取扱上事故アリタルト

キハ關係式紙ニ其ノ事由ヲ記載シ置クベシ

第二十一條 本規程ニ明文ナキ事項ハ一般公
衆通信取扱ノ例ニ依リ之ヲ處理スベシ

第二章 防空電報

第一節 電信又ハ電話ニ依ル取扱

第二十二條 防空電報ハ左ノ順位ニヨリ又一
般電報ト混交スルトキハ下記ノ區別ニ依リ
之ヲ送達スベシ

一 警 報 一切ノ電報ニ優先ス

二 情 報 非常電報及緊急軍事官報

ニ優先ス

三 指揮連絡報 至急官報ト同順位トス

第二十三條 情報及指揮連絡報ノ種類ハ左ノ

略號ヲ以テ之ヲ記載スベシ

略號

情 報

ゼウ

指揮連絡報

シキ

第二十四條 防空電報ノ送信時刻、受信時刻
及當務者名ハ當該式紙ニ相當欄ナキ場合ト
雖其ノ餘白ニ之ヲ記載スベシ

第二十五條 防空電報ニ付テハ特ニ指示スル
場合ヲ除クノ外件名表ノ使用竝通過番號及
著信番號ノ記載ヲ省略スベシ

第二十六條 防空通信取扱所ニ於テハ情報及
指揮連絡報ノ著信局所ノ指定ヲ省略スベシ
防空通信取扱所ヨリ前項ノ電報ヲ直接受信
シタル電信局所 防空通信取
扱所ヲ除クニ於テハ其ノ著
信局所名ヲ記載スベシ

第二十七條 防空通信取扱所ニ發著スル局報

ハ當該取扱所ト直接通信ヲ爲ス電信局所
防空通信取扱所ニ於テ當該取扱所ニ代リ之ヲ處
理スベシ但シ當該局報ニ用ウベキ發信局所
名ハ當該防空通信取扱所名ヲ使用スベシ

第二十八條 電信機ニ依リ警報ヲ同時送信セ
ントスルトキハ同時喚呼符號ニ代ヘ警報
前置符號

ヲ三回連送シテ關係局所ヲ同時ニ喚呼シタ
ル後其ノ應答ヲ待タズ直ニ本文ヲ凡ソ五回
緩送シ、又一局所ノミニ警報ヲ送信セント
スルトキハ當該局所ヲ喚呼シタル後其ノ應
答ヲ待チ、「可受」ノ符號ニ代ヘ警報前置符
號ヲ送り直ニ本文ヲ二回送信スベシ
前項ノ場合ニ於テ自局所ガ通信中ナルトキ

ハ直ニ之ヲ中止シ、他局所ガ通信中又ハ喚呼中ナルトキハ直ニ其ノ通信又ハ喚呼ヲ遮止シ警報前置符號ヲ送り自局所ニ警報アルコトヲ知ラシムベシ

通信中又ハ喚呼中ノ局所ニ於テ前項ノ警報前置符號ヲ感知シタルトキハ直ニ其ノ通信又ハ喚呼ヲ中止スベシ

第二十九條 電話機ニ依リ警報ヲ同時送信セントスルトキハ同時喚呼信號ニ代ヘ警報信號——ヲ二回送出シテ關係局所ヲ同時ニ呼出シタル後其ノ應答ヲ待テ本文ヲ普通辭ノ稱呼ヲ以テ二回送信シ、又一局所ノミニ警報ヲ送信セントスルトキハ當該局所ヲ呼出シ其ノ應答ヲ待テ直ニ本文ヲ普通辭ノ稱呼ヲ以テ二回送信スベシ

長ニ於テ各回線別ニ豫メ之ヲ決定シ警報傳達系統ニ併セ關係局所ニ通達スベシ此ノ場合關係回線中ニ他ノ遞信局管内ノ局所アルトキハ關係遞信局長ニ協議ノ上之ヲ決定スベシ

第三十二條 電報賴信紙其ノ他ノ用紙ニ「情報」ト記載シ又ハ其ノ旨申出デ差出シタル電報ハ第八條ニ該當スルモノナルヤヲ調査シ之ニ該當スト認ムルモノニ限り領諾ノ旨ヲ告グ著信局所名、種類及受付時刻ヲ記載スベシ

第三十三條 情報ヲ送信セントスルトキハ對手局所ヲ喚呼シ其ノ應答ヲ待テ、「可受」ノ符號ニ代ヘ情報符號——————————ヲ送り直ニ著信局所名、種類、名宛及本文

前項ノ場合ニ於テ自局所ガ通信中ナルトキハ直ニ之ヲ中止シ、他局所ガ通信中又ハ呼出中ナルトキハ直ニ其ノ通信又ハ呼出ヲ遮止シ警報信號ヲ送り自局所ニ警報アルコトヲ知ラシムベシ

通信中又ハ呼出中ノ局所ニ於テ前項ノ警報信號ヲ感知シタルトキハ直ニ其ノ通信又ハ呼出ヲ中止スベシ

第三十條 警報ハ適宜ノ用紙ニ之ヲ受信シ直ニ警報監査局ニ對シ受信證及自局所ノ呼出略號電話機ニ依ル場ヲ送出スベシ
合ハ自局所名
警報監査局前項ノ規定ニ依ル受信證ノ送出手ナキ局所アルトキハ該局所ヲ喚呼シ當該警報ヲ送信スベシ

第三十一條 前條ノ警報監査局ハ所轄遞信局ヲ送信スベシ
前項ノ場合ニ於テ自局所ガ通信中ナルトキハ直ニ之ヲ中止シ、他局所ガ通信中又ハ喚呼中ナルトキハ直ニ其ノ通信又ハ喚呼ヲ遮止シ情報符號ヲ送り「情報」ト二回稱呼スベシ

自局所ニ情報アルコトヲ知ラシムベシ
通信中又ハ喚呼中ノ局所ニ於テ前項ノ情報符號ヲ感知シタルトキハ直ニ其ノ通信又ハ喚呼ヲ中止スベシ

第三十四條 電報賴信紙餘白ニ「指揮連絡報」ト記載シ又ハ其ノ旨申出デ差出シタル電報ハ第九條ニ該當スルモノナルヤヲ調査シ之ニ該當スト認ムルモノニ限り領諾ノ旨ヲ告グ著信局所名、種類及受付時刻ヲ記載スベシ

第三十五條 指揮連絡報ハ著信局所名、種類發信局所名宛、及本文ヲ送信スベシ

第二節 無線電信又ハ無線電話ニ依ル取扱

第三十六條 無線局ニ於テ防空通信符號

發信ヲ感受シタルトキハ船舶又ハ航空機遭難ヲ除クノ外之ヲ妨害スル虞アル發振ヲ見合スベシ

第三十七條 防空電報ノ速達上必要アリト認

ムルトキ又ハ已ムヲ得ザル事由アルトキハ本規程ニ拘ラズ有效ト認ムル電力並電波ノ型式及周波數ヲ使用スルヲ妨グズ

第三十八條 警報又ハ情報ヲ送信セントスル場合必要アリト認ムルトキハ畧符號「QR

「T」及防空通信符號ヲ送り他ノ無線通信ヲ停止セシムルコトヲ得但シ船舶又ハ航空機遭難通信ヲ停止セシムルコトヲ得ズ

第三十九條 陸上局ニ於テ警報ヲ入手シタルトキハ海岸局ニ在リテハA二電波五〇〇kc 漁船ニ設置シタル船舶局ヲ對手トスルモノニ在リテハA二電波、一三六四kc 航空局ニ在リテハA二電波三三三kcノ周波數ヲ以テ自局通信圈ニアル移動局ニ對シ左ノ順序ニ從ヒ沈黙時間中ト雖直ニ之ヲ放送シ爾後適宜之ヲ再放送スベシ

- 一 防空通信符號 三回
- 二 自局名前置符號 一回
- 三 自局呼出符號 三回
- 四 本文符號 一回
- 五 本文 普通辭ニ依ル 二回

陸上無線電信電話ニ於テ特定ノ無線電信無

線電話ニ對シ特ニ警報傳達ノ要アリト認ムルトキハ緊急符號ヲ冠シ該無線電信無線電話ヲ呼出シ其ノ應答ヲ待チ一般ノ例ニ依リ當該警報ヲ送信スベシ

第四十條 移動局ニ於テ前條ノ呼出ヲ感知シ

タルトキハ該警報ヲ受信シ直ニ送話管、電話其ノ他適宜ノ方法ニ依リ船長、機長又ハ相當責任者ニ又ヲ通知スベシ

空襲警報ヲ受信シタルトキハ空襲警報解除ヲ受信スル迄成ルベク無休ニ聽守スベシ

第四十一條 移動局電報賴信紙其ノ他ノ用紙ノ餘白ニ「情報」ト記載シ又ハ其ノ旨申出デ差出シタル電報アルトキハ第八條ニ該當スルモノナルヤヲ調査シ之ニ該當スト認ムル

モノニ限リ領諾ノ旨ヲ告グベシ

第四十二條 移動局前條ニ依リ情報ヲ受付ケ

タルトキハ直ニ船舶局ニ在リテハA二又ハB電波五〇〇kc 漁船ニ設置シタル船舶局ニ在リテハA二又ハB電波一三六四kc 航空機局ニ在リテハA二又ハB電波三三三kcノ周波數ニ依リ防空通信符號ヲ冠シ陸上局ヲ呼出シ其ノ應答ヲ待チ左ノ順序ニ依リ之ヲ送信スベシ

- 一 對手呼出符號 一回
- 二 自局名前置符號 一回
- 三 自局呼出符號 一回
- 四 本文符號 一回
- 五 情報 二回

第四十三條 陸上局ニ於テ前條ノ情報ヲ受信シタルトキハ第十四條ニ定ムル防空機關ニ

之ヲ速報スベシ

前項ノ通報ニシテ電報ニ依ルモノハ著信局所名、種類及受付時刻ヲ記載シ第三十三條ニ依リ、通話ニ依ルモノハ情報通話ノ例ニ依リ、又無線電信又ハ無線電話ニ依リ防空機關ニ直接通報スルモノハ前條ノ例ニ依リ之ヲ送達スベシ此ノ場合ニ於テハ當該式紙ノ餘白ニ該情報ヲ發信シタル船舶又ハ航空機ノ名稱ヲ記載シ置クベシ

第四十四條 普通辭ヲ以テ記載シタル指揮連絡報ヲ無線電信又ハ無線電話ニ依リ送信スルトキハ其ノ本文ノ末尾ノ文字ヨリ逆ニ送信スベシ

前項ノ電報ハ其ノ本文ヲ繕書シタル上配達、交付又ハ有線電信系上若ハ有線電話系

ノ規定ハ無線電信又ハ無線電話ニ依リ取扱フ其ノ他ノ防空電報ニ付之ヲ準用ス

第四十八條 本節ノ規定ハ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外海軍艦船、海軍通信隊、防備衛所又ハ望樓ト無線局トノ間ノ無線電信ニ依ル防空通信ニ付之ヲ準用ス

第三章 防空通話

第一節 電話ニ依ル取扱

第四十九條 防空通話ハ左ノ順位ニ依リ又一般通話ト混交スルトキハ下記ノ區別ニ依リ之ヲ取扱フベシ

- 一 警 報 一切ノ通話ニ優先ス
- 二 情 報 豫約通話ニ優先ス
- 三 指揮連絡報 至急通話及夜間至急通話ト同順位トス

上ノ傳送ヲ爲スベシ

第四十五條 移動局ニ於テ指揮連絡報ヲ受信シタルトキハ直ニ船長、機長又ハ相當責任者ニ之ヲ交付スベシ

第四十六條 無線方位測定機ヲ有スル無線局ニ於テ敵航空機ノ無線電信又ハ無線電話ノ發振ヲ感受シタルトキハ直ニ其ノ方位ヲ測定シ移動局ニ在リテハ陸上局へ、陸上局ニ在リテハ第十四條ニ定ムル防空機關ニ之ヲ速報スル等機宜ノ措置ヲ講ズベシ

前項ノ通報ハ情報ニ準ジ之ヲ取扱フベシ

第四十七條 第二十二條乃至第二十七條、第三十三條及第三十五條ノ規定ハ艦船又ハ航空機ニ發著スル防空電報ニ、第二十二條乃至第二十七條及第三十二條乃至第三十五條

第五十條 防空通話ノ請求ヲ受ケタルトキハ

其ノ種別ヲ確メタル上關係交換證又ハ通話券ノ相當欄ニ左ノ略號ニ依リ其ノ種別ヲ記入スベシ

- 一 警 報 略號
- 二 情 報 ケイ
- 三 指揮連絡報 ゼウ

第五十一條 防空通話ノ請求ヲ受付ケタルトキハ左ノ區別ニ從ヒ後位局ニ之ヲ通報スベシ

- 一 警 報 警報何局何番
 - 二 情 報 情報何局何番
 - 三 指揮連絡報 指揮連絡報何局何番
- 第五十二條 警報又ハ情報ハ機械設備上其ノ

他已ムヲ得ザル場合ヲ除クノ外直通接続ノ取扱ヲ爲スベシ

第五十三條 防空通話ヲ接続セントスルトキハ先ヅ防空通話ナル旨ヲ告ゲタル上其ノ接続ヲ爲スベシ

第五十四條 警報ノ取扱ニ際シ關係回線又ハ關係電話ヲ警報以外ノ通話ニ使用中ナルトキハ當該通話者ニ防空警報アル旨ヲ告ゲ其ノ接続ヲ中斷スベシ

第五十五條 情報ノ取扱ニ際シ關係回線又ハ關係電話ヲ警報若ハ情報以外ノ通話ニ使用中ナルトキハ當該通話者ニ防空情報アル旨ヲ告ゲ其ノ接続ヲ中斷スベシ

第五十六條 前二條ノ規定ニ依リ中斷シタル通話ハ機械設備上已ムヲ得ザル場合ヲ除ク

第五十九條 電話局所前條ニ依ル警報ノ傳達ヲ受ケタルトキハ第十一條ノ例ニ依リ適宜ノ用紙ニ之ヲ書取リ反復校正シタル上領諾ノ旨ヲ告グベシ

第六十條 防空通話ノ爲ニスル呼出ハ總テ無料トシ左ニ依ルノ外無料呼出ノ例ニ準ジ之ヲ處理スベシ

一 無料呼出ノ請求ヲ受ケタルトキハ防空通信發受信資格者相互間ニ於ケル呼出ナルコトヲ確メタル上之ヲ受付クルコト

二 無料前納通話券ニ依リ通話ノ請求ヲ受ケタルトキハ被呼者ガ呼出請求者トノ間ニ通話スルモノナル場合ニ限り之ヲ取扱フコト

第二節 無線電話ニ依ル取扱

ノ外當該防空通話終了後速ニ再ビ接続シ通話時數ハ中斷前後ヲ通算シテ之ヲ決定シ關係交換證ノ備考欄又ハ關係通話券ノ郵便切手貼付欄ニ中斷及再開時刻ヲ適宜記入シ置クベシ

豫約通話、定時通話又ハ國際通話ヲ中斷シタル場合ハ前項ノ規定ニ拘ラズ回線障得ノ例ニ依リ之ヲ處理スベシ

第五十七條 防空通話ニ關シテハ一通話時終了毎ニ爲スベキ通話時數ノ注意ハ之ヲ省略スベシ

第五十八條 電話ニ依リ第六條第一號ノ警報ヲ傳達スル場合ハ關係電話局所ヲ呼出シタル上當該警報ヲ普通辭ノ稱呼ヲ以テ二回通報スベシ

第六十一條 防空船舶通話ハ左ノ順位ニ依リ又一般船舶通話ト混交スルトキハ下記ノ區別ニ依リ之ヲ取扱フベシ

一 警報 船舶遭難通話ト同順位トス

二 情報 船舶緊急通話及船舶安全通話 船舶無線電話通話規則ニ優先ス

三 指揮連絡報 至急通話ト同順位トス

第六十二條 第三十六條乃至第四十條、第四十三條、第四十六條及第五十條乃至第六十條ノ規定ハ防空船舶通話ニ付之ヲ準用ス

第六十三條 無線電話局所ニ於テ無線電話ニ依リ取扱フ防空通話ニシテ防空船舶通話ニアラザルモノ、取扱ニ關シテハ第三十六條乃至第三十八條及前節ノ規定ヲ準用ス

第四章 加入電話及専用電話ニ關スル料金

第六十四條 防空監視哨ニ臨時ニ設置スル電話ノ加入申込又ハ電話ノ加入ニ付テハ電話線設備料ハ之ヲ免除スベシ

第六十五條 防空機關相互間ニ於テ防空通信ノ用ニ供スル爲臨時ニ施設スル市内専用電話ニ付テハ回線設備料及機械設備料ハ之ヲ免除スベシ防空機關ヲ一方ノ電話機設置場所トスルモノト雖所轄遞信局長ニ於テ防空通信ノ専用ニ供スルモノト認ムルモノニ付亦同シ

第六十六條 防空通信ノ用ニ供スル爲施設スル市外電話回線ノ専用ニ關スル料金ハ別ニ通牒スル所ニ依ルベシ

第五章 防空訓練通信

第六十七條 防空通信規則第十六條ニ依リ防空ノ訓練ニ際シ防空通信規則ヲ準用スル場合ハ第十七條、第五十四條乃至第五十六條及第六十四條ヲ除クノ外本規定ヲ準用ス

第六十八條 遞信局長防空ノ訓練ニ關シ當該防空訓練ヲ主宰スル防空機關ヨリ之ガ實施ニ關シ協議ヲ受ケタルトキハ當該訓練ノ實施期間、實施區域及計畫概要並防空通信規則準用ノ要否ニ關スル意見ヲ速ニ遞信大臣ニ報告スベシ

附則

本公達ハ昭和十三年二月十日ヨリ之ヲ施行ス

防空通信取扱ニ關スル件

(昭和十三年一月二十九日 通牒電業第一二四號)

今般省令第九號ヲ以テ防空通信規則、公達第百二十七號ヲ以テ防空通信取扱規程制定セラレ二月十日ヨリ實施ノコトニ別途公布相成候處右ハ防空ノ重大性ニ鑑ミ之ガ實施上必要ナル通信ノ疏通ヲ一層迅速圓滑ナラシメ以テ國土防衛ニ違算ナキヲ期セントスル趣旨ニ有之候ニ付テハ左記事項諒知ノ上關係規定ニ付充分研究相成取扱上遺漏ナキヲ期セラレ度 追テ本省令及公達ノ實施ニ依リ之ニ牴觸スル從來ノ通牒等ハ自然消滅ノ義ト諒知相成度

第一 一般的事項

一 防空通信ハ警報、情報及指揮連絡報ノ三種トシ戰時又ハ事變ニ際シ防空機關相互間ニ發受スルモノニ限定セララルモノニシテ防空機關ニ非ザル一般公衆ハ防空通信ノ請求ヲ爲シ得ザルモノナルコト

二 防空通信規則 以下規則 及防空通信取扱規程 以下規程ニ於テ防空機關トハ左ノ機關ヲ指稱スルモノナルコト

(イ)陸軍關係 陸軍省、參謀本部、防衛司令部、師團司令部、要塞司令部、地區防衛隊司令部、防空監視隊本部、防空監視哨、防空戰鬥部隊

(ロ)海軍關係

海軍省、軍令部、鎮守府、要港部、海兵團、航空隊、海軍通信隊、防備隊、防備衛所、望樓、海軍港務部、對空見張所、海軍艦船

(ハ)内務省關係

内務省、道府縣廳、警察署(駐在所及派出所ヲ含ム)、消防署、防空監視隊本部、防空監視哨、防空法第三條ニ依ル防空計畫設定者、市區町村役場

(ニ)其ノ他

官廳、無線電信機ヲ裝置スル船舶又ハ航空機

三 規則及規程ニ於テ防空警報發令官トハ當該防空實施區域ノ防衛ヲ擔任スル防衛司令官、師團長、要塞司令官、鎮守府司令長官

警報受領者ニ於テ受報者ヲ窓口ニ派遣セシムル等特殊ノ事情アルモノヲ除クノ外配達ニ依ル傳達ヲ爲サザルコト

八 規程第五條ノ局所ニ於ケル時間外取扱ニ付テハ之ガ爲特ニ服務時間ノ延伸等ヲ要スル義ニ非ザルモ防空通信ノ重要性ニ鑑ミ出來得ル限り之ガ取扱ニ應ズル趣旨ナルコト

九 電信局所又ハ電話局所ニ於テ當該通信ノ一部ガ防空通信ノ範圍ヲ逸脱スルヤニ認ムル場合ハ一應其ノ取扱ヲ了シ事後當該防空機關ニ之ヲ注意スルト共ニ必要アル場合ハ所轄通信局長ニ其ノ要旨ヲ報告スルコト

十 防空通信ハ深夜又ハ晝間繁忙時等ニ於テ突如發信セラル、場合アルベキニ付人員配置及服務方法ニ關シ特ニ配意シ取扱上齟齬

要港部司令官及之等ノ指定スル者ヲ指稱スルモノナルコト

四 警報傳達系統ハ電信回線ニ依ルヲ原則トシ電信回線ニ依ル連絡ナキ場合又ハ電信電話共用線ニ依ル場合ハ電話回線ニ依ル方針ヲ以テ之ヲ設定スルコト

五 警報ノ傳達ニ付テハ可及的同時送信ヲ爲シ得ル様特殊裝置ヲ爲スコトニ考究スルコト

六 警報受領者ハ軍衙、道府縣廳、市區町村役場、警察署ヲ除クノ外ハ事務上支障ナキ範圍ニ於テ其ノ申出ヲ受理決定シ必要ニ應ジ之ガ傳達順位ヲ豫メ定メ置クコト

七 警報受領者ニ對スル警報傳達ノ方法ハ電話ニ依ルヲ原則トシ之ニ依リ得ザルモノハ

ナキヲ期スルコト

十一 警察事務ノ専用ニ供スル爲施設シタル官廳用ノ電信、電話、無線電信又ハ無線電話ハ警察官意相互間ニ發受スル防空ノ實施上必要ナル通信ヲ當然爲シ得ル義ニ付此限度ニ於テハ規則第九條ニ依ル供用ヲ爲スノ要ナキコト

尙私設又ハ官廳用ノ無線電信中船舶無線電話ト交信ノ目的ヲ以テ陸上ニ施設シタルモノ又ハ船舶若ハ航空機ニ施設シタルモノニシテ現ニ公衆通信ニ供用シ居ラザルモノハ全部之ヲ防空通信ニ供用スルコト

十二 防空通信取扱所ニ對シ交付スベキ事業用物品ハ一應規定ニ例示シタルモ當該取扱所ノ實情ニ應ジ適宜之ヲ省略スルモ支ナキ

コト

十三 防空通信取扱所ニ對シテハ成ルベク所轄通信局ニ於テ防空通信ノ取扱ニ關スル平易ナル解説書様ノモノヲ作成配布シ其ノ取扱ニ齟齬ナカラシムルコト

十四 防空通信關係書類ハ整理後三ヶ月間自局所ニ保存スルモノナルガ右期間ヲ經過シタルモノハ物品ニ關スル一般規定ニ依リ處理スルコト

十五 規程第十四條ニ依ル局所ノ防空監視ハ義務的ニ非ザルモ事務上支障ナキ範圍ニ於テ成ルベク敵機ノ來襲ニ注意シ若シ敵機又ハ敵機ノ疑アル航空機ヲ發見シタルトキハ直ニ所定ノ防空機關ニ之ヲ通報スルコト

十六 規程ニ於テ無線局、陸上局、海岸局、

二 防空通信取扱所ト直接連絡ヲ爲ス一般接

續局所ニ於テハ左ノ方法ニ依ルコト

(イ)取扱所發信防空電報ニ對シ其ノ著信局所名ヲ指定スルコト

(ロ)取扱所ニ發著スル局報ハ當該取扱所ニ代リ照復シ自局原書トシテ之ヲ處理スルコト此ノ場合發受信人ニ通知ヲ要シ又ハ電報原書ニ校正若ハ補足等ヲ要スル場合ハ其ノ要旨ヲ取扱所ニ通知スルコト

(ハ)前各號ノ外取扱所ニ於ケル電報取扱方ニ付テハ必要ニ應ジ之ヲ指揮スルコト

三 警報ハ隨時發令セララルモノナルニ付警報送來回線ニ對スル人員配置ニハ特ニ留意シ苟モ其ノ受信ヲ洩スガ如キコトナキ様充分配意スルコト

航空局、移動局、船舶局又ハ航空機局ト指稱セル局中ニハ既設局ノ外規則第九條ニ依ル防空通信取扱所ニ特ニ告示ヲ省略ヲモ含ム義ナルコト

十七 防空通信ニ關シ規則、規程其ノ他ニ依リ通信局長ニ於テ專決シタル事項並防空通信ノ利用狀況及警報傳達ノ實況等ハ通信局ニ於テ適宜之ヲ取纏メ當分ノ内其ノ都度電務局ニ報告スルコト

第二 防空電報

一 防空電報ハ當分ノ内和文電報ノミ取扱フモノナルニ付私設又ハ官廳用ノ電信、電話無線電信若ハ無線電話ヲ防空通信ニ供用スル場合交付スル物品ハ和文電報關係ノモノニ限リタルコト

四 警報監査局ニ指定セラレタル局所ハ特ニ

警報ノ送來ニ注意シ受信證ノ送出ナキ局所ニ對シテハ直ニ送信方取計ヒ可速的ニ全局所ヘノ傳達ヲ全カラシムル様配意スルコト

五 情報及指揮連絡報ノ取扱ニ方リテハ他ノ電報トノ送達順位ノ識別ヲ容易ナラシムル爲適宜ノ方法ヲ講ジ取扱上齟齬ヲ生ゼシメザル様特ニ配意スルコト

六 指揮連絡報ハ至急官報ト同順位ノ外國電報及外國無線電報トモ當然同順位ナルコト

七 海岸局又ハ航空局ニ於テ警報ヲ入手シタルトキハ其ノ圈内ニ在ル船舶局又ハ航空機局ニ對シ最大電力ヲ以テ之ヲ放送シ(此ノ場合本文略號ハ之ヲ普通辭ニ翻譯シ放送スルモノトス)必要アラバ爾後數回反復放送

スル等其ノ周知ニ付テ特ニ配意スルコト

八 船舶局及航空機局ハ警報ノ放送ニ最善ノ注意ヲ拂ヒ其受信ニ努ムルコト

九 警報ハ海岸局又ハ航空局ヨリ放送セララルノミナラズ時トシテ軍艦ヨリ通報セララル場合アルベキニ付注意スルコト

十 防空情報通信規約(昭和十二年九月一日附無電第二七〇七號通牒)中通信方法ニ關スル第三條以下ノ規定ハ規則及規程ノ實施ト共ニ之ヲ廢止セララルベキコト

第三 防空通話

一 防空市外通話ヲ利用スベキ區間及其ノ電話番號ハ通信局ニ於テ防空機關ト協議シ成ルベク之ヲ特定セシムルコト

二 警報通話ヲ請求シ得ルモノハ防空警報發

接續スルコト

七 規則第八條第一項ノ規定ハ度數料ノ徵收ニ影響ナキコト

八 防空通話ノ爲ノ呼出ハ無料呼出ハ無料呼出ノ例ニ準ジ處理スルモ其ノ取扱範圍ハ同一加入區域内ニ限定セララルモノニハ非ザルコト(無料電話規程第八條第二號參照)

九 指揮連絡報ハ國際通話ニ優先セザルコト
十 無線電話ニ依ル防空通話ニハ出來得ル限リ秘話裝置ヲ使用スルコト

第四 防空訓練通信

一 防空訓練通信ニ對シ規則及規程ヲ準用スル場合ハ大體ニ於テ道府縣以上ノ地域ニ互リ訓練ヲ實施スル場合又ハ之ニ準ズル大規模ノ訓練ニ限ルコトトシ其ノ都度之ヲ告示

令官ニ限ルモノナルコト

三 通話局ニ於テ防空通話ノ請求ヲ受ケタルトキハ正當發信資格者ナルコトヲ確メタル上受付クルコト

四 度數料金制施行地ノ市内通話ヲ警報又ハ情報取扱上ノ必要ニ依リ中斷シタルトキ之ヲ再接續スルコト困難ナル場合ハ電話規則第五十三條第三號ニ準ジ當該中斷通話ヲ課金通話度數中ニ算入セザルコト

五 公衆電話所發信ノ市内通話ヲ中斷シタル場合ハ適宜ノ用紙ニ中斷及再開始時刻ヲ記錄シ置クコト

六 中斷シタル通話ニシテ機械設備上再接續シ得ザリシモノト雖後刻關係通話者ノ申出ニ依リ中斷ノ事實ヲ確認シ得タルモノハ再

スル方針ナルコト

訓練防空警報規則

(昭和十三年四月五日)
内務省令第十二號

防空法第十條第一項ノ規定ニ依ル防空ノ訓練ヲ爲ス場合ニ於テ發スル訓練防空警報ハ防空警報ノ区分ニ準ジ訓練警戒警報、訓練警戒警報解除、訓練空襲警報及訓練空襲警報解除トス

訓練防空警報ヲ發スベキ者ハ防空訓練ノ都度内務大臣之ヲ指定ス

前項ノ指定ナキ場合ニ於テハ防空法施行令第七條ノ陸海軍司令官又ハ其ノ指定スル者ノ發スル訓練防空警報ヲ以テ第一項ノ訓練防空警報トス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

防空警報傳達信號ノ統一 ニ關スル件

(昭和十三年六月二十日)
計第五一三五號
内務省計畫局長ヨリ
各地方長官宛依命通牒

防空警報信號ハ從來各廳府縣區々ナル向アリテ警報傳達上支障アルヲ以テ取り敢ヘズ空襲警報及空襲警報解除ノ信號ニ付キ統一致度候ニ付テハ左記ニ依リ信號制定相成一般ニ之ガ周知方御配意相成度此段依命及通牒候也

記

一 空襲警報ヲ號報器、電灯點滅、煙火又ハ警鐘ニ依リ傳達スル場合ノ信號ハ左ノ各號ニ依ルコト

- (一) 號報器ニ依ル場合ハ三秒ヲ間シ六秒宛十回(急發急止ノ裝置ナキモノニ在リテハ數秒宛斷續十回)吹鳴ス
 - (二) 電灯點滅ニ依ル場合ハ數秒ヲ間シ五回以上點滅ス
 - (三) 煙火ニ依ル場合ハ打上煙火四爆音トス
 - (四) 警鐘ニ依ル場合ハ一點ト四點班打(〇〇〇〇〇〇)トス
- 二 空襲警報解除ヲ號報器又ハ警鐘ニ依リ傳達スル場合ノ信號ハ左ノ各號ニ依ルコト
- (一) 號報器ニ依ル場合ハ一分間吹鳴ス
 - (二) 警鐘ニ依ル場合ハ鎮火信號
- (昭和十一年七月十一日)
(發警第三八號警保局長通牒) (鎮火信號ハ一點ト二點班打(〇〇〇〇)ヲ以テ之ニ充ツ

三 訓練空襲警報及訓練空襲警報解除ノ信號
ハ前二號ニ準ズルコト

海上ニ對スル防空警報傳
達信號ノ統一ニ關スル件

昭和十四年二月二十三日
内務省發令第九號
内務省計畫局長ヨリ各地
方長官宛依命通牒

海上ニ對スル防空警報ノ傳達方法及其ノ信號
ハ從來各廳府縣區々ナル向アリテ警報傳達上
支障アルヲ以テ取敢ヘズ夜間掲燈ヲ用フル場
合ノ信號方法及信號燈ノ施設ニ付左記ノ通り
統一致候ニ付テハ之ガ設置及周知方ニ關シ格
段ノ御配意相煩度此段依命及通牒候也
追而信號燈ノ數及配置箇所ニ付テハ關係陸
海軍司令官ト協議ノ上統制スル様御配意相
成度

記

- 海上ニアル船舶、漁船等ニ對シ防空警報ヲ傳
達スル爲メ掲燈ヲ用フル場合ノ信號方法及施
設ニ關シテハ左ノ各號ニ依ルコト
- 一 信號方法
 - 1 警戒警報發令ト同時ニ赤色燈三箇ヲ連
掲ス
 - 2 空襲警報發令ト同時ニ連掲燈ヲ二分間
點滅ヲ行ヒタル後消燈ス
 - 3 空襲警報解除發令ト同時ニ點燈ス
 - 4 警戒警報解除發令サレタルトキハ消燈
ス
 - 5 訓練ノ場合ニハ最下端赤色信號燈ノ下
部ニ白色信號燈一個ヲ附加シ點滅信號ハ
警報ニ應ジ赤色信號燈ト同様ニ行フモノ

トス

二 信號燈ノ施設

- 1 信號燈ハ等間隔ヲ以テ垂直ニ配置スルコト
 - 2 燈火ノ間隔ハ二米乃至三米ヲ標準トス
 - 3 信號燈ノ高サハ施設地ノ狀況ニ依ルベキモノナルモ概ネ最下端ノモノヲ地上又ハ施設場所ヨリ三米以上トスルコト
 - 4 燈火ハ上空ニ對シ燈器ヨリ直接發スル射光ガ三十度以上上空ノニ向ハザルコト
 - 5 電球ノ大イサハ一〇〇ワット程度ヲ標準トス(甲及乙程度トモ)
- 三 其ノ他ノ注意事項
- 1 信號燈ノ設置位置ハ海上ヨリ見易キ箇所ヲ選ブコト

2 警戒警報解除サレタル場合ガ空襲警報

- 未ダ解除サレザル場合ト誤解サルル虞アルヲ以テ警戒警報解除ニ際シ赤色燈ノ消燈ハ附近陸上ノ燈火ノ概ネ點燈ヲ了シタル後行フコト
- 3 信號燈ニ依ル警報傳達ニ關シテハ警報ノ受領及之ガ傳達操作ハ迅速確實ニ行フコト
 - 4 信號燈ハ上空ヨリ發見ヲ困難ナラシムル爲メ一箇所ニ多數集中ヲ避ケ適當ナル間隔ヲ置キ設置スルコト

燈火管制規則

内務 陸軍 海軍 省令第一號
 昭和十三年四月四日
 鐵道 遞信

第一條 燈火管制ヲ實施シ又ハ其ノ訓練ヲ爲ス場合ニ於テ防空法第八條及第十條第三項ノ規定ニ依ル光ノ秘匿ハ本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條 燈火管制ハ第四條ニ規定スル場合ヲ除クノ外警戒管制及空襲管制トス

警戒管制ハ警戒警報又ハ空襲警報解除ノ發セラレタル時ヨリ警戒警報解除又ハ空襲警報ノ發セララル迄ノ間之ヲ行フ

空襲管制ハ空襲警報ノ發セラレタル時ヨリ

空襲警報解除ノ發セララル迄ノ間之ヲ行フ燈火管制ノ訓練ヲ爲ス場合ニ於ケル前二項ノ防空警報ハ訓練防空警報トス

第三條 警戒管制又ハ空襲管制中ノ光ノ秘匿ハ日没ヨリ日出迄ノ間第一號表乃至第七號表ニ掲グル程度ニ於テ之ヲ爲スベシ

第四條 第一號表ノ屋外燈(標識燈類、街路燈類及屋外作業燈類ヲ除ク)ニシテ地方長官(東京府ニ在リテハ警視總監以下之ニ同ジ)ノ指定スルモノハ其ノ定ムル期間日没ヨリ日出迄ノ間警戒管制ノ程度ニ依リ其ノ光ヲ秘匿スベシ

地方長官前項ノ規定ニ依リ屋外燈ヲ指定シ又ハ其ノ光ヲ秘匿スベキ期間ヲ定メタルトキハ之ヲ告示スベシ

第五條 左ノ各號ニ掲グル光ニ付テハ本令ノ制限ヲ適用セズ

- 一 建築物、車輛、船舶、隧道、地下道等ノ内部ノ光ニシテ外部ニ漏レザルモノ
- 二 特別ノ事情ニ因リ必要アリト認めテ地方長官ノ指定スル光

第六條 左ニ掲グル場合ニ於テハ本令ノ規定ニ拘ラズ必要最小限度ノ光ヲ使用スルコトヲ得

- 一 消防、人命救助等ノ爲緊急ノ必要アルトキ
- 二 特別ノ必要ニ因リ警察署長ノ許可ヲ受ケタルトキ

第七條 第一號表乃至第七號表中警戒管制ノ甲ノ程度ヲ適用スベキ區域ハ防空法施行令

ヲ講ジ各表ニ掲グル條件ニ依リ光ヲ遮ルヲ謂フ

第四號表及第五號表中確認距離ト稱スルハ燈火ノ目的ニ應ジ實用ニ適スル程度ニ認識シ得ル最大限度ノ距離ヲ謂フ

第一號表、第三號表、第四號表、第五號表及第七號表中透視距離ト稱スルハ光源及其ノ反射光等一切ノ光ヲ認識シ得ル最大限度ノ距離ヲ謂フ

第十條 左ニ掲グル事項ニ關シテハ地方長官又ハ警察署長ハ陸海軍司令官ニ協議スベシ但シ豫メ陸海軍司令官ト協定シタル事項ニ關シテハ此ノ限ニ在ラズ

- 一 第一號表、第二號表、第四號表又ハ第五號表ニ依ル許可又ハ指定ヲ爲サントス

第七條ノ陸海軍司令官（以下陸海軍司令官ト稱ス）ノ通知ニ依リ地方長官之ヲ定メ其ノ他ノ區域ハ乙ノ程度ヲ適用スベキ區域トス

前項ノ規定ニ依リ離キ海上ノ區上ニ付テハ別ニ之ヲ定ム

第八條 第一號表、第二號表、第四號表又ハ第五號表中ノ許可又ハ指定ハ地方長官之ヲ爲スモノトス

第九條 第一號表、第二號表、第四號表、第五號表及第七號表中隠蔽ト稱スルハ開口部其ノ他ニ覆ヲ施シ外部ニ對シ漏光ナカラシムルヲ謂フ

第一號表乃至第五號表中遮光ト稱スルハ光源ニ對シ直接覆ヲ施シ又ハ之ニ準ズル方法

ルトキ

二 第四條第一項ノ規定ニ依リ屋外燈ヲ指定シ又ハ其ノ光ヲ秘匿スベキ期間ヲ定メントスルトキ

三 第五條第二號ノ規定ニ依リ光ヲ指定セントスルトキ

四 空襲管制ノ場合ニ於テ第六條第二號ノ規定ニ依リ許可ヲ爲サントスルトキ

附則

本令ハ昭和十三年四月十日ヨリ之ヲ施行ス

街路燈類	
ニノ地 放他下 光ニ道 スシ照 ルテ明 燈地燈 火表其	註明使街電路ル其示橋街 ムノ部火 燈用燈車照燈ノ燈梁路 照ヲ及隧等ス、柱明火他ヲ燈燈 明成街道、ル投燈ヲ(之除(橋梁 燈ス路内、街光、兼例ニク)橋梁 ヲ廣ノノ 路器電又、類)表 含場一燈 照ヲ柱ル街ス
減光且 ス八燭遮 ル燭光以 コト以下 ト	減光且遮 ト以下ト トスルコ ト光
隱消 ル光○ジ但蔽燈 コシ米透シ トテ以視必 ヲ殘下距要 得置ニ離ニ ス減五應	消燈但 コシ減クヲケケノヲ燈但燈 トテ光ス○ル道ハ講シシ ヲ殘シ、最路許ジ得迅 得置且以、大面可タル處ニ ス遮下、照ニヲルモ置消 ル光ニル度於受モ
	消燈

標識燈類	廣告看板 裝飾燈類	種 類
等ル及燈種ル其消識警救避非火 (各)訓、機燈ノ火燈 察護難常災 種練防器火他栓 消所所報報 標上空作(之標 防標標知知 識必ノ動例ニ識 官識識機機 燈ナ施示各ス 署燈燈燈	ル其裝看廣 燈ノ飾板告 火他燈燈 之ニ類 ス	廣告燈 看板燈 裝飾燈 之類
減光透視 ル○米視 コト以下 ト距離 ト五 ス○	消燈	警 乙 戒
減光透視且 ル○米視且 コト以下離 ト距離光 ト五 ス○	消燈	管 甲 制
減光透視且 ル○米視且 コト以下離 ト距離光 ト五 ス○	消燈	空 襲 管 制
ザ切其ヨ以地 ルノノリ上表 コ光反モノ上 トヲ射光何三 認光源又ノ〇 メ等又ノ〇 得一ハ點米		遮 光 條 件

第一號表 一般屋外燈ノ光ノ祕匿ノ程度

店先陳列箱照明 店先吊飾燈 店先裝飾燈	種	第二號表 一般屋内燈ノ光ノ秘匿ノ程度	特別屋外燈類
	類		
	警戒管甲制		
	空襲管制 遮光條件		

注火上等燈、火(セ)他屋外類燈 含物(側)ノ壁燈ナ火キヲ建 ム内側ノ壁燈ナ火キヲ建	註屋作 ヲ必物外業 含要内側燈ニ ムナノ壁火必 ル作ナ要 燈業キナル 火ニ建	消 コシ八各光燭以付○ル維限廣社但燈 トテ○燈シ光内○場持リ場寺シ ヲ殘米ノ且以、○平合ノ交照屋公 得置以間遮下一二方面必通明外圍 ス上隔光ニ燈燭米積要治燈燈 ルトヲシ減八光ニ一ア安ニ、
消燈	減光 ス八一光 ル燭店且 コ光一燈 ト以燈光 トトシ	消燈
消燈	隱消 トテ光スヲケケノヲ燈但蔽燈 ヲ殘シ一○ル作ハ講シシ 得置且以、三最業許ジ得迅 ス燈下ニ大面可タル速 ル光ニル照ニヲル處ニ コシ減ク度於受モ置消	消燈

露店燈	註屋作 ヲ必物外業 含要内側燈ニ ムナノ壁火必 ル作ナ要 燈業キナル 火ニ建	門軒燈類 「札ル其軒門 テ照燈ノ燈燈 レ明火他之 ス燈(例ニ 」燈、文類 等)關標ス
減光 ス八一光 ル燭店且 コ光一燈 ト以燈光 トトシ	減光 下燈燭平作光 ト一光方業且 ス六以米面燈 ル燭内ニ一光 コ光、付○ ト以一三○	消 コ於スハ代ジ但燈 トテル該用街シ ヲ殘制燈ス路必 得置限類ル燈要 ス内ニモ類ニ ルニ關ノニ應
隱消 トテ光スヲケケノヲ燈但蔽燈 ヲ殘シ一○ル作ハ講シシ 得置且以、三最業許ジ得迅 ス燈下ニ大面可タル速 ル光ニル照ニヲル處ニ コシ減ク度於受モ置消	隱消 トテ光スヲケケノヲ燈但蔽燈 ヲ殘シ一○ル作ハ講シシ 得置且以、三最業許ジ得迅 ス燈下ニ大面可タル速 ル光ニル照ニヲル處ニ コシ減ク度於受モ置消	消 トテル該ハ代ジ但燈 ヲ殘制燈許用街シ 得置限類可ス路必 ス内ニヲル燈要 ルニ關受モ類ニ コ於スケノニ應

コ以水源引遮光
ト上平ノキ光源
ノ面下タ具ノ
角ト方ルノ下
ヲ二ニ線下端
ナ○向ガ端ヨ
ス度ヒ光ニリ

交通標識燈類	交通信號燈類	種	類
其障停安 ノ碍留全 他注所地 之注意標 ニ燈識識 類燈燈	ル其號交交 燈ノ燈通通 火他之整理 ニ類手信號 ス信燈	乙	警戒
減光 ル○透 且コ米視 遮ト以下 光ト五〇	平常ノ儘	甲	管制
減光 ル○透 且コ米視 遮ト以下 光ト五〇	減光 ル○透 且コ米視 遮ト以下 光ト五〇	空襲管制	遮光條件
消燈 ニ三燈但 減○ハシ 光○透障 ス米視碍 ル以距注 コ下離意	減消 ル○透光 コ米視且 ト以距遮 下離光 ト五〇	甲	乙
甲 米地ノ向 以上表場 ノ三合ザ 何○ル上 レ○トニ	乙 ザ切其ヨ ルノノリ コ光反モ トツ射光 認メ等又 得一ハ點	乙	乙

第三號表 一般交通關係燈ノ光ノ秘匿ノ程度

光面ヲ透過ス ル光東ヲ一平 方米ニ付三 「ル一メン」以 下トスルコト
--

普通屋内燈類	店先燈類	店先燈類以外ノ	店先燈類
漏光ト以離開下 許光制上ヲ口ト ヲ限ト一部シ 受ケス・ト光燭 漏ケル八ノ源 漏トコ米距	（イ）減光且遮光 （ロ）ト以下五〇 （ハ）ト以下五〇 （ニ）ト以下五〇 （ホ）ト以下五〇 （ヘ）ト以下五〇 （ト）ト以下五〇	（イ）減光且遮光 （ロ）ト以下五〇 （ハ）ト以下五〇 （ニ）ト以下五〇 （ホ）ト以下五〇 （ヘ）ト以下五〇 （ト）ト以下五〇	（イ）減光且遮光 （ロ）ト以下五〇 （ハ）ト以下五〇 （ニ）ト以下五〇 （ホ）ト以下五〇 （ヘ）ト以下五〇 （ト）ト以下五〇
隱消 蔽燈	消燈	消燈	消燈
乙 コ上ニ開發光ノ トニ於光ス源ノ 向テ部ルヨリ ハ水ノ射リ ザ平外光直 ル以側ガ接	乙 コ上ニ開發光ノ トニ於光ス源ノ 向テ部ルヨリ ハ水ノ射リ ザ平外光直 ル以側ガ接	乙 コ上ニ開發光ノ トニ於光ス源ノ 向テ部ルヨリ ハ水ノ射リ ザ平外光直 ル以側ガ接	乙 コ上ニ開發光ノ トニ於光ス源ノ 向テ部ルヨリ ハ水ノ射リ ザ平外光直 ル以側ガ接

携帶燈類	普通車輛燈類		
個人携帶燈類 其他之類	乗合馬車燈類 其他之類	室内燈 乗合自動車標示 其他ノ燈火	方向幕照明燈 空車札照明燈
	平常ノ儘		平常ノ儘 但シノ乗合自動車 リ各室内燈毎ニ遮 光スルコト
減光且遮光 スルコト	減光且遮光 スルコト	消燈	減光且遮光 スルコト
消燈			
トモノ上其燈 認何三ノ器 メレノ光源 得ノ點米ヲ ザルヨリ上表 コリ		ト部ス光 ニル源ヨリ 向射光ガ直 ハガ開接 ザルコ口發	

自動車燈類			
方向指示器燈	尾燈 停止燈	前照燈 側照燈 註案内燈ヲ合	ル燈火
	平常ノ儘	減光 トスルコト	トシ一箇所一燈 スルコト以下
平常ノ儘	減光 トスルコト	減光 トスルコト	ト
	消燈		
		キ自動車 發光器ヨリ 五度以上ノ ニハザルコト	ル光射源ノ コヲ認等ハ メ得切ノモ ザザノ反光

第四號表 鐵道軌道關係燈ノ光ノ秘匿ノ程度

地上標識燈類		
接近標示燈	其徐ス停列車ノ轉 燈行ル止車止標轍 ノ他許諸位又標識 火之容標燈ヲ車燈 =標燈標輛燈及 類燈標示ノ轍又等 ス	手信 燈火 類 手信 號 =用 フル
平常ノ儘		
減 コ米確光 ト以認且 下距遮 ト離光 ス五 ル〇	減 ト〇確光 米認且 ト距遮 ス離光 ル三 コ〇	減 ト一分鐵路〇確光 ス〇=道=米認且 ル〇在軌敷以距遮 コ米リ道設下離光 ト以テノス、四 下ハ部ル道〇
減 コ米確光 ト以認且 下距遮 ト離光 ス五 ル〇	減消 ル〇確光燈 コ米認且 ト以距遮 下離光 ト三 ス〇	減消 ト一分鐵路〇確光燈 ス〇=道=米認且 ル〇ア軌敷以距遮 コ米テ道設下離光 ト以リノス、四 下ハ部ル道〇
<p>●ザ切其ヨ以地 ルノノリ上表 コ光反モノ上 トヲ射光何三 認光源レ〇 メ等又ノ〇 得一ハ點米</p>		

信號合圖燈類		種
類燈合 ス火圖 ル其ノ 燈火他 之類 =	(臨入誘 徐時換 行信信 豫號號 告機機 標燈燈 燈)	出 場 信 號 機 燈 閉 塞 信 號 機 燈 掩 護 信 號 機 燈 其 遠 方 他 之 類 ス
平常ノ儘		類
ト一分鐵路〇確光 ス〇=道=米認且 ル〇在軌敷以距遮 コ米リ道設下離光 ト以テノス、三 下ハ部ル道〇	減 ト一分鐵路〇確光 ス〇=道=米認且 ル〇在軌敷以距遮 コ米リ道設下離光 ト以テノス、三 下ハ部ル道〇	警 戒 管 制 甲
ト一分鐵路〇確光燈 ス〇=道=米認且 ル〇在軌敷以距遮 コ米リ道設下離光 ト以テノス、三 下ハ部ル道〇	減消 ト一分鐵路〇確光燈 ス〇=道=米認且 ル〇在軌敷以距遮 コ米リ道設下離光 ト以テノス、六 下ハ部ル道〇	空 襲 管 制
		遮 光 條 件

車輛燈類		
運行先表示燈 計器燈 知ラセ燈 其ノ他之ニ類ス	車内照明燈	自動開閉式扉表示燈
平常ノ儘	(イ) 且遮光 減光 ト以下五燭光 ト以下三燭光 ト以下一燭光 ト以下三燭光 ト以下一燭光 ト以下三燭光 ト以下一燭光	平常ノ儘
減光 ト以下三燭光	(イ) 且遮光 減光 ト以下五燭光 ト以下三燭光 ト以下一燭光 ト以下三燭光 ト以下一燭光 ト以下三燭光 ト以下一燭光	減光 ト以下三燭光
減光 ト以下三燭光	消燈	減光 ト以下三燭光
	(イ) 且遮光 減光 ト以下五燭光 ト以下三燭光 ト以下一燭光 ト以下三燭光 ト以下一燭光 ト以下三燭光 ト以下一燭光	其ノ反射光等一 ザルコトヲ認メ得

車輛標識燈類		
後部標識燈	前部標識燈 註 ムロリ照燈ヲ合ト	信號機附隨ノ識 別他ノ各種標 識ノ類
平常ノ儘	減光 ト以下三燭光 減光 ト以下三燭光 減光 ト以下三燭光	減光 ト以下三燭光
	減光 ト以下三燭光 減光 ト以下三燭光 減光 ト以下三燭光	減光 ト以下三燭光
	減光 ト以下三燭光 減光 ト以下三燭光 減光 ト以下三燭光	減光 ト以下三燭光
ヨリモ光源又ハ	警備 場 コトヲ認メ得ザル 射源又ハ其ノ光 ノ點 米 地 表 上 三 〇 〇 米	警備 管制 場 及

<p>入換作業用構内 照明燈 註明車場組成 屏=限ル</p>	<p>列車抜構内照明 其ノ他之ニ類ス ル燈火</p>
<p>減光且遮光 作業面付○ 平光米一○ 燭方内ニ付○ 燈五〇燭光、 下トスルコト</p>	
<p>消燈但迅速ニ消 ノハ許シタルモ ケケル照ニ於テ ケル最大照度 ヲ以テ照度 スルニ減ク 光シ且遮光 トテ残置スルコト</p>	<p>消燈但迅速ニ消 ノハ許シタルモ ケケル照ニ於テ ケル最大照度 ヲ以テ照度 スルニ減ク 光シ且遮光 トテ残置スルコト</p>
<p>消燈</p>	
<p>燈器水平ノトキ 上三〇米以上表 其何レノ點ヨリ 上器〇ノ點ヨリ 認メ得ザルコト</p>	

<p>點檢燈類</p>	<p>車輛特殊火光</p>			
<p>巡檢燈</p>	<p>註ル其車點檢燈 其ノ他之ニ類ス ル燈火 合用ノ目場的ニ使 ムスル場合ヲ</p>	<p>鋼索車等ノ火花</p>	<p>電氣機關車、電車、無軌條電車</p>	<p>蒸汽機關車焚口 火光 蒸汽機關車煙突</p>
<p>平常ノ儘</p>		<p>極力防止ニ努ム ルコト</p>	<p>極力防止ニ努ム ルコト</p>	<p>平常ノ儘 但シ發光量 減少ニ努ムルノ コト</p>
<p>減消燈 照於一米ノ距離 度ヲ被照一面ノニ</p>	<p>減消燈 照於一米ノ距離 度ヲ被照一面ノニ</p>	<p>極力防止ニ努ム ルコト</p>	<p>間ノ光量減少ニ努ム ルコト</p>	<p>發光量及發光時 間ノ減少ニ努ム ルコト</p>
<p>減消燈 照於一米ノ距離 度ヲ被照一面ノニ</p>	<p>減消燈 照於一米ノ距離 度ヲ被照一面ノニ</p>	<p>極力防止ニ努ム ルコト</p>	<p>隱蔽</p>	<p>發光量及發光時 間ノ減少ニ努ム ルコト</p>
<p>燈器水平ノトキ 上三〇米以上表 其何レノ點ヨリ 上器〇ノ點ヨリ 認メ得ザルコト</p>		<p>分開上部及側 方全部ヲノ蔽 コトニ以上ヲ 分ノ二以上ヲ 開放上部ノ蔽</p>		

踏切警報器燈	出札口屋外燈 改築外燈 註内側壁ナ火ヲ建 ム内側壁ナ火ヲ建	屋外各種表示燈 誘導燈 註内側壁ナ火ヲ建 ム内側壁ナ火ヲ建	屋内各種表示燈
平常ノ儘	減光且遮光 窓口一箇又ハ 一對改築トシ ス燭シ一燈ト 五燭光トシ	消燈 但シ誘導燈及 特ニ指シ透シ ルモハ透シ視 距離ニ五〇米 以テ残置スル トテ残置スル	平常ノ儘
減光且遮光 ト以テ距離 下離光 ト五 ス〇	減光且遮光 窓口一箇又ハ 一對改築トシ ス燭シ一燈ト 一燭光トシ	消燈 但シ誘導燈及 特ニ指シ透シ ルモハ透シ視 距離ニ三〇米 以テ残置スル トテ残置スル	減光 ト以テ距離 下離 ト三 ス〇
減光且遮光 ト以テ距離 下離光 ト五 ス〇	消燈	消燈 但シ誘導燈及 特ニ指シ透シ ルモハ透シ視 距離ニ三限 以テ残置スル トテ残置スル	隱消 蔽燈
切其ヨ以地 ノノリ上表 光反モノ上 ヲ射光何三 認光源レ〇 メ等又ノ〇 得一ハ點米	光源ノ下端ヨリ 引下線ガ端ニ 且キタニ向ヒ 度ノ平方面角 ス以上ノ角ト	光源ノ下端ヨリ 引下線ガ端ニ 且キタニ向ヒ 度ノ平方面角 トニ向ヒ	光源ノ下端ヨリ 引下線ガ端ニ 且キタニ向ヒ 度ノ平方面角 トニ向ヒ

特殊照明燈類

	乗降場屋外燈 洗滌水臺外燈 給炭屋外燈 其ノ他之類 註内側壁ナ火ヲ建 ム内側壁ナ火ヲ建	各種屋外燈 電車柱燈 其ノ他之類 註内側壁ナ火ヲ建 ム内側壁ナ火ヲ建	
	減光且遮光 平地表面一〇 燭光付内付 ト燭光付内付 下燭光付内付 ト燭光付内付	減光且遮光 平地表面一〇 燭光付内付 ト燭光付内付 下燭光付内付 ト燭光付内付	
	消燈 但シ誘導燈及 特ニ指シ透シ ルモハ透シ視 距離ニ三〇米 以テ残置スル トテ残置スル	消燈 但シ誘導燈及 特ニ指シ透シ ルモハ透シ視 距離ニ三〇米 以テ残置スル トテ残置スル	
	消燈	消燈	
			光源ノ下端ヨリ 引下線ガ端ニ 且キタニ向ヒ 度ノ平方面角 トニ向ヒ

第五號表 航船關係燈ノ光ノ秘匿ノ程度

種	航路關係燈類		類
	橋梁表示燈	航路標識燈ニ類 航路標識燈ニ類 航路標識燈ニ類	
管	平常ノ儘	減光且遮光 ト○確認距離一、 ト○スルコト以下	別ニ指示スル所ニ依ル
	ノ海上衝突豫防法ニ依ル最	減光且遮光 ト○確認距離一、 ト○スルコト以下	
管		隱消蔽燈	管制
管		隱消蔽燈	空襲管制
管		甲 乙	遮光條件
	ル光射源ノ米地ノ向可發光ノ場合 コヲ光又點以表場ハ及ス源ヨリ ト認等ハヨ上上合ザ的ル射リ メ一其リノ三ル上射光直接 得切ノモ何○コ空光ガ ザノ反光レ○トニガ		

地下ニ敷設シ タニ敷設シ 内及隧道内 照燈類	踏切燈類	踏切表示燈 踏切注意標照明	踏切燈類
地下ニ敷設シ タニ敷設シ 内及隧道内 照燈類	踏切照明燈	踏切表示燈 踏切注意標照明	踏切燈類
減光且遮光 ト○スルコト以下	減光且遮光 ト○スルコト以下	減光且遮光 ト○スルコト以下	減光且遮光 ト○スルコト以下
隱消蔽燈 ル光○ジ但 コシ米透シ トテ以視必 ヲ殘下距要 得置ニ離ニ ス減五應	消燈 得置限類ル明踏ジ但 ス内ニモ燈切踏シ ルニ關ノニ注切必 コ於スハ代意表要 トテ爾該用標示ニ ヲ殘制燈ス照燈應	消燈 得置限類ル明踏ジ但 ス内ニモ燈切踏シ ルニ關ノニ注切必 コ於スハ代意表要 トテ爾該用標示ニ ヲ殘制燈ス照燈應	消燈 得置限類ル明踏ジ但 ス内ニモ燈切踏シ ルニ關ノニ注切必 コ於スハ代意表要 トテ爾該用標示ニ ヲ殘制燈ス照燈應
隱消蔽燈	消燈	消燈	消燈
度且源引遮光 コ以水ノキ光 ト上平下タ具ノ ノ面方ルノ下 角トニ線下端ヨ ヲ二向ガ端ヨ ナ○ヒ光ニリ	光射源ヨリ 的スル光ガ直 ル上ル射光可接 コト空ニ光ハ及 トニ向ハガ發	光射源ヨリ 的スル光ガ直 ル上ル射光可接 コト空ニ光ハ及 トニ向ハガ發	光射源ヨリ 的スル光ガ直 ル上ル射光可接 コト空ニ光ハ及 トニ向ハガ發

船舶照明燈類			
註類外埠 含物ス燈頭 ム内側ル其 ノ壁燈ノ屋 燈ナ火他倉 火キ之庫屋 ヲ建ニ屋	註其探 フノ照 ム含舩他 ムノノ、 焚火安 火光全 等燈	明荷起 燈役重 用機ヲ 船室用 外フル	燈一 般船 室外 照明
減 ト一光方 ス六以米 ル燭内ニ一 コ光、付○ ト以一三○ 下燈燭平	消 使但燈 用シ船 ス體又 コトハ ヲ人命 得ノ危 急ノ場 合短時 間ニ限 リ	減 ス○下一 ル燭ト箇 コ光シ所 ト以合三 下計燈 ト五以	減 下燈燭平 ト一光方 ス六以米 ル燭内ニ一 コ光、付○ ト以一三○
消 ラケケノヲ ○ル被ハ講 ニ最照許 三大大面 ル照ニヲ ス度於受	消 得命ノ危 急ノ場 合短時 間ニ限 リ	消 トテ光ク ヲ殘シ一 得置且以 ス遮下ニ ル光ニ照 コシ減ス	消 燈但燈 ヲ得迅 ル速ニ 置消
且源引遮光 水ノキ光源 平下タ具ノ 面方ルノ下 トニ線下端 二向ガ端ヨ ○ヒ光ニリ		ス度且源引遮光 コ以水ノキ光源 ト上平下タ具ノ ノ面方ルノ下 角トニ線下端 ヲ二向ガ端ヨ ナ○ヒ光ニリ	

船燈類	
船室内照明燈	註ニ海 ヲル規上 含船湖定衝 ム船沼ス突 ノニル豫 船於船防 燈ケ燈法
減隱消 下燈燭方室 ト五光米ノ ス○以ニ廣 ル燭内付サ コ光、一三 ト以一○平	トシ少ノ海 且限規上 遮度定衝 光ノニ突 ス光依豫 ル力ル防 コト最法
減隱消 ト燈五方室 ス二燭米ノ ル燭光ニ廣 コ光以付ザ ト以內○三 下一、平	トシ少 光下離船港 スニ五燈内 ル減○ハ碇 コ光○確泊 ト且米認船 遮以距ノト
隱消 蔽燈	消 ス限要爲シ ルリナシ得 コール保ル ト時ト安準 點キ上備點 出ニ必ヲ出
ト部ス光 ニル源ヨ 向射リ ハガ直 ザ開接 ル開發 コ口	ト對度ヲ確 シト充認 遮シ足距 光テス離 ス上ルノ ル空ヲ所 コニ限要

備考 特別ノ事情ニ因リ必要アリト認メ別ニ告示スル場合ニ於テハ海上衝突豫防法ニ規定スル船燈ニ關シテハ警戒管制ノ場合及空襲管制ノ場合ヲ通ジ警戒管制ノ乙ノ程度ニ依ル

埠頭標識燈類	
棧橋突端標識燈	岸壁突端標識燈
浮橋標識燈	燈塔標識燈
繫船標識燈	浮標標識燈
稅關標識燈	其他標識燈
其ノ他標識燈	火警標識燈
減光且遮光 一箇所以下 トシ五箇光ト	減光且遮光 一箇所以下 トシ五箇光ト
減光且遮光 確認距離五〇 ル〇米以下ト	減光且遮光 確認距離五〇 ル〇米以下ト
消燈	消燈
甲 向可發光ノ場 合ハ及ザルコ ト	乙 光ノ場合 ヨリ直接 ノ下端ヨ リ
光ノ場合 ヨリ直接 ノ下端ヨ リ	光ノ場合 ヨリ直接 ノ下端ヨ リ
光ノ場合 ヨリ直接 ノ下端ヨ リ	光ノ場合 ヨリ直接 ノ下端ヨ リ
光ノ場合 ヨリ直接 ノ下端ヨ リ	光ノ場合 ヨリ直接 ノ下端ヨ リ
光ノ場合 ヨリ直接 ノ下端ヨ リ	光ノ場合 ヨリ直接 ノ下端ヨ リ
光ノ場合 ヨリ直接 ノ下端ヨ リ	光ノ場合 ヨリ直接 ノ下端ヨ リ
光ノ場合 ヨリ直接 ノ下端ヨ リ	光ノ場合 ヨリ直接 ノ下端ヨ リ

埠頭燈類			
註改出 物集札 合內側口 ム内側口 ノ壁口屋 燈ナ屋外 火キ外燈 ヲ建燈	註誘屋 物導外 合內側燈 ム内側燈 ノ壁ナ種 燈ナキ表 ヲ建燈示 燈	屋内各種表示燈	埠頭起重機外燈
減光且遮光 一箇所以下 トシ五箇光ト	減光且遮光 一箇所以下 トシ五箇光ト	消燈 但シ誘導燈及 誘導燈 ノ指 示 ヲ 透 視 タ 及	減光且遮光 一箇所以下 トシ五箇光ト
減光且遮光 確認距離五〇 ル〇米以下ト	減光且遮光 確認距離五〇 ル〇米以下ト	減光且遮光 確認距離三〇 ル〇米以下ト	減光且遮光 確認距離三〇 ル〇米以下ト
消燈	消燈	消燈	消燈
度且源引遮光 以水ノキ光 上平下タ具 ノ面方ルノ 角トニ線下 ヲ二向ガ端 ナ〇ヒ光ニ	度且源引遮光 以水ノキ光 上平下タ具 ノ面方ルノ 角トニ線下 ヲ二向ガ端 ナ〇ヒ光ニ	度且源引遮光 以水ノキ光 上平下タ具 ノ面方ルノ 角トニ線下 ヲ二向ガ端 ナ〇ヒ光ニ	度且源引遮光 以水ノキ光 上平下タ具 ノ面方ルノ 角トニ線下 ヲ二向ガ端 ナ〇ヒ光ニ

第六號表 航空關係燈ノ光ノ祕匿ノ程度

種	類	警	管	空	遮
航空標識燈類	航空燈臺 獨立障礙物標示	乙	甲	空襲管制	遮光條件
飛行場燈類	着陸場照明燈 各種信號燈 風向標示燈 雲高測定燈 障礙標示燈	乙	甲	空襲管制	遮光條件
航空機燈類	左(右)翼燈 室內燈 尾燈 機首燈 碇泊燈 着陸燈 照明燈 信號燈 計器燈 其他之類	乙	甲	空襲管制	遮光條件
別ニ指示スル所ニ依ル					

第七號表 火焰其ノ他ノ光ノ祕匿ノ程度

種	類	警	管	空	遮
火焰類	熔鑄爐火 電氣爐火 平爐火 轉爐火 加熱爐火 瓦斯製煉火 窯子製煉火 亞鉛製煉火 炭火 熔接火 鍛冶火 鍛冶火 汽罐火 煙火 其他之類	乙	甲	空襲管制	遮光條件
	隱蔽 消光 漏光 光面ヲ透過 スルニ付テハ 平方メートル以 下トスルコト	乙	甲	空襲管制	遮光條件
	隱蔽 消光 漏光 光面ヲ透過 スルニ付テハ 距離三〇米 以下トスルコト	乙	甲	空襲管制	遮光條件
	隱蔽 消光	乙	甲	空襲管制	遮光條件

第一種禁制光	煙火、焚火、野 火、篝火、狼火、 山ヨリ發 火、篝火、 スル光 ボダ 注スル ク 警報ニ使用 スルモノヲ除	消光
第二種禁制光	炭火、マッチ、 ライター、煙草、 ライター、 等ヨリ發スル光 寫眞撮影用閃光	平常ノ儘
	平常ノ儘 但シ炭火ハ透 視距離三〇透 米以下ニ減光 スルコト	消光
	消光	消光

燈火管制規則施行細則

(昭和十三年八月三日
茨城縣令第二十九號)

第一條 燈火管制規則(以下規則ト稱ス)第三條及第四條ノ規定ニ依ル日没、日出ノ時刻ハ別表ニ定ムル所ニ據ル

第二條 規則第五條第二號、第六條第二號、第八條ノ規定ニ依リ指定シタル光及申請ニ基キ許可又ハ指定スル光ノ範圍ハ之ヲ告示ス

第三條 規則第五條第二號又ハ第八條ノ許可又ハ指定ヲ受ケントスル者ハ左ノ事項ヲ具シ警察署長ヲ經由申請スベシ

一 願人ノ住所、職業、氏名(法人ニ在リテハ其ノ所在地、名稱)

二 光ノ種類及場所(燈火並周圍ノ略圖及

位置ヲ示シタル附近見取圖)

三 光使用期間及事由

四 其ノ他必要ナル事項(別ニ告示スル所ニ據ル)

前項ノ許可又ハ指定ヲ爲シタルトキハ別記第一號様式ノ證票ヲ交付ス

第四條 規則第一號表標識燈類ノ燈火ニハ左ノ記號ヲ表示スベシ

火災報知機燈 火
避難所標識燈 ヒ
非常報知機燈 非
救護所標識燈 十
消火栓標識燈 米
警察官署標識燈 示
障害物標識燈 赤色

消防官署標識燈

Y

第五條 規則第二號表普通屋内燈類ノ漏光許可ヲ受ケタル者ハ照明及漏光制限方法ヲ當該場所ニ掲出スベシ

第六條 規則第六條第一號ノ規定ニ依リ光ヲ使用シタルトキ又ハ第二號ノ規定ニ依リ光ヲ使用セントスルトキハ左ノ各號ノ事項ヲ具シ文書又ハ口頭ヲ以テ警察署長ニ届出又ハ願出ツベシ

一 光ノ主タル使用者ノ住所、職業、氏名
(法人ニ在リテハ其ノ所在地、名稱及代表者ノ氏名)

二 光ノ種類、數

三 光使用ノ場所、時及其ノ事由ノ概要
前項ノ許可ヲ爲シタルトキハ別記第二號様

式ノ證票ヲ交付ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

別表

日没、日出時刻表

日没時刻	日出時刻	日没日出區分	
		月	別
7.00	5.00	一月	二月
6.30	5.30	三月	四月
6.00	6.00	五月	六月
5.00	6.00	七月	八月
4.30	6.30	九月	十月
4.30	7.00	十一月	十二月
4.30	7.00		
5.00	6.30		
5.30	6.00		
5.30	5.00		
6.00	4.30		
6.30	4.30		

様式第一號

住所	氏名	指定許可證
		昭和 年 月 日
		茨城縣印

表

燈火管制規則 第五條第二號 第八條	一、光ノ種類
	二、光ノ場所
	三、光ノ使用期間
取扱 警察署印	

裏

住所	氏名	燈火管制規則 第六條第二號	許可證
昭和 年 月 日		何々警察署長印	

表

一、光ノ種類	二、光ノ數	三、光使用ノ場所	四、光使用ノ時	五、光使用ノ事由	取扱者 官 氏	名印
--------	-------	----------	---------	----------	---------	----

裏

燈火管制規則施行細則

取扱手續

(昭和十三年八月三日
茨城縣訓令乙第一三一號)

第一條 警察署長燈火管制規則施行細則(以下細則ト稱ス)第三條申請書ヲ受理シタルトキハ申請人ハ燈火ノ管理者ナリヤ否ヤ細則第二條及第三條告示ニ該當スルヤ否ヤヲ調査シ市町村長ト協議ノ上意見ヲ具シ進達スベシ

前項ノ許可又ハ指定アリタルトキハ市町村長ニ通知スベシ

第二條 警察署長細則第六條ノ規定ニ依リ届出アリタルトキハ軍司令官及市町村長ニ、許可ヲ爲シタルトキハ市町村長ニ通知スベシ

シ

第三條 燈火管制規則第六條第二號ノ許可ハ部下警察官吏ニ代行セシムルコトヲ得

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

燈火管制規則施行細則第
二條第三條ニ依ル告示

(茨城縣告示第三百九十三號)

燈火管制規則施行細則第二條ノ規定ニ依ル光ノ範圍及同則第三條第四條ノ必要ナル事項左ノ如シ

昭和十三年八月八日

茨城縣知事 挾 間 茂

- 一 燈火管制規則第五條第二號ニ依リ申請ニ基キ指定スル火ノ範圍
 - 三屯以上ノ移動式起重機外燈ノ警戒管制(甲)ニ於テハ燈火管制規則第五號表埠頭燈類中ノ埠頭起重機外燈ノ例ニ準ズル事ヲ得
- 二 燈火管制規則第五條第二號ニ依リ指定シ

タル火ノ範圍

- イ 官公署用自動車、消防自動車、救急自動車及警察用自動車ハ空襲管制ノ場合透視距離三〇〇米以下ノ燈火ヲ有スル左記標識ヲ車輛ノ前後ニ各一箇宛付スルコトヲ得但シ甲地域ノ場合ハ避火具ヲ附スベシ

官公署自動車
消防自動車
救急自動車
警察用自動車

- ロ 警戒管制ノ場合透視距離一〇〇米以下ニシテ被照面積〇、二平方米以下トナシ「營業中」又ハ「營業休止」ヲ標示スルコトヲ得

三 燈火管制規則第六條第二號ニ依ル許可ノ範圍

特別ノ事故發生シ人命ニ關スル場合

四 燈火管制規則第八條ノ許可ヲ爲ス火ノ範圍

イ 第一號表

- 1 街路燈類及街路燈ニ代用スル門軒燈中警戒管制(甲)ニ於テ殘置シ得ルモノノ燈火ノ種類 主要街路ノ交通頻繁ナル交叉點ニアルモノ

處 置 對空監視哨ヲ設ケ敵航空機ヲ發見セバ直ニ消燈シ得ル如ク配電設備及通信連絡設備ヲナシタルモノ

最大照度ト被照面積トノ關係左表ノ如シ

最大照度(ルクス)	0.15	0.3	0.45	0.6	0.75	0.9
最大被照面積(平方米)	70	80	90	100	110	120

2 屋外作業燈類中警戒管制(甲)ニ於テ殘置シ得ルモノ

燈火ノ種類 防空法第三條ニ依リ指定セラレタル防空計畫設定者ノモノノ右ニ準ズルモノニシテ防空計畫ヲ設定シタルモノ

處 置 街路燈類ノモノニ同ジ
最大照度ト被照面積トノ關係左表ノ如シ

最大照度 (ルクス)	0.30	0.24	0.19	0.17	0.15	0.13	0.11	0.10	0.09
最大被照面積 (平方米)	30	40	50	60	70	80	90	100	110

ロ 第二號表普通屋内燈類中警戒管制(乙)
ニ於テ漏光制限ヲ許可シ得ルモノ
燈火ノ種類 防空法第三條ニ依リ指定セ
ラレタル防空計畫設定者ノ作業ニ直接
必要ナル燈火

右ニ準ズルモノハ前項屋外作業燈類ニ同
ジ
置 街路燈類ノモノニ同ジ
シ 漏光ノ程度ト漏光面積トノ關係左表ノ如

建物一棟ノ漏光面積ノ合計	一	階	屋根及二階以上
一〇平方米以下	漏光面ヲ透過スル光束ノ最大密度ヲ一平方メートルニ付三「ルーメン」以下トスルコト		漏光面ヲ透過スル光束ノ最大密度ヲ一平方メートルニ付〇、一平方メートルニ付〇、五「ルーメン」以下トスルコト
一〇平方米以上 三〇平方米以下	漏光面ヲ透過スル光束ノ最大密度ヲ一平方メートルニ付二「ルーメン」以下トスルコト		漏光面ヲ透過スル光束ノ最大密度ヲ一平方メートルニ付一「ルーメン」以下トスルコト
三〇平方米以上	漏光面ヲ透過スル光束ノ最大密度ヲ一平方メートルニ付一「ルーメン」以下トスルコト		漏光面ヲ透過スル光束ノ最大密度ヲ一平方メートルニ付一「ルーメン」以下トスルコト
備考	光源ヨリ直接發スル射光ガ漏光部ノ外側ニ於テ水平以上ニ向ハザルコト		

ハ 第四號表

1 特種照明燈類中各種詰所屋外燈等ノ警戒管制(甲)ニ於テ殘置シ得ルモノ
燈火ノ種類 頻繁ニ使用スルモノ及電車柱燈ニ在リテハ連續使用スルモノ
置 街路燈類ノモノニ同ジ
最大照度ト被照面積トノ關係街路燈類ノモノニ同ジ

2 特種照明燈類中入換作業用構内照明燈及乗降場屋外燈等ノ警戒管制(甲)ニ於テ殘置シ得ルモノ
燈火ノ種類 前項ニ同ジ
置 街路燈類ノモノニ同ジ
最大照度ト被照面積トノ關係屋外作業燈類ノモノニ同ジ

ニ 第五號表

船舶照明燈類中一般船室外照明燈並起重機ヲ用フル荷役用船室外照明燈及埠頭燈類中埠頭上屋倉庫屋外燈並埠頭起重機外燈等ノ警戒管制(甲)ニ於テ殘置シ得ルモノ
燈火ノ場所 港内ノモノニ限ル
置 街路燈類ノモノニ同ジ
最大照度ト被照面積トノ關係、屋外作業燈類ノモノニ同ジ

五 訓練ノ場合
前記各項ノ外
イ 第一號表屋外作業燈類中警戒管制(甲)ニ於テ殘置シ得ルモノ及第二號表普通屋内燈類中警戒管制(乙)ニ於テ漏光制限ノ

許可ヲ爲シ得ル燈火ノ種類ハ防空法第三條指定ノ防空計畫設定者ニ準ズルモノノ作業ニ直接必要ナル燈火

ロ 燈火管制規則第五條第二號ニ依リ申請ニ基キ指定スル光ノ範圍

1 炭火、漁火、火焰類ニシテ生活上眞ニ已ムヲ得ザルモノ

2 地方鐵道、軌道

空襲管制中警戒管制甲程度ニ依リ得ル光

第一號表 屋外作業燈類中荷物積卸場

屋外燈

第四號表 車輛燈類中車內照明燈

同 點檢燈類中點檢燈等及巡檢

燈

同 特殊照明燈類中列車扱構内

照明燈

同 入換作業用構内

照明燈

同 乗降場屋外燈等

同 屋外各種表示等

同 出札口屋外燈等

同 踏切燈類中踏切照明燈

(但シ警戒管制ノ甲又ハ空襲管制ノ場合ニ警戒管制ノ乙程度ニ依リ得)

以上ノ燈火ニシテ運管上特ニ設置ヲ必要

トスルモノニシテ鐵道省監督局係員ノ指

導監督ノアルモノ

六 燈火管制規則施行細則第三條第四號ノ必

要ナル事項

前記一、四及五ノイ

燈火ノ位置 最大照度ト被照面積トノ關

係(但シ第二號表ノ屋內燈類ハ漏光ノ

程度ト漏光面積トノ關係)

前記五ノロ

光ヲ使用スベキ管制ノ種別及光ノ程度

(炭火、漁火、火焰類ノミ)


燈火管制參考資料

一、透視距離

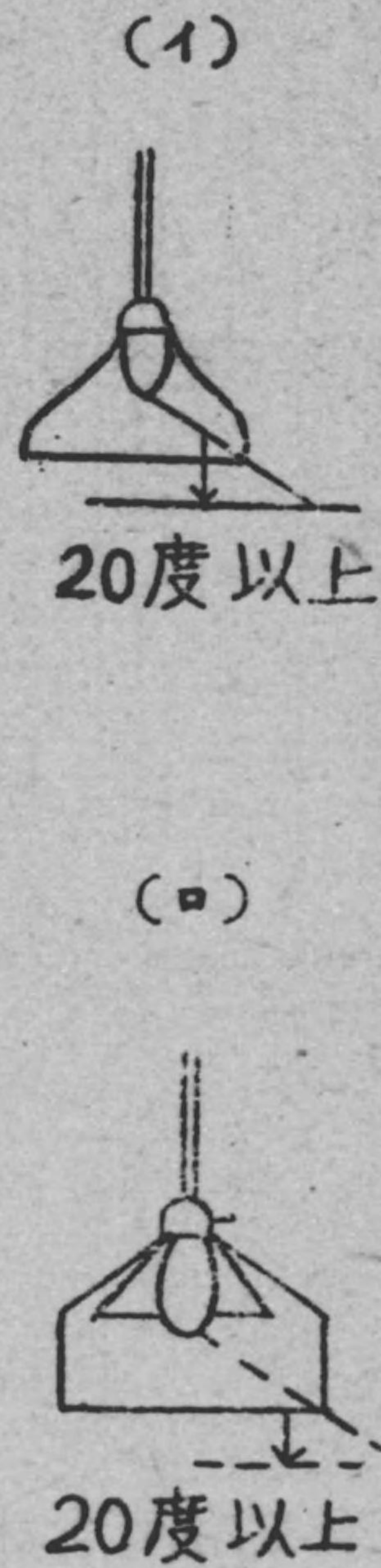
距離	大體ノ燭光	應用方法
五〇〇米	千分ノ三燭光	大體十六燭光ヲ黒ガス一枚ニテ包ミタル明サ
三〇〇米	千分ノ一燭光	大體十燭光ヲ黒木綿三枚ニテ包ミタル明サ
一〇〇米	一分ノ三燭光	大體十燭光ヲ黒木綿三枚、白天竺木綿一枚ニテ包ミタル明サ

二、遮光條件

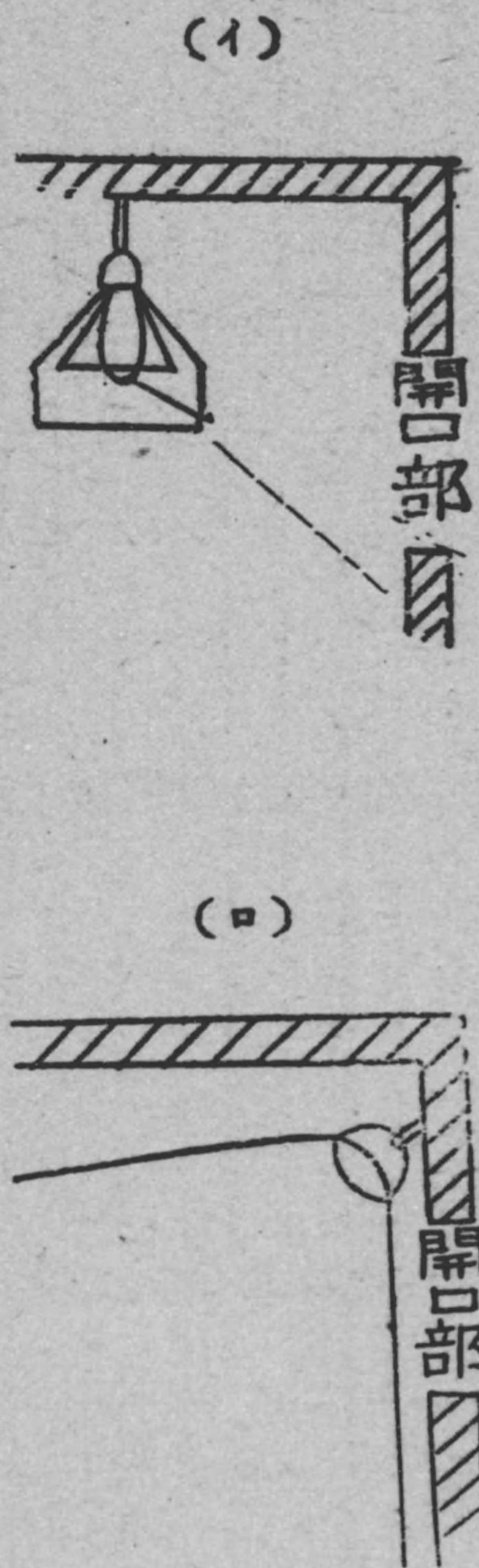
(1) 地表上三〇〇米以上ノ何レノ點ヨリモ光源又ハ其ノ反射光等一切ノ光ヲ認メ得ザルコト
右ノ條件ニ合致スル爲ノ遮光ノ角度ト光源ノ透視距離トノ關係

透視距離	四〇〇米	五〇〇米	六〇〇米	七〇〇米	八〇〇米	一、〇〇〇米	備考
(0) 光源ヨリ發スル光ノ上空ニ向フベキ最大角度	五〇度	三七度	三〇度	二五度	二二度	一八度	

(2) 光源ノ下端ヨリ遮光具ノ下端ニ引キタル線ガ光線ノ下方ニ向ヒ且水平面ト二〇度以上ノ角ヲナスコト

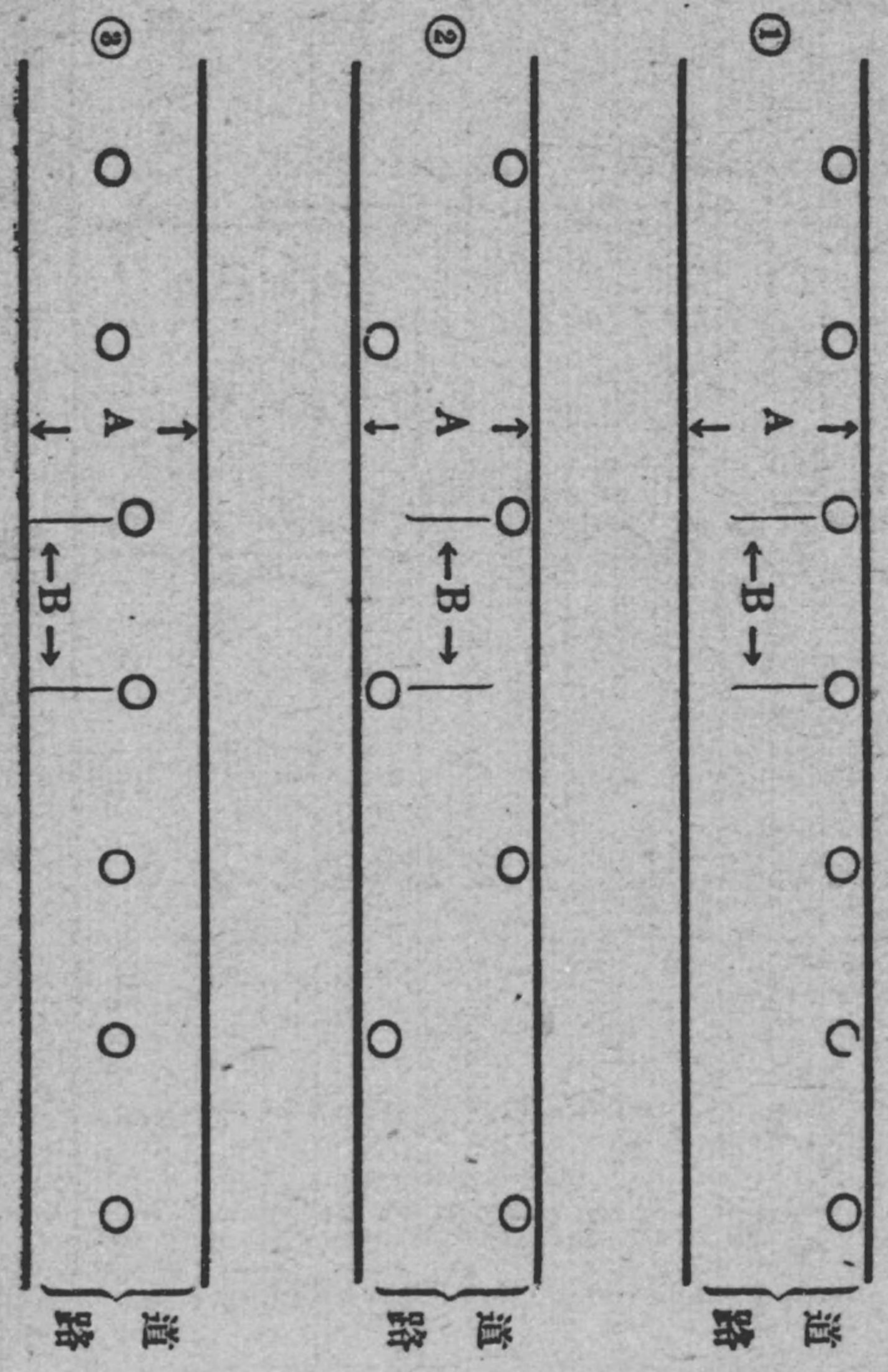


(3) 光線ヨリ直接發スル射光ガ開口部ニ向ハザルコト

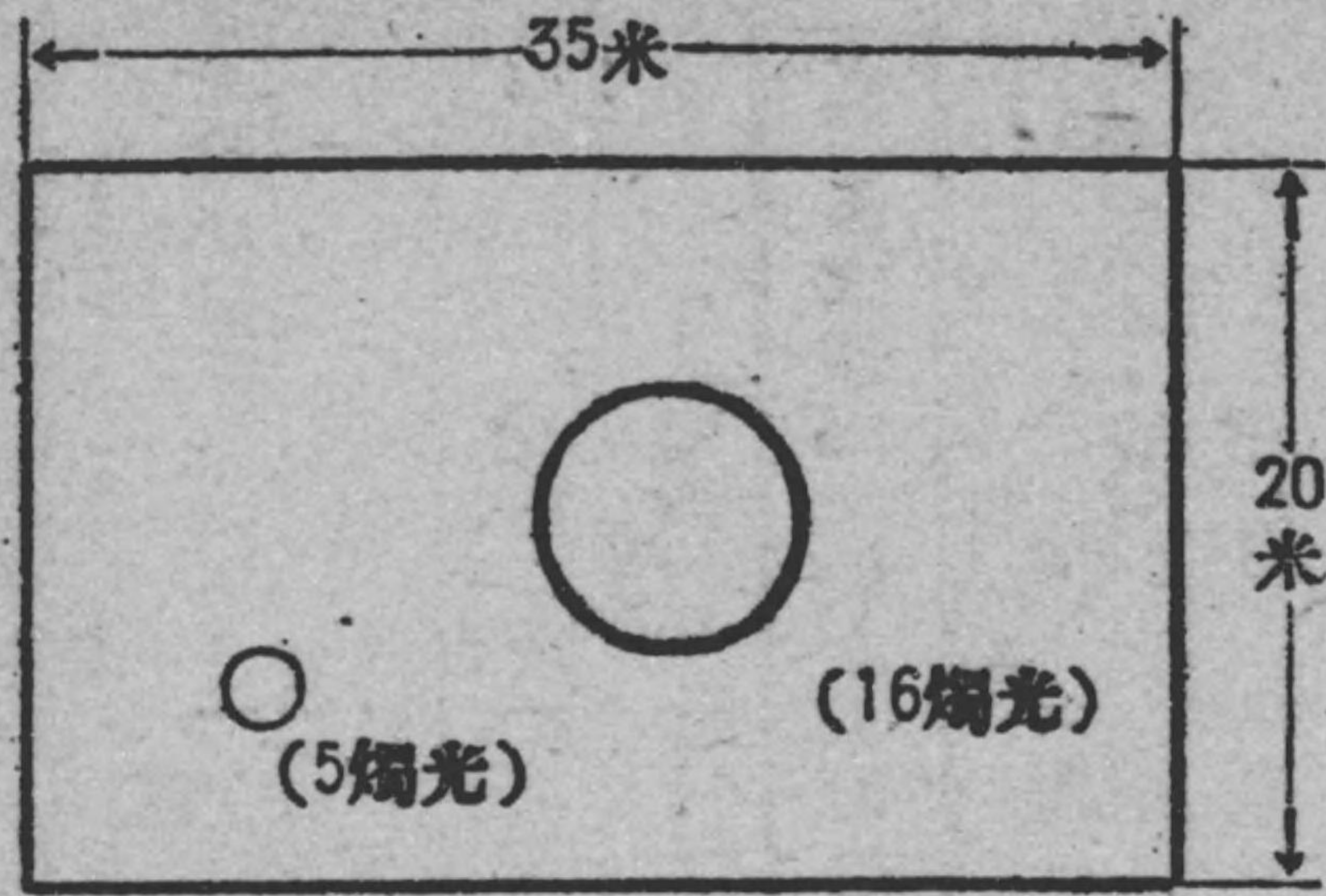


三、街路燈類
(警戒管制乙) 街路面ト殘置一燈ノ場合ノ關係

路幅米 (A)	街路燈ノ最小間隔米 (B)	一六燭光
30	27	25
35	28	26
40	29	27
45	30	28
50	31	29
55	32	30
60	33	31
65	34	32
70	35	33
75	36	34
80	37	35
85	38	36
90	39	37
95	40	38
100	41	39
105	42	40
110	43	41
115	44	42
120	45	43
125	46	44
130	47	45
135	48	46
140	49	47
145	50	48
150	51	49
155	52	50
160	53	51
165	54	52
170	55	53
175	56	54
180	57	55
185	58	56
190	59	57
195	60	58
200	61	59
205	62	60
210	63	61
215	64	62
220	65	63
225	66	64
230	67	65
235	68	66
240	69	67
245	70	68
250	71	69
255	72	70
260	73	71
265	74	72
270	75	73
275	76	74
280	77	75
285	78	76
290	79	77
295	80	78
300	81	79
305	82	80
310	83	81
315	84	82
320	85	83
325	86	84
330	87	85
335	88	86
340	89	87
345	90	88
350	91	89
355	92	90
360	93	91
365	94	92
370	95	93
375	96	94
380	97	95
385	98	96
390	99	97
395	100	98
400	101	99
405	102	100
410	103	101
415	104	102
420	105	103
425	106	104
430	107	105
435	108	106
440	109	107
445	110	108
450	111	109
455	112	110
460	113	111
465	114	112
470	115	113
475	116	114
480	117	115
485	118	116
490	119	117
495	120	118
500	121	119
505	122	120
510	123	121
515	124	122
520	125	123
525	126	124
530	127	125
535	128	126
540	129	127
545	130	128
550	131	129
555	132	130
560	133	131
565	134	132
570	135	133
575	136	134
580	137	135
585	138	136
590	139	137
595	140	138
600	141	139
605	142	140
610	143	141
615	144	142
620	145	143
625	146	144
630	147	145
635	148	146
640	149	147
645	150	148
650	151	149
655	152	150
660	153	151
665	154	152
670	155	153
675	156	154
680	157	155
685	158	156
690	159	157
695	160	158
700	161	159
705	162	160
710	163	161
715	164	162
720	165	163
725	166	164
730	167	165
735	168	166
740	169	167
745	170	168
750	171	169
755	172	170
760	173	171
765	174	172
770	175	173
775	176	174
780	177	175
785	178	176
790	179	177
795	180	178
800	181	179
805	182	180
810	183	181
815	184	182
820	185	183
825	186	184
830	187	185
835	188	186
840	189	187
845	190	188
850	191	189
855	192	190
860	193	191
865	194	192
870	195	193
875	196	194
880	197	195
885	198	196
890	199	197
895	200	198
900	201	199
905	202	200
910	203	201
915	204	202
920	205	203
925	206	204
930	207	205
935	208	206
940	209	207
945	210	208
950	211	209
955	212	210
960	213	211
965	214	212
970	215	213
975	216	214
980	217	215
985	218	216
990	219	217
995	220	218
1000	221	219

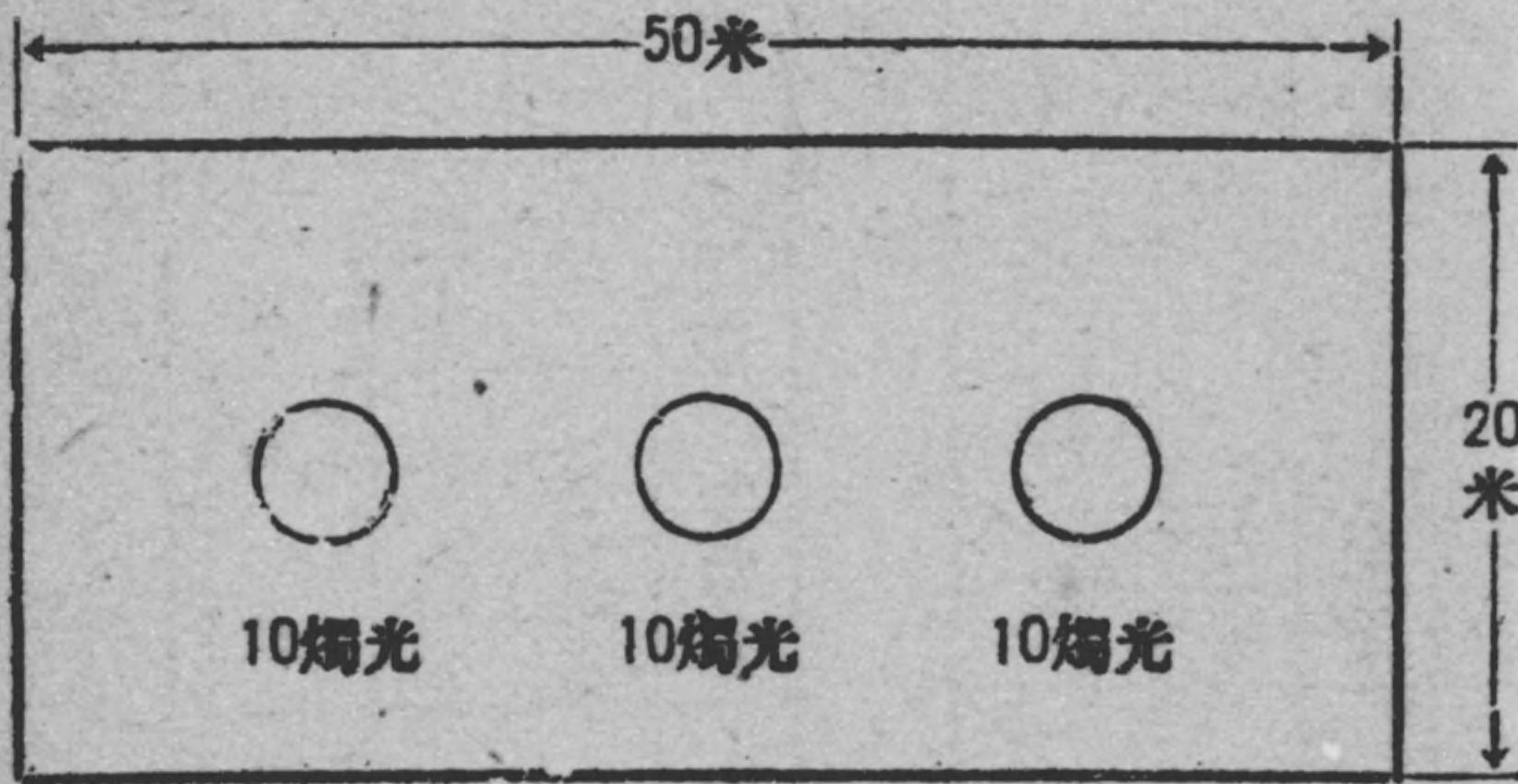


1、2箇點燈ノ場合

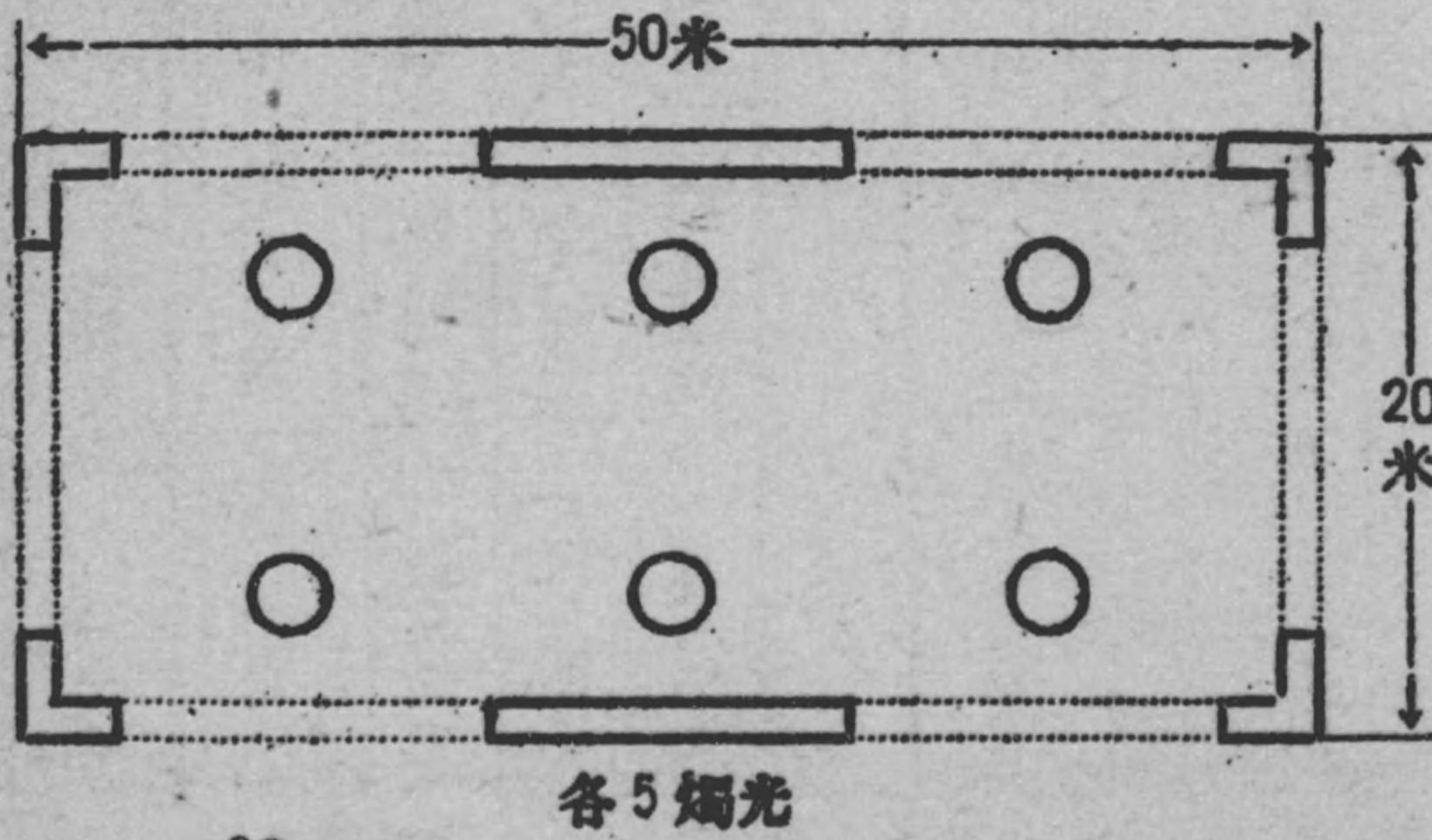


口、作業面ト殘置燈トノ關係

2、3箇點燈ノ場合



3、6箇點燈ノ場合



(側壁ナキ建物)

四、屋外作業燈類 (警戒管制乙)
イ、作業面積ト殘置一燈ノ場合ノ關係

縦幅 (米)		横幅 (米)	燭光
三	三		
四	三	三	燭光
五	三	三	燭光
六	三	三	燭光
九	三	三	燭光
一〇	三	三	燭光
二〇	三	三	燭光
二五	三	三	燭光
三〇	三	三	燭光
三八	三	三	燭光
四五	三	三	燭光
五〇	三	三	燭光
五五	三	三	燭光
六〇	三	三	燭光
六六	三	三	燭光
七〇	三	三	燭光
七五	三	三	燭光
八〇	三	三	燭光
八三	三	三	燭光
八六	三	三	燭光
九〇	三	三	燭光
九五	三	三	燭光
一〇〇	三	三	燭光
一〇六	三	三	燭光
一一〇	三	三	燭光
一一六	三	三	燭光
一二〇	三	三	燭光
一二六	三	三	燭光
一三〇	三	三	燭光
一三七	三	三	燭光
一四〇	三	三	燭光
一四六	三	三	燭光
一五〇	三	三	燭光
一五五	三	三	燭光
一六〇	三	三	燭光
一六六	三	三	燭光
一七〇	三	三	燭光
一七六	三	三	燭光
一八〇	三	三	燭光
一八三	三	三	燭光
一八六	三	三	燭光
一九〇	三	三	燭光
一九五	三	三	燭光
二〇〇	三	三	燭光
二〇六	三	三	燭光
二一〇	三	三	燭光
二一六	三	三	燭光
二二〇	三	三	燭光
二二六	三	三	燭光
二三〇	三	三	燭光
二三六	三	三	燭光
二四〇	三	三	燭光
二四六	三	三	燭光
二五〇	三	三	燭光
二五五	三	三	燭光
二六〇	三	三	燭光
二六六	三	三	燭光
二七〇	三	三	燭光
二七六	三	三	燭光
二八〇	三	三	燭光
二八三	三	三	燭光
二八六	三	三	燭光
二九〇	三	三	燭光
二九五	三	三	燭光
三〇〇	三	三	燭光
三〇六	三	三	燭光
三一〇	三	三	燭光
三一六	三	三	燭光
三二〇	三	三	燭光
三二六	三	三	燭光
三三〇	三	三	燭光
三三六	三	三	燭光
三四〇	三	三	燭光
三四六	三	三	燭光
三五〇	三	三	燭光
三五五	三	三	燭光
三六〇	三	三	燭光
三六六	三	三	燭光
三七〇	三	三	燭光
三七六	三	三	燭光
三八〇	三	三	燭光
三八三	三	三	燭光
三八六	三	三	燭光
三九〇	三	三	燭光
三九五	三	三	燭光
四〇〇	三	三	燭光
四〇六	三	三	燭光
四一〇	三	三	燭光
四一六	三	三	燭光
四二〇	三	三	燭光
四二六	三	三	燭光
四三〇	三	三	燭光
四三六	三	三	燭光
四四〇	三	三	燭光
四四六	三	三	燭光
四五〇	三	三	燭光
四五五	三	三	燭光
四六〇	三	三	燭光
四六六	三	三	燭光
四七〇	三	三	燭光
四七六	三	三	燭光
四八〇	三	三	燭光
四八三	三	三	燭光
四八六	三	三	燭光
四九〇	三	三	燭光
四九五	三	三	燭光
五〇〇	三	三	燭光
五〇六	三	三	燭光
五一〇	三	三	燭光
五一六	三	三	燭光
五二〇	三	三	燭光
五二六	三	三	燭光
五三〇	三	三	燭光
五三六	三	三	燭光
五四〇	三	三	燭光
五四五	三	三	燭光
五五〇	三	三	燭光
五五五	三	三	燭光
五六〇	三	三	燭光
五六六	三	三	燭光
五七〇	三	三	燭光
五七六	三	三	燭光
五八〇	三	三	燭光
五八三	三	三	燭光
五八六	三	三	燭光
五九〇	三	三	燭光
五九五	三	三	燭光
六〇〇	三	三	燭光
六〇六	三	三	燭光
六一〇	三	三	燭光
六一六	三	三	燭光
六二〇	三	三	燭光
六二六	三	三	燭光
六三〇	三	三	燭光
六三六	三	三	燭光
六四〇	三	三	燭光
六四六	三	三	燭光
六五〇	三	三	燭光
六五五	三	三	燭光
六六〇	三	三	燭光
六六六	三	三	燭光
六七〇	三	三	燭光
六七六	三	三	燭光
六八〇	三	三	燭光
六八三	三	三	燭光
六八六	三	三	燭光
六九〇	三	三	燭光
六九五	三	三	燭光
七〇〇	三	三	燭光
七〇六	三	三	燭光
七一〇	三	三	燭光
七一六	三	三	燭光
七二〇	三	三	燭光
七二六	三	三	燭光
七三〇	三	三	燭光
七三六	三	三	燭光
七四〇	三	三	燭光
七四六	三	三	燭光
七五〇	三	三	燭光
七五五	三	三	燭光
七六〇	三	三	燭光
七六六	三	三	燭光
七七〇	三	三	燭光
七七六	三	三	燭光
七八〇	三	三	燭光
七八三	三	三	燭光
七八六	三	三	燭光
七九〇	三	三	燭光
七九五	三	三	燭光
八〇〇	三	三	燭光
八〇六	三	三	燭光
八一〇	三	三	燭光
八一六	三	三	燭光
八二〇	三	三	燭光
八二六	三	三	燭光
八三〇	三	三	燭光
八三六	三	三	燭光
八四〇	三	三	燭光
八四六	三	三	燭光
八五〇	三	三	燭光
八五五	三	三	燭光
八六〇	三	三	燭光
八六六	三	三	燭光
八七〇	三	三	燭光
八七六	三	三	燭光
八八〇	三	三	燭光
八八三	三	三	燭光
八八六	三	三	燭光
八九〇	三	三	燭光
八九五	三	三	燭光
九〇〇	三	三	燭光
九〇六	三	三	燭光
九一〇	三	三	燭光
九一六	三	三	燭光
九二〇	三	三	燭光
九二六	三	三	燭光
九三〇	三	三	燭光
九三六	三	三	燭光
九四〇	三	三	燭光
九四六	三	三	燭光
九五〇	三	三	燭光
九五五	三	三	燭光
九六〇	三	三	燭光
九六六	三	三	燭光
九七〇	三	三	燭光
九七六	三	三	燭光
九八〇	三	三	燭光
九八三	三	三	燭光
九八六	三	三	燭光
九九〇	三	三	燭光
九九五	三	三	燭光
一〇〇〇	三	三	燭光

五、屋外燈ノ地表上ノ照度(ルクス)
イ、最大照度ヲ與フル電燈ノ燭光數

電燈ノ高さ(米)	最大照度(ルクス)	三米	四米	五米	六米	七米	八米
0.15	1.4燭光	2.4燭光	3.8燭光	5.4燭光	7.2燭光	9.6燭光	12.8燭光
0.2	1.8燭光	3.2燭光	5.0燭光	7.2燭光	9.8燭光	12.8燭光	19.2燭光
0.3	2.7燭光	4.8燭光	7.5燭光	10.8燭光	14.4燭光	19.2燭光	28.8燭光

ロ、最大照度ヲ與フル電燈ノ高さ

電燈ノ燭光數	最大光度(ルクス)	五燭光	八燭光	一〇燭光	一六燭光
0.15	5.8米	7.3米	8.2米	10.3米	
0.2	5.0米	6.3米	7.0米	8.9米	
0.3	4.0米	5.1米	5.8米	7.3米	

六、隠蔽、減光、遮光
イ、隠蔽材料ト透過率トノ關係

種別	名稱	透過率	
		一枚ノ場合ノ重ネ枚數	三枚以下ト爲ス場合ノ重ネ枚數
金屬、木板、革類	金屬板、木板、擬革類	0	0
布類	黒洋襦子、兩面ゴム引黒布、ゴム引クロス	0	0
	黒帆木綿	0	0
	黒四綾織木綿	0.00010	0.00010
	黒三綾織木綿	0.00003	0.00003
	國防色四綾織木綿	0.00005	0.00005
	黒ガス、毛襦子	0.00011	0.00011
	片面ゴム引黒布、黒木綿(黒新モス、黒天竺木綿)	0.005	0.005
	黄色、褐色、綠色等ノ濃色窓掛(ブラインド)	0.02	0.02

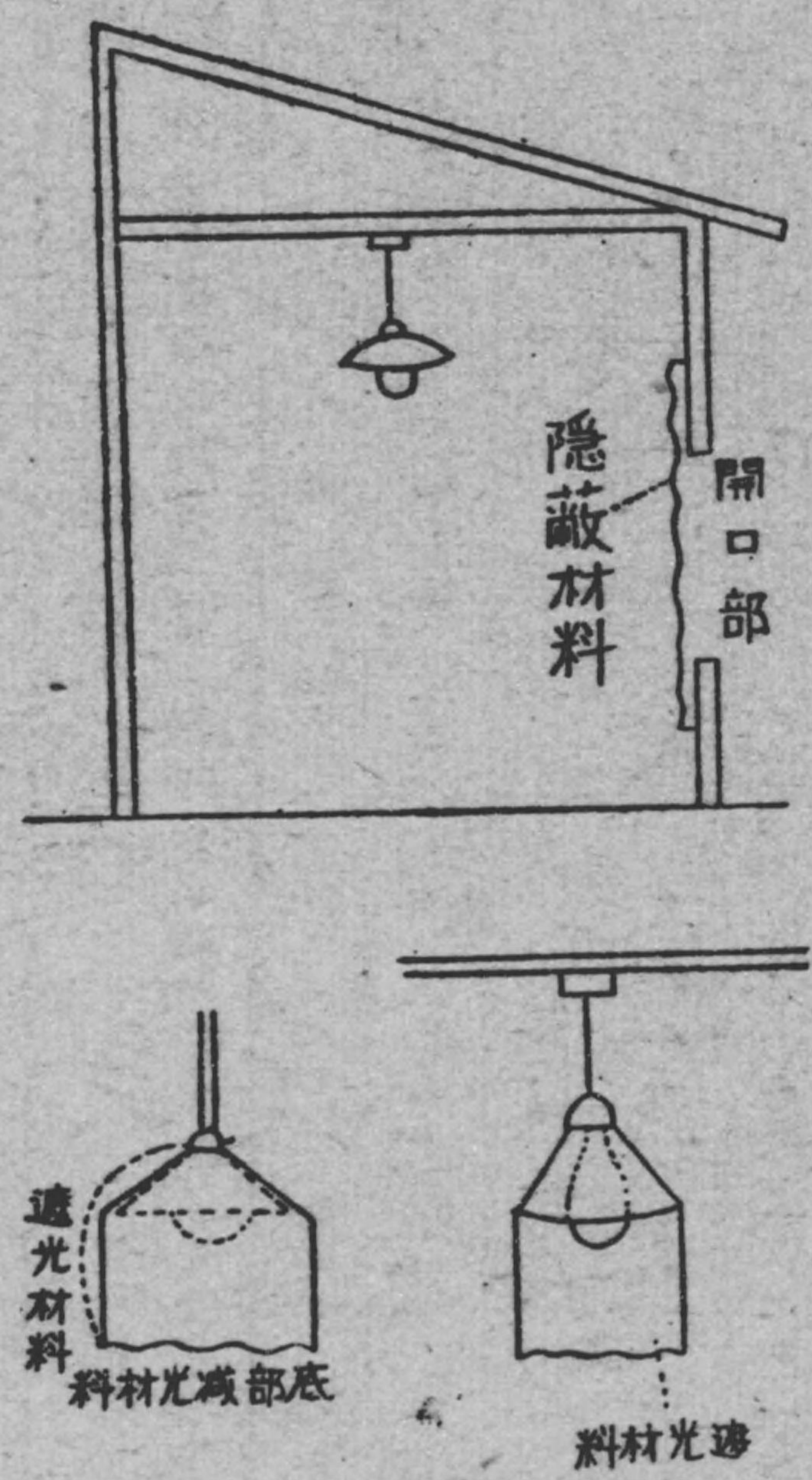
紙類	透過率	重枚数	遮光ニ適合ス
白色窓掛(プラインド)	0.24		
白天竺木綿	0.3		
白新モス	0.5		
馬糞紙	0	1	
両面黒塗新聞紙	0.0001	2	
両面黒塗障子紙、両面黒塗ハトロン紙	0.01	3	
両面刷新聞紙	0.14	5	
障子紙、ハトロン紙	0.4	3	

備考 本表ハ大體ノ標準ヲ示シタルニ過ギズ尙數枚ノ隠蔽材料ヲ重ネタル場合ノ透過率ハ一枚ノ透過率ヲ枚數冪シタルモノニ相當ス

透過率トハ光ノ透ス割合デ透過率0.14トハ一分ノ四割ノ光ヲ透スコトヲ意味スル

透過率0.0001以下トナス場合ノ重ネ枚數ハ減光、遮光セザル場合ノ隠蔽ニ適ス

透過率0.003以下トナス場合ノ重ネ枚數ハ遮光ニ適合ス



ロ、黒新モス一枚又ハ黒天竺木綿一枚ニテ減光スル場合

減光前燭光	五	一〇	一六	二四	三二	五〇
減光後燭光	〇・二五	〇・五	〇・八	一・二	一・六	二・五

ハ、警戒管制ニ於ケル屋内燈ノ減光ノ程度
(室ノ廣サト室内ニ許容シ得ル總燭トノ關係)

管別	一燈ノ最大燭光數	室ノ廣サ		備考							
		平方米	疊數	セルハ許容最大燭光ヲ超過スルヲ以テ二燈以上ヲ使用スベキモノトス	一	二	三	四	五	六	七
乙	(イ)	五〇	五	一〇	一五	二〇	二五	三〇	四〇	五〇	(六〇)
	(ロ)	五	〇・五	一	一・五	二・三	三	四	五	(六)	
甲	二	〇・二五	〇・五	〇・七五	一・一	一・五	二	(二・五)	(三)		
	三	一・五	三	四・五	六・七五	九	一二	一五	一八		

備考 表中()セルハ許容最大燭光ヲ超過スルヲ以テ二燈以上ヲ使用スベキモノトス

ニ、甲警戒管制ノ減光且遮光

室ノ廣サ三平方米(一坪、二疊)ニ付〇・五燭光デ一燈二燭光以下トシ射光ガ開口部ニ向ハザルヲ條件トス

故ニ開口部ニ向ザル様前記表(六ノイ)ノ遮光具(例黒木綿二枚、兩面刷新聞紙三枚、黒ガス一枚又ハ兩面黒塗新聞紙一枚)ヲ以テ遮光ス

而シテ十疊間トスレバ前記ノ表(六ノハ)ニ依リ二・五燭光ナリ

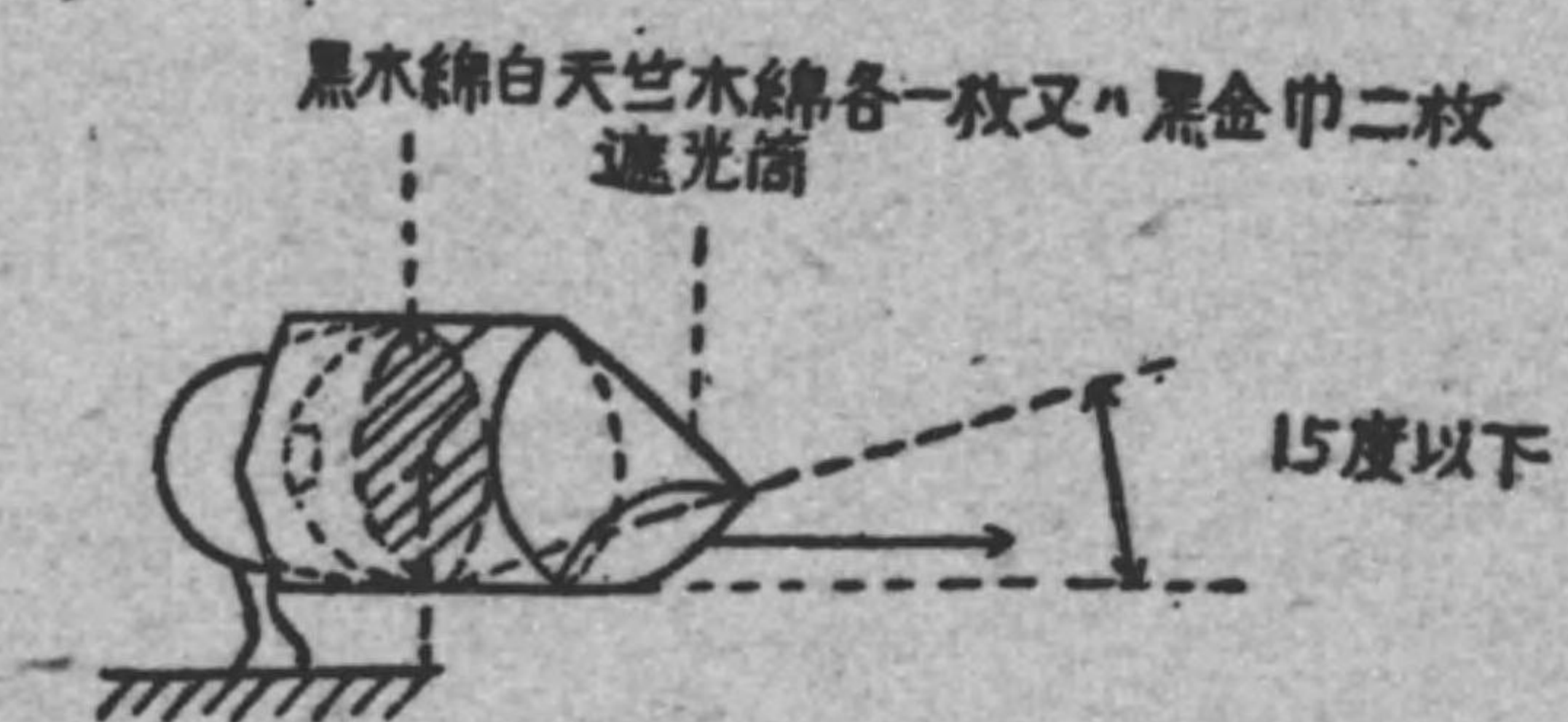
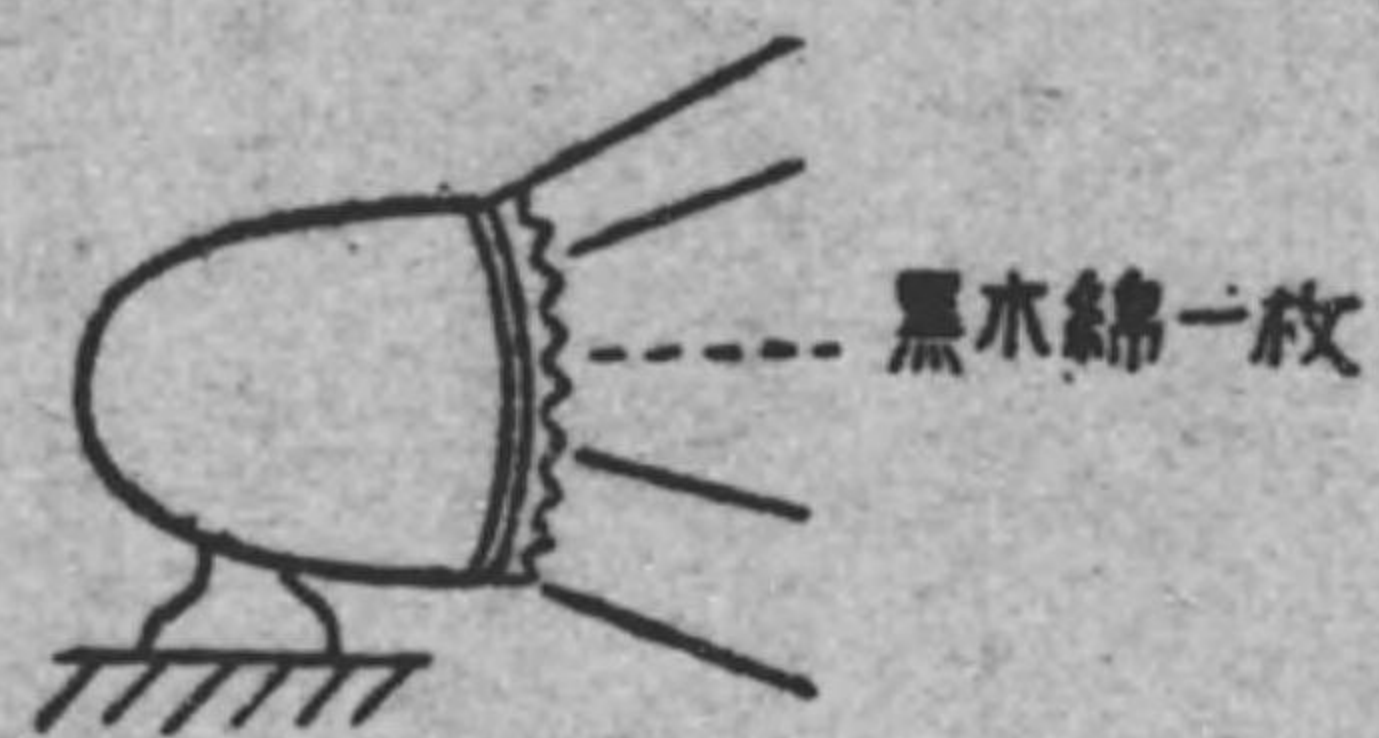
而シテ此ノ室ニ平常十燭光ト三十二燭光ノ二燈アリ二燈トモ利用スルトセバ前記ノ表(六ノロ)ニ依リ黒新モス一枚又ハ黒天竺木綿一枚ヲ以テ下部ヲ覆フイバ十燭光ハ〇・五燭光トナリ三十二燭光ハ一・六燭光トナリテ各燈トモ二燭光以下ニシテ二燈ヲ合シテモ二・一燭光ニシテ二・五燭光以下ナリ

ホ、乙警戒管制ノ減光且遮光

自動車前照燈

乙 警戒管制

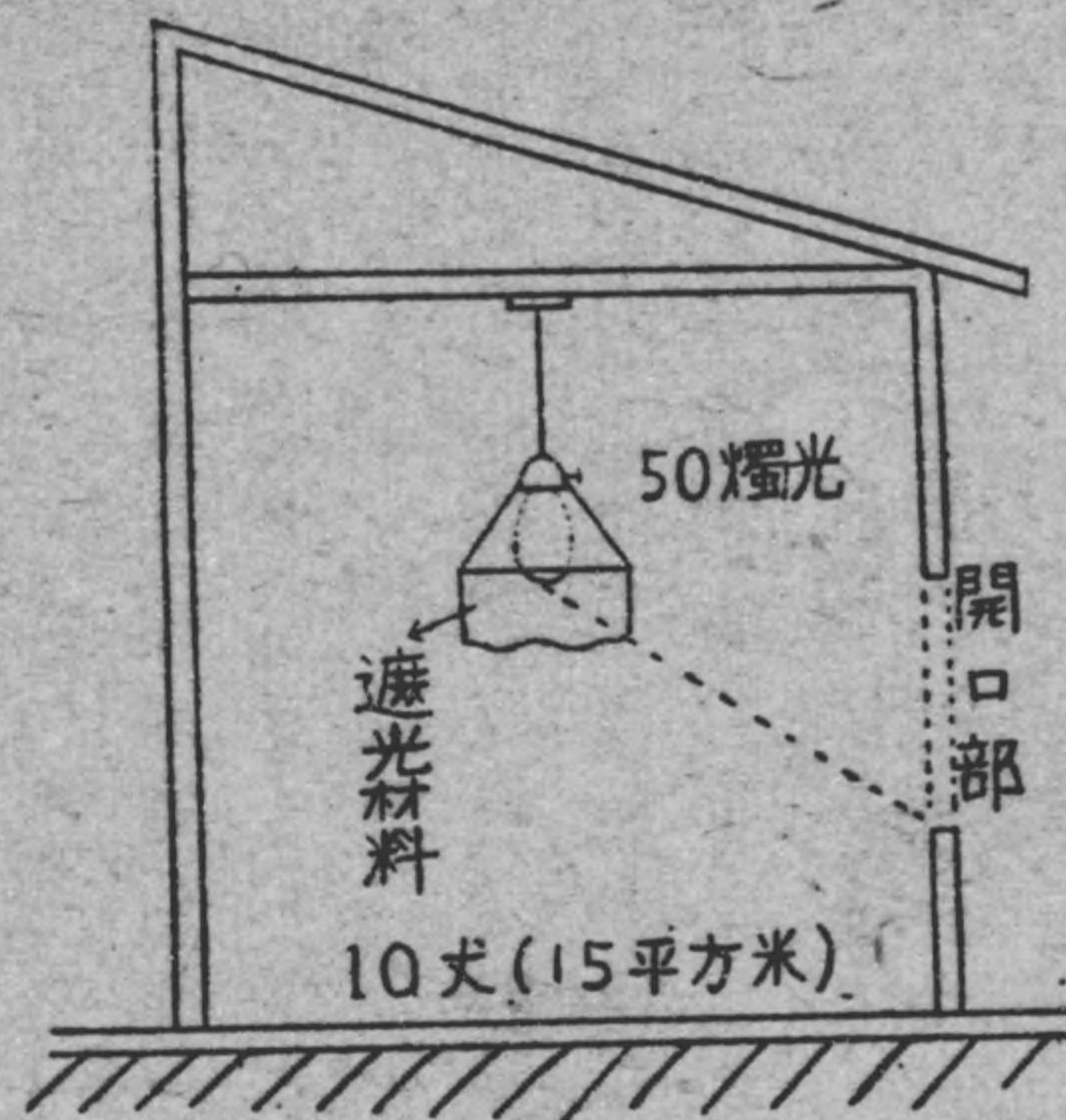
甲 警戒管制



空襲管制

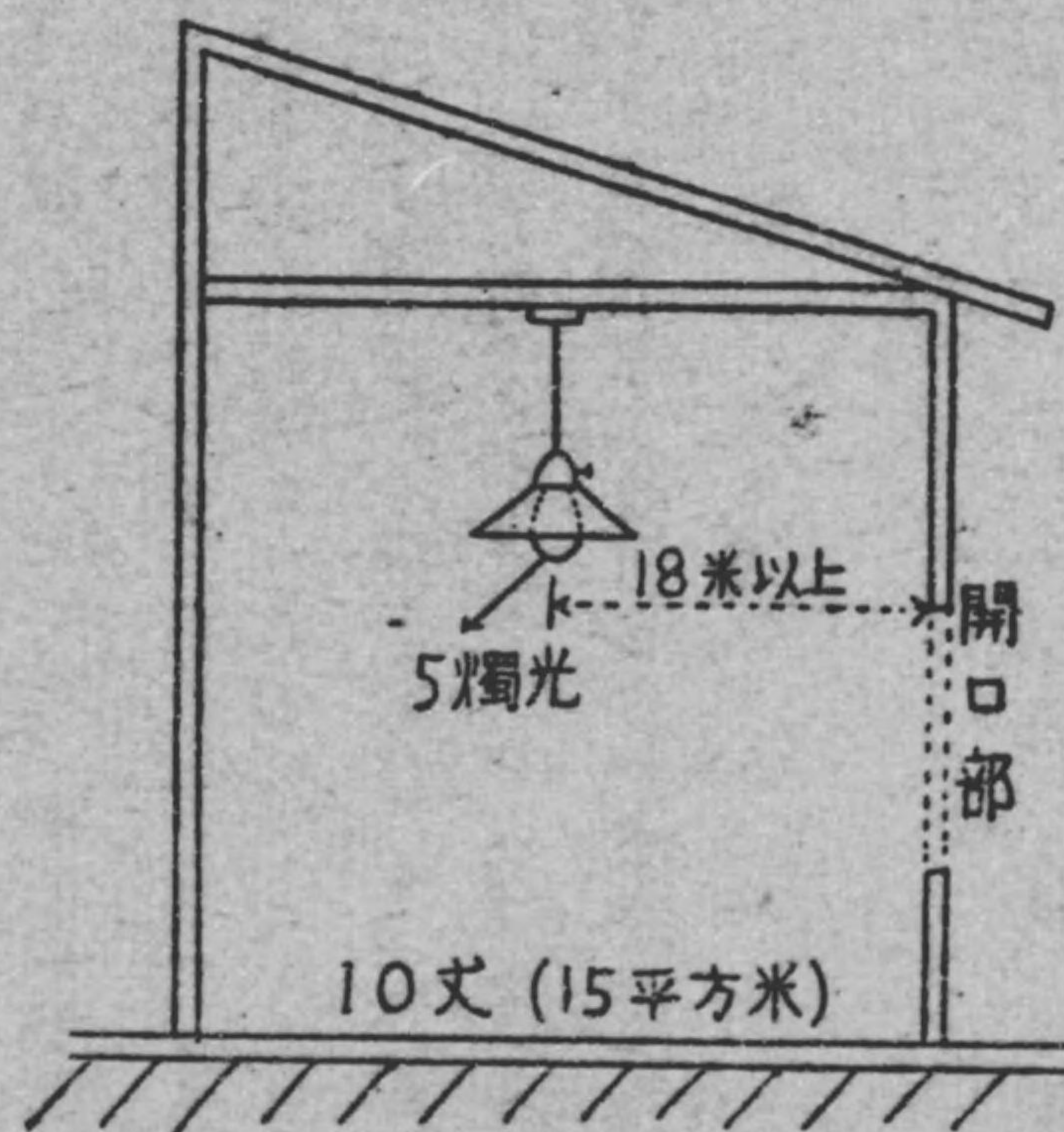
燈火管制規則第五條第二號ニ依リ空襲管制
中通行シ得ル指定ヲ受ケタル自動車ハ透視
距離三百米（前照燈ハ黒木綿二枚、黒ガス
一枚、尾燈ハ十燭光ノトキ黒木綿三枚、五
燭光ノトキハ黒ガス一枚ニテ覆フコト）ノ
燈火前後ニ各一燈トシ燈火ニ規定ノ標識ヲ
爲ス標識ノ線ノ巾ハ一糎黒木綿一枚、白天
竺木綿二枚、尙空襲管制中甲地域ノトキハ
此レニ遮光筒ヲ用フ

乙ノ(イ)



三平方米ニ付一〇燭光
一燈五〇燭光以下

乙ノ(ロ)



三平方米ニ付一燭光
以下一燈五燭光以下

船舶ノ燈火管制ニ關スル 逕信省告示

(逕信省告示第千八十號)

燈火管制ノ訓練ヲ爲ス場合ニ於テ海上衝突豫
防法ニ規定スル船燈ニ關シテハ燈火管制規則
第五號表備考ノ規定(警戒管制ノ場合及空襲
管制ノ場合ヲ通ジ警戒管制ノ乙ノ程度ニ依ル
コト)ヲ適用ス但シ事情ノ許ス限リ同表本欄
ノ規定ニ從フベシ

昭和十二年四月九日

逕信省管船局長通知 燈火管制ニスル關係

昭和十三年七月二十五日
船航第九三五號
逕信省管船局長ヨリ
茨城縣知事宛通知

船舶ハ昭和十三年四月内務、陸軍、海軍、逕
信、鐵道省令第一號燈火管制規則第五號表ノ
規定ニ依リ其ノ船燈ヲ海上衝突豫防法ノ規定
ニ依ル最少限度ノ光力ニ調節シ又上空ニ對シ
遮光スルヨトヲ要スル處右ニ付テハ別紙ニ依
リ措置スル様貴管下一般船舶ヘ周知方御取計
相成度

燈火管制規則ニ依リ船燈ノ光力調

節並ニ上空遮光ニ關スル件

第一 油船燈ニ付テハ其ノ光力大體海上衝突

豫防法ニ定ムル最小限度ニ相當スルモノト
看做シ得ルヲ以テ平常ノ儘ト爲シ置キ差支
ナキコト但シ船舶設備規定第九號表及漁船
特殊規程第三號表ノ摘要又ハ備考中ニ示ス
上級ノ船燈ヲ使用スル場合、甲種又ハ乙種
白燈ヲ以テ船尾燈ニ代用スル場合若ハ別表
第一號ニ掲グル乙種檣燈又ハ船尾燈ヲ夫々
檣燈又ハ船尾燈トシテ使用スル場合ニ於テ
ハ使用船燈ノ光力ガ海上衝突豫防法ニ定ム
ル限度ニ比シ餘裕アルコトヲ考慮シ適當ニ
蕊ヲ調節スルコト

第二 電氣船燈ニ付テハ左ノ各號ノ何レカノ
方法ヲ採ルコト

(イ)當該電氣船燈ヲ油船燈ニ取換ヘ第一ニ
依ルコト

(ロ)電球ヲ海上衝突防止ニ定ムル光達距離ニ對スル最小所要燭光數又ハ之ニ相當スル「ワット」數ノ電球ニ取換フルコト此ノ場合ニ於テ最小所要燭光數ハ左ノ算式ニ依リ之ヲ算定シ又「ワット」數ハ燭光數ノ一・二五倍ト看做スコト

$$C = \frac{S^2}{2.5} \times K$$

C ハ求ムル燭光數

S ハ海上衝突防止法ニ定ムル光達距離 (海里ニテ)

K ハ保數ニシテ下表ニ依ル

航 燈 ノ 種 類	K
燈罩ニ圓筒形硝子ヲ使用シタル 燈罩其ノ他ノ着色燈	10.0

C_1 ハ所要最小燭光數

第三 別表第二號ハ各種電氣船燈ニ於テ使用電球ニ對スル所定ノ電壓ガ「〇〇」ヴォルト又ハ「二二〇」ヴォルト、「ワット」數ガ「二〇」ワット又ハ「四〇」ワットナル場合ニ付所要最小燭光數及低減電壓ヲ第二ノ(ロ)及(ハ)ニ依リ算定例示シタルモノニシテ表ニ掲グル條件ニ該當スル電氣船燈ニ付テハ之ニ依リ低減電壓ヲ定メ差支ヘナキコト尙一般ニ電球ノ燭光數ハ正負一四〇程度ノ公差ヲ認メラレ居ルモノナルヲ以テ低減電壓ニ付テモ自然適當ノ斟酌ハ之ヲ承認シ可然キモノトス

第四 上空遮光ニ付テハ左記構造ノ遮蔽具ヲ使用スルコト

燈罩ニ圓筒形硝子ヲ使用シタル 燈罩其他ノ着色燈	1.0
燈罩ニ透鏡ヲ使用シタル燈罩其 他ノ着色燈	5.0
燈罩透鏡ヲ使用シタル燈罩	0.1

(ハ)實際ノ燭光數ガ(ロ)ニ依リ算定シタル所要最小燭光數トナル迄使用電壓ヲ減ズルコト此ノ場合ニ於テ所要ノ低減電壓ハ左ノ算式ニ依リ算定スルコト

$$V_1 = V \times \frac{O_1}{C}$$

V_1 ハ求ムル低減電壓(ヴォルト)

V ハ使用電球ニ對スル所定ノ電壓(ヴォルト)

C ハ Vニ對スル燭光數

(イ)遮蔽具ノ外縁ハ燈窓タリ前方へ甲種船燈、甲種橋燈及甲種白燈ニ在リテハ約三〇厘其ノ他ノ船燈ニ在リテハ約一五厘突出シ且ツ燈窓上端ヨリ下方へ燈窓ノ三分ノ一迄ヲ掩フ如キ構造ナルコト

(ロ)遮蔽具ハブリキ又ハトタン類ヲ使用シ全部黒色ニ塗装スルコト

低 減 電 壓			使 用 電 球
(B)無色透鏡使用		硝子使用	
100V / 場 合	220V / 場 合		
60(59.7)	131(131.4)	159(159.3)	又ハ 100V-40W 220V-40W
—	—	116(116)	又ハ 100V-20W 220V-20W
68(68.4)	150(149.7)	182(181.5)	又ハ 100V-40W 220V-40W
—	—	150(149.7)	又ハ 100V-20W 220V-20W
—	—	79(79.0)	又ハ 100V-20W 220V-20W
—	—	65(65.1)	又ハ 100V-40W 220V-40W
—	—	79(79.0)	又ハ 100V-20W 220V-20W
—	—	182(181.5)	又ハ 100V-40W 220V-40W
—	—	182(181.5)	又ハ 100V-40W 220V-40W
—	—	150(149.7)	又ハ 100V-20W 220V-20W

別表第二號

別表第一號													製造免許證書番號	製造免許品名	製造免許製造人
第一二〇〇號	第一一六六號	第一一三九號	第一一二一號	第一〇九四號	第一〇九〇號	第一〇七八號	第一二二四號	第一一六九號	第一一六三號	第一一四一號	第一一二五號	第一〇七四號	乙種橋燈	製造免許品名	製造免許製造人
同	同	同	同	同	同	船尾燈	同	同	同	同	同	同	(油用)第一號	(油用)第一號	免許製造人
(油用)第一號	(油用)第二號	(油用)第一號	(油用)第一號	(油用)第一號	(油用)第二號	(油用)第二號	(油用)第一號	(油用)第二號	(油用)第二號	(油用)第一號	(油用)第一號	(油用)第二號	(油用)第一號	(油用)第二號	免許製造人
日本船燈株式會社	原善造	松原與三郎	柴田武司	大谷增太郎	株式會社本多南店	合資會社日本燈具製造所	日本船燈株式會社	株式會社本多商店	原善造	大谷增太郎	松原與三郎	合資會社日本燈具製造所	(油用)第一號	(油用)第二號	免許製造人

海上衝突豫防法 (抄)

(明治二十五年六月二十三日)
法律 第五號

船 燈

本法中船燈ニ關シテ見得トハ晴天ノ暗夜ニ於テ認メ得ルヲ謂フ

第一條 船燈ニ關スル規定ハ天氣ノ如何ニ關セズ日波ヨリ日出マデ必ズ遵守スベシ此ノ時間中ハ本法ニ定メタル船燈ノ外之ニ紛レ易キ燈ヲ掲グベカラズ

第二條 汽船ハ航行中必ズ左ノ燈ヲ掲グベシ

一 前橋若ハ其ノ前面ニ於テ又ハ前橋ヲ具ヘザルトキハ本船ノ前方ニ於テ船體上二十尺ヨリ低カラザル所ニ若ハ船幅二十尺ヲ超ニルトキハ其ノ船幅ヨリ低カラザル

船 燈 種 類	海上衝突豫防法ニ定ムル光達距離 (海里)	所要最小燭光數	(A) 圓筒形
			100Vノ場 合
甲 種 橋 燈	5	(A) 10 (B) 5	72(72.4)
乙 種 橋 燈	2	(A) 1.6	53(52.8)
甲 種 舷 燈	2	(A) 16 (B) 8	83(82.5)
乙 種 舷 燈	1	(A) 4	68(68.4)
船 尾 燈	1	(A) 0.4	36(35.9)
碇泊燈	1	甲種白燈	(A) 0.4 30(29.6)
		乙種白燈	(A) 0.4 36(35.9)
紅 燈	2	(A) 16	83(82.5)
三 色 燈	2	(A) 16	83(82.5)
甲 種 兩 色 燈	1	(A) 4	68(68.4)

所ニ亮明ノ白燈一箇ヲ掲グベシ然レドモ船體上四十尺以上ノ所ニ掲グルヲ要セズ此ノ燈ハ常ニ不同ナキ光ヲ發シテ鏡盤ノ二十點間ヲ照スベク製造シ其ノ射光ヲ左右舷外ヘ十點間ヲ、即チ船ノ正首ヨリ各舷正横後ノ二點マデ及ブベキ様装置シ且少クモ五海里ノ距離ヨリ見得ベキモノヲ用フベシ

二 右舷ニ綠燈ヲ掲グベシ此ノ燈ハ常ニ不同ナキ光ヲ發シテ鏡盤ノ十點間ヲ照スベク製造シ其ノ射光ヲ船ノ正首ヨリ右舷正横後ノ二點マデ及ブベキ様装置シ且少クモ二海里ノ距離ヨリ見得長キモノヲ用フベシ

三 左舷ニ紅燈ヲ掲グベシ此ノ燈ハ常ニ不

同ナキ光ヲ發シテ鏡盤ノ十點間ヲ照スベク製造シ其ノ射光ヲ船ノ正首ヨリ左舷正横後ノ二點マデ及ブベキ様装置シ且少クモ二海里ノ距離ヨリ見得ベキモノヲ用ウベシ

四 本條第二項第三項ノ舷燈ニハ其ノ燈ヨリ前ニ少クモ三尺突出シタル隔板ヲ其ノ燈ノ内側ニ裝置シ右舷ノ綠光ハ左舷ニアル船ヨリ左舷ノ紅光ハ右舷ニアル船ヨリ見得ザル様ニ爲スベシ

五 汽船航行中ハ本條第一項ニ規定シタル白燈ノ外ニ同種ノ白燈一箇ヲ増掲スルヲ得但シ此ノ場合ニ於テハ其ノ兩燈ヲ龍骨線上前後ニ隔テ其ノ前燈ヲ後燈ヨリ少クモ十五尺下方ニ掲グ其ノ前後ノ距離ハ上

下ノ距離ヨリモ多キヲ要ス

第三條 汽船他船ヲ引キテ航行スルトキハ兩舷燈ヲ掲グル外ニ白燈二箇ヲ上下ニ少クモ六尺ヲ隔テ連掲スベシ此ノ白燈ハ第二條第一項ノ白燈ト同一ノ構造ニシテ且同一ノ場所ニ掲グルヲ要ス然レドモ二艘以上ヲ引キテ航行スルトキハ其ノ引キタル船ノ船尾ト最後ニ引カルル船ノ船尾トノ距離六百尺以上ノ場合ニ於テハ右二箇ノ白燈ヨリ上方若ハ下方六尺ノ所ニ尙同種ノ白燈一箇ヲ増掲スベシ

本條ノ引船ハ引カルル船舶ノ操舵目標トシテ烟突若ハ後橋ノ後面ヘ小形ノ白燈一箇ヲ掲グルヲ得但シ此ノ白燈ハ本船正横ヨリ前面ニ見得ザル様ニ爲スヲ要ス

第四條 事變ノ爲運轉自由ヲ得ザル船舶ハ夜

間ニアリテハ第二條第一項ニ規定シタル白燈ト同一ノ高サニ於テ最モ見得易キ所ニ(汽船ナレバ其ノ白燈ノ代リ)ニ二箇ノ紅燈ヲ上下ニ少クモ六尺ヲ隔テ連掲スベシ此ノ紅燈ハ周回少クモ二海里ノ距離ヨリ見得ベキモノタルヲ要ス又晝間ニアリテハ最モ見得易キ所ニ直徑二尺ノ黑球若ハ黑色ノ形象二箇ヲ上下ニ少クモ六尺ヲ隔テ連掲スベシ

海底電信線ノ布設又ハ引揚ニ從事スル船舶ハ夜間ニアリテハ第二條第一項ニ規定シタル白燈ノ位置ニ於テ(汽船ナレバ其ノ白燈ノ代リ)ニ三箇ノ燈ヲ上下ニ少クモ六尺ツ、ヲ隔テ連掲スベシ但シ此ノ燈三箇ノ内上

下ノ二箇ハ紅色中央ノ一箇ハ白色ニシテ周

回少クモ二海里ノ距離ヨリ見得ベキモノタルヲ要ス又晝間ニアリテハ最モ見得易キ所ニ直徑二尺以上ノ形象三箇ヲ上下ニ少クモ六尺ツ、ヲ隔テ連掲シ其ノ上下ノ二箇ハ紅色球形ヲ用キ中央ノ一箇ハ白色豎菱形ヲ用ウベシ

本條ノ船舶全ク運行セザルトキハ舷燈ヲ掲グベカラズ然レドモ運行スルトキハ必ズ之ヲ掲グベシ

本條規定ノ燈及形象ハ運轉自由ヲ得ズシテ他船ノ航路ヲ避クル能ハザルノ信號ト認ムベシ

本條ノ信號ハ離船信號ト混同スベカラズ離船信號ハ第三十一條ニ於テ之ヲ規定ス

第五條 航行中ノ帆船及他船ニ引カレテ運行
スル船舶ハ第二條第二項第三項ノ舷燈ノミ
ヲ掲グベシ決シテ同條第一項ノ白燈ヲ掲グ
ベカラズ

第六條 小形船航行中天氣ノ模様ニ因リ綠紅
ノ二舷燈ヲ掲置キ難キトキハ何時ニテモ使
用シ得ベキ標點火シテ之ヲ手近カニ備ヘ置
キ他船ノ我船ニ近寄り來ルカ又ハ我船ノ他
船ニ近寄り行クトキハ衝突ヲ防グニ充分ナ
ル時間ヲ見定メテ其ノ舷燈ヲ他船ヨリ最モ
見得易キ様各舷ニ表示スベシ但シ此ノ時綠
光ハ左舷ヨリ、紅光ハ右舷ヨリ見得ズ且成
ルベク各舷正横後ノ二點ヨリ後方ヘ見得ザ
ル様ニ爲スヲ要ス此ノ綠紅ノ各燈ヲ間違ヒ
ナク容易ニ取扱フ爲綠光ハ綠色紅燈ハ紅色

船首ヨリ各舷正横後ノ二點マデ右舷ハ
綠色左舷ハ紅色ノ射光ヲ及スベク製造
シタル兩色燈一箇ヲ掲グベシ但シ此ノ
燈ハ白燈ヨリ少クモ三尺下方ニ掲グル
ヲ要ス

二 汽艇ハ第一項甲ノ白燈ヲ舷線上九尺ノ
所ヨリ下方ニ掲グルヲ得然レドモ其ノ白
燈ハ乙ノ兩色燈ヨリ高キヲ要ス

三 二十噸未満ノ帆船ハ帆ヲ用ウルト棹櫂
ヲ用フルトニ拘ハラズ一面ハ綠色一面ハ
紅色ノ玻璃ヲ用キタル燈籠一箇ヲ手近カ
ニ備置キ他船ノ我船ニ近寄り來ルカ又ハ
我船ノ他船ニ近寄り行クトキハ衝突ヲ防
グニ充分ナル時間ヲ見定メテ之ヲ表示ス
ベシ但シ此ノ時綠光ハ左舷ヨリ紅光ハ右

ニテ外面ヲ塗り且適當ノ隔板ヲ備置クベシ

第七條 總積量四十噸未満ノ汽船總積量三十噸未
滿ノ帆船及棹櫂ヲ以テ運轉スル船航行中ハ
必ズシモ第二條第一項第二項第三項ニ規定
シタル燈ヲ掲グルヲ要セズ然レドモ若シ之
ヲ掲グザルトキハ必ズ左ノ規定ニ依ルベシ

一 四十噸未満ノ汽船

甲 船ノ前部又ハ烟突若ハ其ノ前面ニ於
テ舷線上九尺ヨリ低カラズ且最モ見得
易キ所ニ第二條第一項ニ規定シタル構
造裝置ニシテ少クモ二海里ノ距離ヨリ
見得ベキ白燈一箇ヲ掲クベシ

乙 第二條第二項第三項ニ規定シタル構
造裝置ニシテ少クモ一海里ノ距離ヨリ
見得ベキ綠紅ノ二舷燈ヲ掲グルカ又ハ

舷ヨリ見得ザル様ニ爲スヲ要ス

四 棹櫂ヲ以テ運轉スル船ハ棹櫂ヲ用フル
ト帆ヲ用フルトニ拘ラズ白色ノ燈籠一箇
ヲ手近カニ備置キ衝突ヲ防グニ充分ナル
時間ヲ見定メテ臨時之ヲ表示スベシ

本條ノ諸船ハ第四條第一項及第十一條末
項ノ燈ヲ掲グルニ及バズ

第八條 水先船水先業務ノ爲メ其ノ營業所ニ
アルトキハ他船ニ要スル燈ヲ表示セズ周回
ヨリ見得ベキ白燈一箇ヲ檣頭ニ掲グ且十五
分時ヲ超ヘザル短時ノ間隙ヲ以テ閃火一箇
若ハ數箇ヲ發スベシ

水先船ニハ點火シタル舷燈ヲ用意シ置キ他
船ノ我船ニ近寄り來ルカ又ハ我船ノ他船ニ
近寄り行ク上キハ我船ノ進行スル方向ヲ示

ス爲メ短時ノ間隙ヲ以テ之ヲ表示スベシ但
シ此ノ時綠光ハ左舷ヨリ紅光ハ右舷ヨリ見
得ザル様ニ爲スヲ要ス

水先人ヲ要招スル船舶ヘ直付ケスベキ水先
船ハ白燈ヲ橋頭ニ掲グル代リニ隨時之ヲ表
示シ又前項ノ舷燈ノ代リニ一面ハ綠色一面
ハ紅色ノ玻璃ヲ用キタル燈籠一箇ヲ手近カ
ニ備置キ前項ノ規定ニ依リ之ヲ使用スルヲ
得

免許水先人ノ業務ニ專用スル水先汽船水先
業務ノ爲メ其ノ營業所ニアリテ碇泊セザル
トキハ第一項ノ規定ニ依リ水先船ニ要スル
燈及閃火ノ外ニ橋燈ノ下方八尺ノ所ニ周回
少クモ二海里ノ距離ヨリ見得ベキ紅燈一箇
ヲ増掲シ且航行中ノ船舶ニ要スル舷燈ヲ掲

從事スルニ當リ其ノ放出スル漁具ノ端ト
本船トノ水平上ノ距離ガ百五十尺以内ナ
ルトキハ周回ヨリ見得ベキ白燈一箇ヲ掲
グベシ

無甲板船夜間漁業ニ從事スルニ當リ其ノ
放出スル漁具ノ端ト本線トノ水平上ノ距
離ガ百五十尺ヲ超ユルトキハ周回ヨリ見
得ベキ白燈一箇ヲ掲グ且我船ノ他船ニ近
寄り行クトキ又ハ他船ノ我船ニ近寄り來
ルトキハ其ノ白燈ノ下方ニ少クモ三尺ヲ
隔テ且漁具ノ結着シタル方向ニ於テ水平
上少クモ五尺ヲ隔テ白燈一箇ヲ増表スベ
シ

二 第一ニ規定シタル無甲板船ヲ除ク外流
シ網ヲ用キテ漁業ニ從事スル船舶ハ網ノ

グベシ

前項ノ水先汽船水先業務ノ爲メ其ノ營業所
ニアリテ碇泊スルトキハ第一項ノ規定ニ依
リ水先船ニ要スル燈及閃火ノ外ニ前項ノ規
定ニ依リ紅燈ヲ増掲スベシ但シ舷燈ヲ掲グ
ベカラズ

水先船其ノ營業所ニアルモ水先業務ニ從事
セザルトキハ其ノ積量ニ相當スル他船ト同
様ノ燈ヲ掲グベシ

第九條 漁船ハ航行中特ニ本條ニ規定アル場
合ヲ除ク外其ノ積量ニ相當スル航行中ノ船
舶ニ對シテ規定シタル燈ヲ掲グルカ又ハ之
ヲ表示スベシ

一 無甲板船即チ全部張詰メタル甲板ニ因
リテ海水ノ浸入ヲ防ガザル船夜間漁業ニ

全部又ハ一部水中ニ投下シアル間ハ最モ
見得易キ所ニ白燈二箇ヲ掲グベシ此ノ兩
燈ハ上下ノ距離六尺ヨリ少カラズ十五尺
ヨリ多カラズ且龍骨線ニテ測リタル前後
ノ距離五尺ヨリ少カラズ十尺ヨリ多カラ
ザル様其ノ一燈ヲ他燈ノ下方ニ裝置シ其
ノ下燈ハ網ノ方向ニ掲グベシ此ノ兩燈ハ
周回少クモ三海里ノ距離ヨリ見得ベキモ
ノタルヲ要ス

總積量二十噸未滿ノ帆走漁船ハ地中海及
日本國竝(韓國)ノ沿海ニ於テハ必シモ
兩燈中其ノ下燈ヲ掲グルヲ要セズ然レド
モ之ヲ掲グザルトキハ他船ノ我船ニ近寄
リ來ルカ又ハ我船ノ他船ニ近寄り行クト
キ少クモ一海里ノ距離ヨリ見得ベキ白燈

一箇ヲ同一ノ位置（網又ハ漁具ノ方向ニ於テ）ニ表示スベシ

三 第一ニ規定シタル無甲板船ヲ除ク外延繩ヲ用キテ漁業ニ従事スルニ當リ延繩ヲ結着シ又ハ之ヲ曳入ルル船舶ニシテ碇泊セズ又ハ第八ニ依リ停留セザルモノハ流シ網ヲ用キテ漁業ニ従事スル船舶ト同一ノ燈ヲ掲グベシ其ノ延繩ヲ延ベ又ハ曳繩ヲ用ウルモノハ其ノ船ノ種類ニ應ジ航行中ノ汽船又ハ帆船ニ對シテ規定シタル燈ヲ掲グベシ

總積量二十噸未満ノ帆走漁船ハ地中海及日本國並（韓國）ノ沿海ニ於テハ必シモ兩燈中其ノ下燈ヲ掲グルヲ要セズ然レドモ之ヲ掲グザルトキハ他船ノ我船ニ近寄

白燈ハ常ニ不同ナク亮明ノ光ヲ發シテ周回ヲ照スベク製造シタルモノタルヲ要ス

乙 帆船ハ常ニ不同ナク亮明ノ光ヲ發シテ周回ヲ照スベク製造シタル白色ノ燈籠一箇ヲ掲グ且他船ノ我船ニ近寄り來ルカ又ハ我船ノ他船ニ近寄り行クトキハ衝突ヲ防グニ充分ナル時間ヲ見定メ最モ見得易キ所ニ白色ノ閃光又ハ炬火一箇ヲ表示スベシ

甲及乙ニ規定シタル諸燈ハ少クモ二海里ノ距離ヨリ見得ベキモノタルヲ要ス
五 桁網ヲ用キテ牡蠣採取ニ従事スル船舶其ノ他桁網ヲ用キテ漁業ニ従事スル船舶ハ打タセ網ヲ用キテ漁業ニ従事スル船舶

リ來ルカ又ハ我船ノ他船ニ近寄り行クトキ少クモ一海里ノ距離ヨリ見得ベキ白燈一箇ヲ同一ノ位置（釣繩ノ方向ニ於テ）ニ表示スベシ

四 打タセ網（總テ海底ニ漁具ヲ曳クモノヲ包含ス）ヲ用キテ漁業ニ従事スル船舶ハ左ノ規定ニ依ルベシ

甲 汽船ハ第二條第一項ニ規定シタル白燈ノ位置ニ三色ノ燈籠一箇ヲ掲グ尙其ノ下方六尺ヨリ少カラズ十二尺ヨリ多カラザル所ニ白色ノ燈籠一箇ヲ増掲スベシ此ノ三色燈ハ船ノ正首ヨリ左右各二點マデハ白色其レヨリ各舷正横後ノ二點マデ右舷ハ綠色左舷ハ紅色ノ射光ヲ及スベク製造シ且裝置スルヲ要シ又

ト同一ノ燈ヲ掲グ及之ヲ表示スベシ

六 漁船ハ本條ニ規定シタル燈ヲ掲グ及之ヲ表示スル外何時ニテモ閃火ヲ用キ且漁業用ノ燈火ヲ用ウルヲ得

七 長サ百五十尺未満ノ漁船碇泊中ハ周回少クモ一海里ノ距離ヨリ見得ベキ白燈一箇ヲ掲グベシ

長サ百五十尺以上ノ漁船碇泊中ハ周回少クモ一海里ノ距離ヨリ見得ベキ白燈一箇ヲ掲グ且第十一條ニ規定シタル白燈一箇ヲ増掲スベシ
長サ百五十尺未満ナルト百五十尺以上ナルトヲ問ハズ碇泊中ノ漁船漁網其ノ他ノ漁具ヲ結着シタルトキハ他船ノ我船ニ近寄り來ルトキ碇泊燈ノ下方少クモ三尺ヲ

隔テ且漁網其ノ他ノ漁具ノ方向ニ於テ水
平上少クモ五尺ヲ隔テ白燈一箇ヲ増表ス
ベシ

八 漁船漁業ニ從事中漁具ノ岩礁其ノ他障
碍物ニ撞着シタル爲メ停留スルトキハ晝
間ニアリテハ第十ニ規定スル晝間信號ヲ
引下シ夜間ニアリテハ碇泊船ト同一ノ燈
ヲ表示シ又霧中降雪其ノ他暴雨中ハ碇泊
船ニ對シテ規定シタル霧中信號ヲ爲スベ
シ(第十五條第四項及末項參照)

九 霧中降雪其ノ他暴雨中流シ網打タセ網
桁網又ハ延繩ヲ用キテ漁業ニ從事スル總
積量二十噸以上ノ船舶ハ汽船ニアリテハ
汽笛若ハ汽角帆船ニアリテハ號角ヲ用キ
一分時ヨリ多カラザル間隙ヲ以テ一聲ヲ

十一條末項ノ燈ヲ掲グルニ及バズ

第十條 他船ニ追越サレムトスル船舶ハ他船
ニ向ツテ船尾ヨリ白燈ヲ表示シ又ハ閃火ヲ
發スベシ

本條ニ從テ表示スベキ白燈ハ豫メ船尾ニ掲
置クヲ得然レドモ此ノ燈ハ少クモ一海里ノ
距離ヨリ見得ベキモノニシテ常ニ不同ナキ
亮明ノ光ヲ發シ鏡盤ノ十二點間ヲ照スベク
製造シ船ノ正後ヨリ左右ハ六點間宛射光ノ
及ブベキ様隔板ヲ裝置シ成ルベク舷燈ト同
一ノ高サニ掲グベシ

第十一條 長サ百五十尺未満ノ船舶碇泊中ハ
前方ノ最モ見得易クシテ船体上ヨリ二十尺
ヲ超エザル所ニ白燈一箇掲グベシ此ノ燈ハ
常ニ不同ナキ亮明ノ光ヲ發シ周回少クモ一

發シ之ニ續キテ號鐘ヲ鳴ラスベシ總積量
二十噸未満ノ漁船ハ必シモ信號ヲ爲スヲ
要セズ然レドモ之ヲ爲サザルトキハ一分
時ヨリ多カラザル間隙ヲ以テ適宜他ノ有
效ナル音響信號ヲ爲スベシ

十 網延繩又ハ打タセ網ヲ用キテ漁業ニ從
事スル船舶航行中晝間ニアリテハ最モ見
得易キ所ニ籃其ノ他ノ信號ヲ掲グ近寄り
來ル他船ニ其ノ漁業中ナルコトヲ表示ス
ベシ若シ碇泊中ノ船舶漁具ヲ投下セルト
キハ他船ノ近寄り來リタルトキ同様ノ信
號ヲ他船ノ航過シ得ル舷側ニ於テ表示ス
ベシ

本條ニ依リ特ニ規定シタル燈ヲ掲グ又之ヲ
表示スルヲ要スル船舶ハ第四條第一項及第

海里ノ距離ヨリ見得ベキモノタルヲ要ス

長サ百五十尺以上ノ船舶碇泊中ハ前方ノ最
モ見得易クシテ船体上二十尺以上四十尺以
下ノ所ニ前項ノ白燈一箇ヲ掲グ且船尾若ハ
其ノ最寄ニ於テ前方ノ燈ヨリ少クモ十五尺
下方ニ同種ノ白燈一箇ヲ掲グベシ
本條船舶ノ長サハ本船船籍證書面ノ長サニ
依ルベシ

船路若ハ其ノ最寄ニ於テ乘掲ゲタル船舶ハ
本條白燈ノ外尙第四條第一項ニ規定シタル
紅燈二箇ヲ掲グベシ

第十二條 各船他船ノ注意ヲ喚起スル爲必要
ナリトスルトキハ本法ニ規定シタル船燈ノ
外尙閃火ヲ發シ或ハ難船信號ト混同セザル
爆烈信號ヲ發スルヲ得

第十三條 本法船燈ノ規定ハ二艘以上ノ軍艦
又ハ軍艦ニ護送セララルル船舶ニ増掲スル烈
位燈及信號燈ニ關シ各國政府ニ於テ特ニ制
定シタル規則ノ施行ヲ妨グズ又船舶所有主
ニ於テ其ノ國政府ノ許可ヲ受ケ登簿公告ノ
手續ヲ經テ私用スル識別信號ノ使用ヲ妨グ
ズ

第十四條 汽船晝間ニ帆ノミヲ以テ運轉スル
モ其ノ烟突ヲ引下ゲザルトキハ前方ノ最モ
見得易キ所ニ直徑二尺ノ黒球若ハ黒色形象
一箇ヲ掲グベシ

第三十二條 本法中船舶積量噸數ニ關シ日本
形船ハ十石ヲ以テ一噸ニ通算ス

第三十三條 本法ハ明治二十六年一月一日ヨ
リ施行ス

燈火管制ノ疑義ニ關スル

照復ノ件

計第五三〇〇號

昭和十三年八月二十日

内務省計畫局長

茨城縣知事殿

燈火管制規則ニ謂フ露店燈ノ疑義

ニ關スル件

標記ノ件ニ關シ別紙ノ通り照復候條及通報候

別紙

警第七號

昭和十三年七月二十六日

警視總監 安 倍 源 基

内務大臣 末次信正殿

燈火管制規則ニ謂フ露店燈ノ疑義

ニ關スル件

燈火管制規則ニ依レバ露店燈ハ燈火管制規則
第一號表屋外作業燈類ノ一種トシ普通屋内燈
類ニ比シ嚴重ナル燈火管制ヲ爲スヤウ規定セ
ラレアルモ一般ニ所謂露店中ニモ天幕、木材
等ノ光ヲ透過セザル材料ヲ以テ上屋ヲ設ケ三
方ニ壁ヲ圍シ其ノ部分ヨリ内部ノ光ガ外部ニ
漏レザルヤウ設備シアルモノアルガ斯ル設備
内ノ燈火ハ燈火管制ノ趣旨ヨリ考フレバ露店
燈ニ非ズシテ普通屋内燈ト認メラザルニ非
ザルノミナラズ斯ク解スルモ實際上支障ナキ
モノト思料セラルルヲ以テ斯ル燈火ハ普通屋
内燈ト解シ然ルベキヤ露店燈ノ語義等ヨリ考
フレバ多少疑義有之候條何分ノ御指示相成度

此段稟議候也
別紙

計第五三〇〇號

昭和十三年八月十六日

内務省計畫局長

警視總監殿

燈火管制規則ニ謂フ露店燈ノ疑義

ニ關スル件

昭和十三年七月二十六日附警第七號ヲ以テ稟
伺ニ係ル標記ノ件御意見ノ通り解シ可然モノ
ト認ム

計第六四九三號

昭和十三年八月二十三日

内務省計畫局長

茨城縣知事殿

燈火ノ種別ニ關スル疑義ノ件

標記ノ件ニ關シ別紙ノ通照復候條及通報候

別紙

警空第六一九號

昭和十三年八月四日

島根縣警察部長

内務省計畫局長殿

燈火ノ種別ニ關スル疑義ノ件

左記燈火ハ燈火管制規則各號表中何レノ種類
ニ屬スベキヤ疑義有之ニ付何分ノ御回示相煩
度此段稟候也

記

一 山間ニ所在スル社寺墓所等ニ通ズル參道
ノ照明燈

二 警鐘臺上ニ警鐘臺昇降ノ便ニ供スル爲ニ

設ケタル照明燈

三 河川中ニ設ケタル集魚用ノ照火(船舶ト

全ク關係ナキモノ)

四 渡船上兩岸ニ照明及標識ノ用ニ設ケタル

燈火

五 公園内ニ在ル住家ニ通ズル道ノ照明ヲ兼

ネテ設ケタル公園燈

六 漁舟ノ入港スル目標トシテ陸上高所ニ設

ケタル燈火

七 街路ノ照明ト裝飾トヲ兼ネタル鈴蘭燈ノ

類

(從來其ノ一部ヲ街路燈トシテ殘置ヲ認

メ大部分ヲ裝飾燈トシテ取扱ヒ中ナリ)

八 集蟻燈、豫祭燈等田園中ニ設ケタル農業

用燈火

九 埠頭、棧橋ニ類スル廣場ニ設ケタル照明

燈

十 理髮店頭ニ設ケタル紅白燈(マルヘイ燈)

十一 屋上看板ノ照明ヲ兼ネタル門軒燈

十二 文字着色圖書入りノ門軒燈(單ニ屋號

姓名ヲ記載シタルモノヲ除ク)

十三 軒下ニ設ケタル廣告文字圖書入りノ燈

火

十四 門柱ニ取付ケタル廣告裝飾文字着色入

リノ燈火

十五 二階三階等ノ軒下ニ設ケ裝飾ヲ主トス

ル燈火(遊廊ニ其ノ例多シ)

別紙

計第六四九三號

昭和十三年八月十三日

内務省計書局長

島根縣警察部長宛

燈火ノ種別ニ關スル疑義ノ件

八月四日付警空第六一九號ヲ以テ稟伺ニ係ル
標記ノ件ハ具體的ノ場合ニ付認定スルノ外無
キモ概ネ左記ニ依リ取扱フヲ適當ト存候

記

- 一 街路燈
- 二 屋外作業燈類
- 三 漁業用ノモノハ屋外作業燈類ニ然ラザル
モノハ特別屋外燈類ト解ス
- 四 航行スル船舶ニ對スル標識用ナルトキハ
航路標識燈類ト渡船所ノ標識用ナルトキハ
交通標識燈類ト單ニ公衆ノ乗降並交通上必
要ナルトキハ街路燈類ト解ス

六 航行標識燈類

七 通常ハ街路燈類ニ屬スルモ裝飾燈類ト認
メラルモノアルヲ以テ具體的ノ場合ニ付判
斷スルヲ要ス情況ニ依リテハ鈴蘭燈ノ數ケ
ノ内一部ヲ消燈シ街路燈ノ程度ニ殘置スル
ヲ適當ト認ムル場合アルベシ

八 屋外作業燈類

九 埠頭棧橋ト同様ナリト認メラル、場合ニ
ハ埠頭燈類ナルモ其ノ他ノ場合ニ於テ一般
交通用廣場ノ照明用トシテ街路燈類ニ屬ス
ルモノアルベシ

一〇 廣告看板、裝飾燈類

一一 通常ハ看板燈類ニ屬スルモ其ノ使用目
的ノ主從關係並程度等ニ依リ具體的ノ場合
ニ付判斷スルヲ要ス

- 一三 通常ハ廣告、看板、裝飾燈類ニ屬スル
モ具體的ノ場合ニハ店先燈類ニ屬スルモノ
アルベシ
- 一四 廣告、看板、裝飾燈類
- 一五 廣告、看板、裝飾燈類

防毒資材取締規則

(昭和十三年五月二日)
內務厚生省令第一號

第一條 本令ニ於テ防毒具ト稱スルハ毒性ノ瓦斯、煙霧、液體、粉塵等ニ對スル防護具ヲ謂フ

防毒具ハ左ノ二種トス

第一種 防毒面(酸素呼吸器ヲ含ム以下之ニ同ジ)、防毒衣、防毒手袋、防毒靴、防毒濾函竝ニ防毒面用ノ覆面、呼吸辨及吸收罐

第二種 其ノ他ノ防毒具

本令ニ於テ防毒檢定器ト稱スルハ毒性ノ瓦斯、煙霧、液體、粉塵等ヲ檢知スル器具及防毒具ノ性能ヲ檢査スル器具ヲ謂フ

本令ニ於テ防毒藥物ト稱スルハ防毒面吸

收罐又ハ防毒濾函ニ使用シ防毒ノ效能アリトスル藥物、毒性ノ瓦斯、煙霧、液體、粉塵等ノ檢知ノ效能アリトスル藥物及防毒ノ效能アリトスルモノニシテ內務大臣及厚生大臣ノ指定スル藥物ヲ謂フ

本令ニ於テ防毒具材料ト稱スルハ防毒具ノ製造又ハ修覆ニ使用スル物ニシテ內務大臣ノ指定スルヲ謂フ

第二條 本令ハ販賣ノ用ニ供スル防毒具、防毒檢定器、防毒藥物又防毒具材料ニ付之ヲ適用ス但シ第十一條及第十二條ノ規定ハ販賣ノ用ニ供セザルモノニ付テモ之ヲ適用ス

第三條 第一種防毒具又ハ防毒檢定器ヲ製造セントスル者ハ左ノ各號ニ掲グル事項ヲ、

輸入又ハ移入セストスル者ハ第一號乃至第三號及第六號ニ掲グル事項ヲ具シ見本品ヲ添ヘ主タル業務所所在地ノ地方長官(東京府ニ在リテハ警視總監以下之ニ同ジ)ヲ經由シ內務大臣ノ許可ヲ受クベシ

一 氏名(法人ニ在リテハ其ノ名稱)、商號及業務所所在地

二 製造所ノ名稱及所在地

三 第一種防毒具又ハ防毒檢定器ノ種類、型式、構造及性能

四 製造方法及製造設備(製品檢査設備ヲ含ム)ノ概要竝ニ一年ノ製造能力

五 主任技術者ノ氏名及履歴

六 第一種防毒具又ハ防毒檢定器ニ添付スル性能説明書

前項第三號乃至第六號ノ事項ヲ變更セントスルトキハ前項ニ準ジ許可ヲ受クベシ

第一項第一號又ハ第二號ノ事項ヲ變更セントスルトキハ第一項ニ準ジ內務大臣ニ届出ツベシ

第四條 第一種防毒具又ハ防毒檢定器ノ製造者、輸入者又ハ移入者ハ其ノ製造店、輸入又ハ移入シタル第一種防毒具又ハ防毒檢定器ニ其ノ型式及製造年竝ニ製造者ノ氏名(法人ニ在リテハ其ノ名稱)又ハ商號ヲ明記シ且防毒面吸收罐又ハ防毒濾函ニ別表ニ掲グル性能標識ヲ附スベシ

第五條 第一種防毒具又ハ防毒檢定器ノ製造者、輸入者又ハ移入者ハ其ノ製造、輸入又ハ移入シタル第一種防毒具又ハ防毒檢定器

ニ付内務大臣ノ定ムル所ニ依リ檢定ヲ受ク
ベシ

前項ノ檢定ニ合格シタル第一種防毒具又ハ
防毒檢定器ニハ第一號様式ノ檢定證印ヲ附
ス

第六條 第二種防毒具、防毒藥物又ハ防毒具

材料ヲ發賣セントスル者ハ左ノ各號ニ掲グ
ル事項ヲ具シ見本品ヲ添ヘ主タル營業所所
在地ノ地方長官ノ許可ヲ受クベシ

一 氏名(法人ニ在リテハ其ノ名稱)、商號
及營業所所在地

二 製造所ノ名稱及所在地

三 第二種防毒具ニ在リテハ其ノ種類、型
式、構造及性能

四 防毒藥物ニ在リテハ其ノ品名、品質及

效能(製劑ニ在リテハ原料品名及其ノ分

量並ニ製造方法ノ概法ヲ併記スルコト)

五 防毒具材料ニ在リテハ其ノ品名、品質
及性能

六 第二種防毒具、防毒藥物又ハ防毒具材

料ニ添附スル性能又ハ效能證明書

前項第三號乃至第六號ノ事實ヲ變更セント
スルトキハ前項ニ準ジ許可ヲ受クベシ

第一項第一號又ハ第二號ノ事項ヲ變更セン
トスルトキハ第一項ニ準ジ地方長官ニ届出
ツベシ

第七條 第二種防毒具ノ發賣者ハ其ノ發賣ス

ル第二種防毒具ニ其ノ型式及發賣者ノ氏名
(法人ニ在リテハ其ノ名稱)又ハ商號ヲ明記
スベシ

防毒藥物ノ發賣者ハ其ノ發賣スル防毒藥物

ノ容器又ハ被包ニ防毒藥物ナル文字、品名
及發賣者ノ氏名(法人ニ在リテハ其ノ名稱)
又ハ商號ヲ明記スベシ

防毒具材料ノ發賣者ハ其ノ發賣スル防毒具
材料ノ容器又ハ被包ニ防毒具材料ナル文字
品名及發賣者ノ氏名(法人ニ在リテハ其ノ
名稱)又ハ商號ヲ明記スベシ

第八條 防毒具、防毒檢定器、防毒藥物又ハ
防毒具材料ノ請賣營業ヲ爲サントスル者ハ
營業所毎ニ營業所所在地ノ地方長官ニ届出
ツベシ

第九條 第五條第二項ノ規定ニ依ル檢定證印
ナキ第一種防毒具若ハ防毒檢定器又ハ第四
條若ハ第七條ノ規定ニ依ル表示若ハ性能標

識ナキ防毒具、防毒檢定器、防毒藥物若ハ
防毒具材料ハ之ヲ販賣スルコトヲ得ズ

第十條 防毒具、防毒檢定器、防毒藥物又ハ
防毒具材料ハ第三條第一項第六號ノ性能說
明書又ハ第六條第一項第六號ノ性能若ハ效
能說明書ヲ添付スルニ非ザレバ之ヲ販賣ス
ルコトヲ得ズ

第十一條 第一種防毒具又ハ防毒檢定器ノ修
覆營業ヲ爲サントスル者ハ營業所毎ニ營業
所所在地ノ地方長官ノ許可ヲ受クベシ

第十二條 第一種防毒具又ハ防毒檢定器ノ修
覆營業者ハ其ノ修覆シタル第一種防毒具又
ハ防毒檢定器ニ付内務大臣ノ定ムル所ニ依
リ檢定ヲ受クベシ
前項ノ檢定ニ合格シタル第一種防毒具又ハ

防毒檢定器ニハ第二號樣式ノ檢定證印ヲ附ス

前項ノ規定ニ依ル檢定證印ナキ第一種防毒具又ハ防毒檢定器ハ之ヲ修覆シタルモノトシテ交付スルコトヲ得ズ

第十三條 地方長官ハ當該官吏ヲシテ防毒具、防毒檢定器、防毒藥物若ハ防毒具材料ヲ製造、貯藏若ハ販賣スル場所ヲ巡視セシメ又ハ防毒具、又ハ防毒檢定器、防毒藥物若ハ防毒具材料ヲ檢査セシムルコトヲ得

第十四條 第一種防毒具又ハ防毒檢定器ノ製造者、輸入者又ハ移入者其ノ業務ニ關シ犯罪若ハ不正ノ行爲アリタルトキ又ハ本令ノ規定ニ違反シタルトキハ内務大臣ハ其ノ許可ヲ取消スコトヲ得

第十五條 第二種防毒具、防毒藥物若ハ防毒具材料ノ發賣者、防毒具、防毒檢定器、防毒藥物若ハ防毒具材料ノ請賣營業者又ハ第一種防毒具若ハ防毒檢定器ノ修覆營業者其ノ業務ニ關シ犯罪若ハ不正ノ行爲アリタルトキ又ハ本令ノ規定ニ違反シタルトキハ地方長官ハ其ノ許可ヲ取消シ又ハ營業ヲ禁止若ハ停止スルコトヲ得

第十六條 第三條第一項ノ規定ニ違反シタル者ハ三月以下ノ懲役ニ處ス

第十七條 第六條第一項ノ規定ニ違反シタル者ハ三月以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一 第三條第二項、第四條、第六條第二項

第七條乃至第九號、第十一條又ハ第十二條第三項ノ規定ニ違反シタル者

二 第十三條ノ規定ニ依ル巡視又ハ檢査ヲ拒ミ、妨ゲ又ハ忌避シタル者

三 第十五條ノ規定ニ依ル營業ノ停止中其ノ營業ヲ爲シタル者

第十九條 第三條第三項、第六條第三項又ハ

第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ科料ニ處ス

第二十條 防毒具、防毒檢定器、防毒藥物又ハ防毒具材料ノ製造者、輸入者、移入者、發賣者、請賣營業者又ハ修覆營業者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本令ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ

以テ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

第二十一條 本令ニ依リ適用スベキ罰則ハ其ノ者ガ法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第二十二條 本令ハ陸海軍ノ用ニ供スル防毒具、防毒檢定器、防毒藥物及防毒具材料ニ付テハ之ヲ適用セズ

附則

本令ハ昭和十三年六月一日ヨリ之ヲ施行ス
本令公布ノ際現ニ防毒具、防毒檢定器若ハ防毒藥物ヲ製造若ハ發賣スル者又ハ其ノ請賣營

業ヲ爲ス者ハ本令施行後一月以内ニ第三條、第六條又ハ第八條ノ規定ニ依ル手續ヲ爲スベシ

前項ノ規定ニ依リ第三條又ハ第六條ノ許可ヲ申請シタル者ニ付テハ其ノ申請ニ對スル許可又ハ不許可ノ處分ノ日迄第四條、第五條及第七條ノ規定ハ之ヲ適用セズ

本令施行ノ際現ニ存スル防毒具、防毒檢定器若ハ防毒藥物又ハ第二項ノ規定ニ依リ第三條若ハ第六條ノ許可ヲ申請シタル者ガ其ノ申請ニ對スル許可若ハ不許可ノ處分ノ日迄ニ製造若ハ發賣シタル防毒具、防毒檢定器若ハ防毒藥物ニ付テハ本令施行後一年間第九條及第十條ノ規定ハ之ヲ適用セズ

別表

防各種瓦斯空	酸水及砒化水素	硫磺及硫黃	青酸及硫黃	亞硫酸及硫黃	アソモニヤ	金屬煙氣	消滅炭素	一酸化炭素	粉塵	有機瓦斯	普性瓦斯	防毒面吸收罐及防毒濾函種類
用	用	用	用	用	用	用	用	用	用	用	用	性能標識
標識色	赤	藍色	黃色	青色	橙紅色	綠色	白色及黑色	白色及紅色	白色及紅色	白色及紅色	白色及紅色	標識
ヨカワラルヌリチトヘホハロイ												記號

備考

- 一 標識色ハ外部全面一様ニ塗色シ二色ノ場合ハ上下二層ニ塗色スルコト
- 二 標識記號ハ白字ヲ以テ表スコト但シ標識色白色ナルトキハ黒字ヲ以テ表スコト

第一號樣式



外圓 直徑一五耗

第二號樣式



外圓 直徑一五耗

防毒資材取締規則施行細則

(昭和十三年六月十七日)
茨城縣令第二十二號

- 第一條 防毒資材取締規則(以下單ニ規則ト稱ス)又ハ本令ニ依リ内務大臣又ハ知事ニ提出スル願届書ハ主タル業務所又ハ主タル營業所所在地所轄警察署長ヲ經由スベシ
- 第二條 規則第三條、第六條第一項及第十一條ノ願届書ハ二通之ヲ提出スベシ但シ第六條第一項ノ防毒藥物ニ關スル願届書ハ三通トス
- 第三條 規則第三條及第六條ノ願書ニ添附スベキ見本品ハ願書一通ニ付一個トス但シ特別ノ事情アルトキハ此ノ限ニ在ラズ
- 第四條 規則第八條ノ願書ニハ左ノ事項ヲ記

載スベシ

- 一 氏名(法人ニ在リテハ其ノ名稱)、商號及營業所所在地
 - 二 販賣品ノ種類又ハ品名
- 前項ノ事項ヲ變更セントスルトキハ知事ニ届出ヅベシ
- 第五條 規則第十一條ノ願書ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ
- 一 氏名(法人ニ在リテハ其ノ名稱)、商號及營業所所在地
 - 二 修覆場
 - 三 修覆品ノ種類
 - 四 修覆設備ノ概要
 - 五 主任技術者ノ氏名及履歷
- 前項第三號乃至第五號ノ事項ヲ變更セント

- スルトキハ知事ノ許可ヲ受クベシ
- 第一項第一號又ハ第二號ノ事項ヲ變更セントスルトキハ知事ニ届出ヅベシ
- 第六條 防毒具、防毒檢定器、防毒藥物又ハ防毒具材料ノ製造者、輸入者、移入者、發賣者、請賣營業者又ハ修覆營業者(以下單ニ業者ト稱ス)廢業シタルトキハ本人ヨリ死亡(法人ニ在リテハ解散)シタルトキハ戸主又ハ家族(法人ニ在リテハ清算人)ヨリ十日以内ニ知事ニ届出ヅベシ
- 前項ノ願書ニハ請賣營業者ヲ除ク他ノ業者ニ在リテハ許可書ヲ添付スベシ
- 第七條 業者ハ別記第一號乃至第三號様式ニ依ル帳簿ヲ具ヘ置キ製造、受入、振出ノ數量ヲ其ノ都度記入スベシ

- 第八條 警察官吏ニアラザル者規則第十三條ノ巡視又ハ檢査ヲ爲ストキハ別記第四號様式ニ依ル證票ヲ携帯スベシ
- 第九條 第四條第二項、第五條第二項及第三項、第六條第一項又ハ第七條ノ規定ニ違反シタルトキハ科料ニ處ス
- 第十條 業者ハ其ノ代理人、戸主、家族、同居人、雇人其ノ他從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本令ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テザルノ故ヲ以テ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ
- 第十一條 本令ニ依リ適用スベキ罰則ハ其ノ者が法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適

用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第一號様式

(製造者、輸入者、移入者、發賣者)

防毒具防毒檢定器防毒藥物防毒具材料製造受入拂出簿

月 日	製造又ハ受入數量	拂出數量	現 在		備 考
			檢定済	檢定未済	

- 一 種類又ハ品名毎ニ口座ヲ設ケ整理スベシ
- 二 檢定所(發送セル月日數量及檢定所ヨリ返送セル月日數量ハ備考欄ニ記載シ置クベシ)

第二號様式

(請賣營業者)

防毒具防毒檢定器防毒藥物防毒具材料受入拂出簿

月 日	種類又ハ品名	受入數量	受入先	拂出數量	現在高	備 考

第三號様式

(修葺營業者)

第一種防毒具防毒檢定器受入拂出簿

月 日	種類	數量	依 托		引渡月日	檢定ノ爲メ發送月日	檢定月日	備 考
			依 托 先					

第四號様式

表

第 號

防毒資材檢査員之證

官 職 氏 名

裏

茨 城 縣 印

防毒資材取締規則施行
細則取扱手續

(昭和十三年六月二十四日
茨城縣訓令乙第一一四號)

第一條 防毒資材取締規則(以下單ニ規則ト稱ス)第三條第一項及第二項、第六條第一項、第十一條並ニ防毒資材取締規則施行細則(以下單ニ細則ト稱ス)第五條第二項ノ願ヲ受理シタルトキハ左ノ各號ヲ調査ノ上意見ヲ具シ進達スベシ

一 願出事項事實ト相違ノ有無

二 願人及主任技術者ノ本籍、住所、生年月日

三 其ノ他參考事項

第三項第八條並ニ細則第四條第二項、第五條第三項及第六條ノ願届ヲ受理シタルトキハ願届出事項事實ト相違ナキヤヲ調査シ進達スベシ

第三條 規則第十三條ノ巡視又ハ検査ハ毎月一回以上之ヲ爲スベシ

第四條 規則第十四條又ハ第十五條ニ該當スル行爲アリト認メタルトキハ意見ヲ具シ速ニ之ヲ報告スベシ

第五條 警察署ニハ別記第一號乃至第四號様式ノ臺帳ヲ備ヘ整理スベシ

第一號様式 第一種 防毒具、防毒檢定器、製造(輸入、移入)者名簿

許可年 月日	許可番 號	商號	業務所	製造所	種類	一ヶ年製造(輸入)數	願人		製造(輸入、移入)者名簿
							本籍	住所	
							主任技術者 氏名 生年月日	本籍 住所	製造(輸入、移入)者名簿
							製造所 設置概要		禁止、取消 其ノ他ノ處分

第一種 防毒具、防毒檢定器、製造(輸入、移入)者名簿

第二號様式 第二種 防毒具、防毒藥物、防毒具材料發賣者名簿

許可年 月日	許可番 號	商號	業務所	製造所	種類(品名)	本籍		禁止、取消 其ノ他ノ處分
						住所	氏名	
						本籍	住所	禁止、取消 其ノ他ノ處分

第三號樣式 修葺營業者名簿

種類	修葺場所	營業所	商號	許可年月日	許可香號	人願	
						住本籍	生氏名

第四號樣式 請賣營業者名簿

種類(品名)	商號	届出年月日	營業所	氏名	禁止、取消 其ノ他ノ處分	主術任者	
						住本籍	生氏名

行政執行法(抄)

(明治三十三年六月二日)
法律第八十四號

第五條 當該行政官廳ハ法令又ハ法令ニ基キテ爲ス處分ニ依リ命ジタル行爲又ハ不行爲ヲ強制スル爲左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一 自ラ義務者ノ爲スベキ行爲ヲ爲シ又ハ第三者ヲシテ之ヲ爲サシメ其ノ費用ヲ義務者ヨリ徴收スルコト

二 強制スベキ行爲ニシテ他人ノ爲スコト能ハザルモノナルトキ又ハ不行爲ヲ強制スベキトキハ命令ノ規定ニ依リ二十五圓以下ノ科料ニ處スルコト

前項ノ處分ハ豫メ戒告スルニ非ザレバ之ヲ爲スコトヲ得ズ但シ急迫ノ事情アル場合ニ

於テ第一號ノ處分ヲ爲スハ此ノ限ニ在ラズ行政官廳ハ第一項ノ處分ニ依リ行爲又ハ不行爲ヲ強制スルコト能ハズト認ムルトキ又ハ急迫ノ事情アル場合ニ非ザレバ直接強制ヲ爲スコトヲ得ズ

第六條 第三條及第五條ノ費用及第五條ノ過料ハ國稅徵收法ノ規定ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得

行政官廳ハ前項ノ徵收金ニ付國稅ニ次ギ先取特權ヲ有ス

第一項ノ費用及過料ニ關スル繰替支辨收入ノ所屬其ノ他必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

行政執行法施行令(抄)

(明治三十三年六月二日)
勅令 第二百五十三號

- 第四條 行政執行法第五條ノ過料ハ處分ヲ爲ス行政官廳ノ區別ニ從ヒ左ノ金額ヲ超ユルコトヲ得ズ
- 一 各省大臣 二十五圓
 - 二 廳府縣長官 十圓
 - 三 其ノ他ノ行政官廳 二圓
- 第五條 行政執行法第五條ノ戒告ハ履行期間ヲ定メ且書面ヲ以テ之ヲ爲スベシ
- 第六條 行政執行法第五條ノ費用ノ徵收ハ現ニ要シタル費用及其ノ納期日ヲ決定シ決定書ノ正本ヲ義務者ニ交付シテ之ヲ爲スベシ
- 第七條 行政執行法第五條ノ費用ハ事務費ノ

所屬ニ從ヒ國庫又ハ府縣經濟ヨリ之ヲ支出ス其ノ徵收金及過料ハ事務費ノ所屬ニ從ヒ國庫又ハ府縣經濟ニ收入スベシ

附則

- 第八條 他ノ法令ノ規定ニ依リ行政官廳ニ於テ行政處分ヲ強制スル爲メ豫メ戒告ヲ爲ストキ、自ラ義務者ノ爲スベキ行爲ヲ爲シ若ハ第三者ヲシテ之ヲ爲サシメ其ノ費用ヲ義務者ヨリ徵收スルトキ又ハ行政處分ヲ強制スル爲過料ニ處スルトキハ第五條、第六條及第七條第一項ノ規定ヲ準用ス

警防團令

(昭和十四年一月二十四日)
勅令 第二十二號

- 第一條 警防團ハ防空、水火消防其ノ他ノ警防ニ從事ス
- 第二條 地方長官(東京府ニ在リテハ警視總監以下之ニ同ジ)ハ職權又ハ市町村長ノ申請ニ依リ警防團ヲ設置スルモノトス
- 第三條 前條ノ警防團ニ非ザレバ警防團ノ名稱ヲ用フルコトヲ得ズ
- 第四條 警防團ノ區域ハ市町村ノ區域ニ依ル但シ土地ノ狀況ニ依リ市町村内ニ於テ適宜區域ヲ定ムルコトヲ得
- 第五條 警防團ハ團長、副團長、分團長、部長、班長及警防員ヲ以テ之ヲ組織ス但シ分

團長、部長又ハ班長ハ之ヲ置カザルコトヲ得

- 第六條 團長及副團長ハ地方長官、其ノ他ノ團員ハ警察署長之ヲ命免ス
- 第七條 團長ハ團員ヲ統率シ團務ヲ掌理ス副團長ハ團長ヲ輔佐シ團長事故アルトキハ之ヲ代理ス
- 分團長、部長及班長ハ上長ノ命ヲ承ケ團員ヲ指揮シテ業務ニ從事ス
- 第八條 警防團ハ地方長官之ヲ監督ス警察署長ハ地方長官ノ命ヲ承ケ警防團ヲ指揮監督ス
- 第九條 警防團ハ警察部長(警視廳ニ在リテハ警務部長但シ水火消防ニ關シテハ消防部長以下之ニ同ジ)又ハ警察署長ノ指揮ニ從

ヒ行動スベシ但シ緊急已ムヲ得ザル場合ニ於テハ市町村長又ハ團長ノ指揮ニ從ヒ行動スルヲ妨グズ

市町村長ハ其ノ擔當スル防空業務ニ付警察署長ニ協議シ警防團ニ指示スルコトヲ得

第十條 警防團ハ警察部長又ハ警察署長ノ命ニ依リ其ノ區域外ノ警防ニ應援スベシ

第十一條 地方長官及警察署長ハ警防團ノ訓練ヲ行フベシ

第十二條 警視廳官制及特設消防署規程ニ依リ設置スル消防署ノ管轄區域ニ於テハ本令中水火消防ニ關スル警察署長ノ職務ハ消防署長之ヲ行フ

第十三條 警防團員ノ服務紀律及懲戒ニ關スル規程ハ地方長官之ヲ定ム

第十四條 警防團員ノ定員及給與並ニ警防團ニ必要ナル設備資材ハ市町村會ニ諮問シ地方長官之ヲ定ム

前項ノ設備資材ハ市町村ニ於テ之ヲ備フベシ

第十五條 警防團ニ關スル費用ハ市町村ノ負擔トス

第十六條 市町村長ハ地方長官又ハ警察署長ノ諮問ニ應ジ警防團ニ關シ意見ヲ答申スベシ

第十七條 町村組合ニシテ町村ノ事務ノ全部又ハ役場事務ヲ共同處理スルモノハ本令ノ適用ニ付テハ之ヲ一町村、其ノ組合管理者ハ之ヲ町村長ト看做ス

町村制ヲ施行セザル地ニ於テハ本令中町村

ニ關スル規定ハ町村ニ準ズベキモノニ町村長ニ關スル規定ハ町村長ニ準ズベキモノニ之ヲ適用ス

第十八條 內務大臣ノ指定スル市ニ於テハ警防團ノ外地方長官ノ認可ヲ受ケ市長ハ其ノ擔當スル防空業務ニシテ地方長官ノ指定スルモノニ從事セシムル團體ヲ設置スルコトヲ得

第十九條 第四條乃至第十一條及第十五條ノ規定ハ前條ノ團體ニ之ヲ準用ス但シ地方長官又ハ警察部長トアルハ市長、警察署長トアルハ市長ノ定ムル者トス

第二十條 地方長官警防業務ノ統制上必要アリト認ムルトキハ第十八條ノ團體ヲ指揮スルコトヲ得

警察署長職務執行上必要アリト認ムルトキハ第十八條ノ團體ニ對シ指示スルコトヲ得

第二十一條 第十八條ノ團體ノ名稱及組織並ニ團員ノ定員、服務方法、服務紀律、懲戒、服裝及給與ニ關スル事項ハ地方長官ノ認可ヲ受ケ市長之ヲ定ム

附則

本令ハ昭和十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ警防團及第十八條ノ團體ノ設置ニ必要ナル手續ニ關スル規定ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス消防組規則ハ之ヲ廢止ス

警防團令施行細則

(昭和十四年三月三十一日)
茨城縣令第十九號

第一章 總 則

第一條 警防團ノ設置ヲ申請セントスルトキハ左記各號ノ事項ヲ具シ所轄警察署長ヲ經由シ提出スベシ第一號乃至第六號ノ事項ヲ變更セントスルトキ亦同ジ

- 一名 稱
- 二 設置區域
- 三 組織及定員
- 四 服務方法
- 五 設備資材ノ概要
- 六 給 與
- 七 豫算(議決書寫添付)

第二條 警防團ヲ設置シタルトキハ其ノ名稱及區域ヲ告示ス其ノ之ヲ變更シタルトキ亦同ジ

第三條 警防團ノ名稱ハ設置區域ノ市町村名ヲ冠用スベシ但シ特別ノ事由アルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第四條 工場、學校、會社等ニ於テ自衛ノ爲定員三十名以上ヲ有スル防護團體ヲ設置シタルトキハ其ノ名稱組織定員及設備資材ノ概用ヲ具シ所轄警察署長ニ届出ズベシ其ノ之ヲ變更シタルトキ亦同ジ

第二章 組織及編成

第五條 警防團ハ之ヲ消防部及防護團ニ分チ各部ニ地域別ニ依リ班ヲ設ク班ノ名稱ハ番號ヲ冠用スベシ

第六條 班ニハ小地域別ニ依リ組ヲ設ケ又業務別ニ依リ左ノ範圍内ニ於テ必要ナル係ヲ設クルコトヲ得

- 一 消防部
 - 消防係
 - 防火係
- 二 防護部
 - 警備係
 - 警報係
 - 燈火管制係
 - 交通係
 - 避難所管理係
 - 救護係
 - 防毒係
 - 配給係

工作 係

第七條 警防團ハ左ノ人員ヲ以テ編成スベシ

- 一 團 長 一 名
- 二 副團長 一 名
- 三 部 長 各部一名
- 四 班 長 各班一名
- 五 係 長 各係一名
- 六 組 長 各組一名
- 七 警防員 若干名

第八條 警防團ニ顧問ヲ置クコトヲ得

顧問ハ知事之ヲ委囑ス

顧問ハ重要職務ニ付團長ノ諮問ニ應ジ意見ヲ答申スルモノトス

第九條 警防團ノ本部ハ市町村役場内ニ之ヲ置クベシ

第三章 命 免

第十條 警防團員（以下單ニ團員ト稱ス）ノ
年齢ハ滿十七歳以上滿五十五歳未滿トス但
シ役員ハ此ノ限ニ在ラズ

第十一條 左記各號ノ一ニ該當スルモノハ之
ヲ團員ニ任命スルコトヲ得ズ

一 設置區域内ニ居住セザル者

二 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者但シ所
犯情狀ノ酌量スベキ者ニシテ滿期後二年
ヲ經過シ改悛ノ情著シト認メラルルトキ
ハ此ノ限ニ在ラズ

三 懲戒處分ニ依リ解職セラレ二年ヲ經過
セザル者

四 禁治産者又ハ準禁治産者

五 素行不良又ハ身體虛弱者

ヲ願出デタルトキ

三 定員ノ改正ニ依リ過員ヲ生ジタルトキ

第十四條 團員退職セントスルトキハ事由ヲ
具シ書面ヲ以テ願出ツベシ

第四章 服務及紀律

第十五條 團員ハ左記各號ノ事項ヲ遵守スベ
シ

一 常ニ警防精神ヲ練成シ一朝事有ルニ際
シテハ身ヲ挺シテ難ニ赴クノ覺悟アルベ
キコト

二 紀律ヲ嚴守シ上長ノ指揮命令ニ服從シ
上下一體以テ事ニ當ルベキコト

三 上下同僚ノ間互ニ相敬愛シ禮節ヲ重シ
信義ヲ敦ウシ常ニ言行ヲ慎ミ以テ郷閭ニ
範タルノ實ヲ示スベキコト

六 前各號ノ外不適當ト認ムル者

第十二條 團員左記各號ノ一ニ該當スルトキ
ハ其ノ職ヲ失フ

一 設置區域外ニ轉住シタルトキ

二 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

三 禁治産又ハ準禁治産ノ宣言ヲ受ケタル
トキ

四 陸海軍ノ現役ニ服シタルトキ

五 三ヶ月以上所在分明ナラザルトキ

第十三條 團員左記各號ノ一ニ該當スルトキ
ハ退職ヲ命ズルコトアルベシ

一 不具癡疾ニ因リ又ハ身體若ハ精神ノ衰
弱ニヨリ職務ニ堪ヘザルトキ

二 傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ其ノ職ニ堪
ヘザルニ因リ又ハ自己ノ便宜ニ因リ退職

四 職務ニ關シ私ニ金品ノ寄贈又ハ饗應接
待ヲ受ケ又ハ之ヲ請求スル等ノ所爲アル
ベカラザルコト

五 職務ニ關シ之ヲ知りタルトキ又ハ他ヨ
リ之ヲ聞知シタルトキ問ハズ機密ヲ漏洩
セザルコト

六 警防團又ハ團員ノ名義ヲ以テ政治運動
ニ關與シ又ハ他人ノ訴訟若ハ紛議ニ關與
スベカラザルコト

七 警防團又ハ團員ノ名義ヲ以テ濫ニ寄附
ヲ募集シ又ハ營利行爲ヲ爲シ若ハ義務ノ
負擔トナルガ如キ行爲アルベカラザルコ
ト

八 平素何時ニテモ召集ニ應ジ得ルノ準備
ヲ整ヘ置キ事ニ當リ不都合ナキヲ期スル

コト

九 召集ノ命ヲ受ケザル場合ト雖モ非常警防事件發生ヲ知りタルトキハ其ノ居宅ニ在ルト外出中ナルトニ拘ラズ豫メ指示スル所ニ從ヒ直ニ所定ノ場所ニ參集スルコト

第十六條 團員服務ニ當リテハ左記各號ノ事項ヲ遵守スベシ

- 一 勤務ニ服スルトキハ制規ノ服裝ヲナスコト
- 二 勤務中ハ功ヲ争ヒ又ハ持場ヲ離ルルガ如キ所爲アルベカラザルコト
- 三 警防ノ爲ト雖モ警察官吏ノ指揮ヲ受クルニ非ザレバ濫ニ建造物其ノ他ノ物件ヲ毀損スベカラザルコト

四 出動シタルトキハ警察官吏、警察官吏アラザルトキハ團長ノ點檢ヲ受クルニ非ザレバ解散セザルコト

- 五 十日以上病氣又ハ服務地ヲ離ルル場合ハ團長、副團長ハ警察署長ニ其ノ他ノ團員ハ團長ニ届出ヅベキコト
- 六 警察署長ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ濫ニ多數集合スベカラザルコト
- 七 職務ニ從事中ハ飲酒スベカラザルコト
- 八 貨與品、給與品等ハ之ヲ大切ニ保存シ服務以外ニ於テ之ヲ使用シ若シクハ他人ニ貸與スルガ如キ所爲アルベカラザルコト
- 九 機械器具其ノ他警防團ノ設備資材ハ職務ヲ以テスル場合ノ外之ヲ使用セザルコト

ト

第十七條 警察署長ハ市町村長ト協議シ警防團ノ應援區域ヲ定メ豫メ之ヲ團員ニ示達シ置クベシ但シ必要アリト認ムルトキハ應援區域外ト雖モ出動ヲ命ズルコトアルベシ

第十八條 警防團其ノ區域外ノ警防ニ應援シタルトキハ應援地ノ所轄警察署長之ヲ指揮ス

第十九條 團員ニシテ左記各號ノ一ニ該當スルモノアリタルトキハ團長速ニ所轄警察署長ニ之ヲ報告スベシ

- 一 死亡又ハ職務ノ爲負傷シタルトキ
- 二 改氏名ヲ爲シタルトキ
- 三 表彰又ハ懲戒ヲ爲スベキ事由アリタルトキ

四 團員タル資格ヲ失フ者アリタルトキ

- 第二十條 警防團ニ左ノ簿冊ヲ備ヘ團長之ヲ整理保管スベシ
 - 一 沿革誌(第一號様式)
 - 二 役員名簿(第二號様式)
 - 三 警防員名簿(第三號様式)
 - 四 警防團組織及定員表(第四號様式)
 - 五 設備資材臺帳(第五號様式)
 - 六 被服器具貨與品臺帳(第六號様式)
 - 七 日誌(第七號様式)
 - 八 警防團關係令規級
 - 九 雜書類級
- 第二十一條 團長更迭シタルトキハ十日以内ニ後任者ニ後任者定ラザルトキハ副團長又ハ年長者タル部長ニ事務引繼ギヲ爲シ連署

ヲ以テ所轄警察署長ニ報告スベシ

第五章 檢閲及訓練

第二十二條 警察部長ハ隨時警防團ヲ檢閲スベシ

第二十三條 警察署長ハ毎年二回以上警防團ノ巡檢ヲ爲シ規律、訓練、設備資材及簿冊ノ正否ヲ監査スベシ

第二十四條 團長ハ警察署長ノ指揮ヲ受ケ毎年二回以上團員ノ訓練ヲ行フベシ

第六章 給 與

第二十五條 團員ノ給與ハ概ネ左ノ如シ

一 年手當又ハ月手當

二 出場手當

三 警戒手當

四 公傷手當

五 弔祭料

第七章 設備資材

第二十六條 警防團ノ整備スベキ設備資材ハ概ネ附表第一ノ如シ

第二十七條 設備資材ノ修理補給ヲ必要トスルトキハ團長所轄警察署長ノ承認ヲ得テ市町村長ニ申出ヅベシ

第二十八條 團員ノ被服並ニ團(部、班)旗及提灯ノ型式ハ別ニ之ヲ定ム

第二十九條 故意又ハ過失ニ依リ設備資材又ハ被服ヲ毀損亡失シタルトキハ之ヲ賠償セシムルコトアルベシ

第八章 表彰及懲戒

第三十條 警防團左記各號ノ一ニ該當スルトキハ之ヲ表彰スルコトヲ得

一 防空水火消防其ノ他警防ニ關シ功勞拔

群ニシテ一般ノ範疇トナルベキモノ

二 紀律訓練優秀ニシテ一般ノ模範タルベ

キモノ

三 警防施設上功勞顯著ナルモノ

第三十一條 團員左記各號ノ一ニ該當スルト

キハ之ヲ表彰スルコトヲ得

一 防空、水火消防其ノ他警防ニ關シ功勞

拔群ニシテ一般ノ範疇トナルベキモノ

二 十年以上勤績シ紀律嚴正勤務勉勵警防

ニ關スル技能ニ熟達シ一般ノ模範タルベ

キモノ

三 警防施設上功勞顯著ナルモノ

團員以外ノ者ト雖モ前項ニ準ジ之ヲ表彰スルコトアルベシ

第三十二條 團員ニシテ左記各號ノ一ニ該當

スル所爲アルトキハ之ヲ懲戒スルコトアル

ベシ

一 職務上ノ義務ニ違背シ又ハ職務ヲ怠リ

タルトキ

二 職務ノ内外ヲ問ハズ團員タルノ體面ヲ

失フベキ所爲アリタルトキ

第三十三條 懲戒ハ左ノ如シ

一 解 職

二 譴 責

第三十四條 懲戒ハ團長及副團長ニ對シテハ

知事其ノ他ノ團員ニ對シテハ警察署長之ヲ

行フ

第三十五條 第三十條又ハ第三十一條ニ依リ表彰セラレタル警防團又ハ團員ニシテ其ノ

體面ヲ汚スベキ所爲アリタルトキハ情狀ニ依リ其ノ表彰ヲ褫奪スルコトアルベシ

第九章 信 號

第三十六條 警防ニ關スル信號ハ附表第二ノ如シ

附 則

本則ハ昭和十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
 第三十一條第二號ノ期間ニハ消防組防護團ニ勤續セル期間ヲ通算ス
 昭和十年四月八日茨城縣令第十七號消防組規則施行細則ハ之ヲ廢止ス

第一號様式

沿革誌

(用紙美濃判)

何々警防團

年	月	日	記	事

備考 設置年月日第一條各號ノ事項團長ノ更迭其ノ他必要ナル事項ヲ記載スルモノトス

第二號様式

役員名簿

何々警防團

役職員	任 命	職 賞	職 賞	事由	履 歴	住 所	氏 名	生 年	月 日	備 考
	年 月 日	年 月 日	年 月 日	大 要	職 業	氏 名	生 年 月 日	備 考		

備考 一、團長以下各役員ハ口座ヲ別ニ設ケ記載スルコト
 二、警防團組織及定員表ハ本名簿卷頭ニ綴込ミ置クモノトス

第三號様式

警防員名簿

何々警防團

團 旗	施 設	第五號樣式ノ一 設備資材臺帳		總 計	部															
		何々警防團			合 計	班														
		名	名			計	工作係	配給係	防毒係	救護係										
	團						名													
	第一班																			
	第二班																			
	第 班																			
	第 班																			
	第 班																			
	第 班																			
	計																			

護		第	計	班																
大字何々何々				工作係	配給係	防毒係	救護係													
管理係	避難所							交通係	管制係	燈火	警報係	警備係								

器 械										
刺 又	梯 子	バ ケ ツ	水 桶		運 水 車	水 管 車	筒			
			小	大			用 小 型	腕 大 型	パ イ ト	蒸 氣

機			物 造 建					部 旗	
唧		灯 提	何	何	何	詰	信		具機
瓦 斯 倫	自 動 車	弓 張	高 張	々	々	々	所		號 塔

摘要

備考

- 一 腕用脚筒全部登載ノコト
- 二 其ノ他脚筒ニ同ジ

第五號様式ノ四、

(用紙美濃判)

建築物

何々警防團

種	種	種	種	種	種	種	種	種	種
類	位	置	建	坪	構	造	建	設	年
所							月	日	
詰									摘
機	械	器	具	置	場				要
火	ノ	見	梯						
又	ハ	梯	子						
何									

備考

摘要欄ニハ改築修繕等ノ年月日及所要金額火ノ見格ノ高サ梯子ノ長サ等ヲ記入シ置クコト

第六號様式

(用紙美濃判)

被服器具貸與品査帳

何々警防團

品	目	個	受	入	年	月	日	貸	與	年	月	日	貸	與	者	氏	名	捺	印	摘	要	

備考 受入返納亡失等ノ場合ハ摘要欄ニ其ノ事由ヲ記入シ當該欄ヲ朱抹スルコト

第七號様式

(用紙美濃判)

日誌

何々警防團

年	月	日	記	事

備考

一、防空、水火災消防其ノ他警防訓練檢閱巡檢等ノ狀況及其ノ出動人員團體ノ異動設備
資材ノ施設及購入等圖ニ關スル一切ノ事項ヲ具體的ニ記載スルコト

附表第一

警防團設備資材概目

用送別	種	類
警防一般用	警防團詰所 機械器具置場 信號設備(火ノ見櫓又ハ火ノ見梯子) 團旗(部、班旗) 標旗、提燈(高張ヲ含ム) 電話 メカホン サイレン、警鐘、其ノ他ノ信號	

防 空 用	水 火 災 消 防 用	其ノ他
ラデオ 燈火管制用具等 防毒面、防毒衣、檢知器、瓦斯消毒及除毒用品、被毒地標示材料 等	貯水池、貯水槽 消防唧筒並器具 高口、梯子、鋸、水 繩、針金、杭木、竹材、鋤、鍬、鐵簾、圓匙、掛合槌、斧(手斧)	交通整理用具等、救助袋、救助幕、擔架、醫療設備等

附表第二ノ一

防空警報信號

一、警戒警報同解除信號

警報同解除	警戒
口頭又ハ揭示	信號 手 段

二、空襲警報、同解除信號

備考	解除	警報	空襲	區分	
				警報	空襲
表中燈火信號及吹流ハ通信施設破壊セラレタル場合ニ於テ實施ス	吹鳴一回		一分間連続	サイレン	サイレン
	ニ準ズニ準ズニ準ズ	「サイレン」	「サイレン」	汽笛	汽笛
	〇〇〇	斑打數回	一點二點	電鈴	電鈴
				警鐘(釣鐘)	警鐘(釣鐘)
				電燈點滅	電燈點滅
	十回	上提ニニ赤 下燈在振旗 ニラリルヲ ニ用テ夜上 降ヒハ間下	赤旗ヲ夜間 ニ振ルヲ上 ニ用テ夜間	赤旗ヲ左右 ニ振ルヲ夜 ニ用テ夜間	旗間ハ提燈號
				信號	信號
				吹流	吹流

三、揚燈ニ依ル警報信號

備考	信號方法	區分	
		警報	解除
一、訓練ノ場合ハ最下赤色信號燈ノ下部ニ白色信號燈一個ヲ附加シ點滅ハ警 二、警報シ赤色信號燈ハ消滅ス 三、警報解除ノ場合ハ消滅ス 四、警報解除ノ場合ハ消滅ス 五、警報解除ノ場合ハ消滅ス 六、警報解除ノ場合ハ消滅ス	赤	空襲警報	警報解除
	〇色	空襲警報解除	警報解除
	消燈	警報解除	警報解除

附表第二ノ二

災害警報信號

區分	種別	災害警報信號	
		近火	區域内火
警	近火	望樓ヨリ約三 丁以内ノトキ	區域内火
鐘	近火	望樓ヨリ約三 丁以内ノトキ	區域内火
警	近火	望樓ヨリ約三 丁以内ノトキ	區域内火
鐘	近火	望樓ヨリ約三 丁以内ノトキ	區域内火
警	近火	望樓ヨリ約三 丁以内ノトキ	區域内火
鐘	近火	望樓ヨリ約三 丁以内ノトキ	區域内火
警	近火	望樓ヨリ約三 丁以内ノトキ	區域内火
鐘	近火	望樓ヨリ約三 丁以内ノトキ	區域内火

火災信號方法	右ニ準ス	右ニ準ス	右ニ準ス
火災信號方法	〇—〇—〇—〇—〇—〇—〇—〇—〇—〇—	〇—〇—〇—〇—〇—〇—〇—〇—〇—〇—	〇—〇—〇—〇—〇—〇—〇—〇—〇—〇—
		連點	三點
			二點

備 一、打鐘信號ニ在リテハ近火信號、區域内火災信號及區域外火災應援出動信號ハ凡ソ五分間繼續シテ打ツモノトス但シ鎮火ノ見通シツキタルトキハ其ノ時間内ト雖モ直ニ停止スベシ
考 二、寺鐘ニ依リ火災信號ヲ爲ス場合ニ在リテモ成ベク本信號ニ準據スベシ

附表第二ノ三
召集信號

區分	手	段	警	鐘
召集信號	〇—〇—〇—〇—〇—〇—	一點ト三點斑打	〇—〇—〇—〇—〇—〇—	
考備	召集打鐘信號ハ適宜時間内ニ之レヲ行フモノトス			

警防團令施行細則取扱
手續

(昭和十四年四月二十一日)
茨城縣訓令乙第八八號

第一條 警防團令施行細則(以下單ニ細則ト稱ス)第一條ノ規定ニ依リ警防團ノ設置又ハ變更ノ申請書ヲ受理シタルトキハ同條各號ヲ調査シ意見ヲ進達スベシ
第二條 細則第四條ニ依リ自衛防護團體設置ノ届出ヲ受理シタルトキハ其ノ寫ヲ添ヘ警察部長ニ報告スベシ
第三條 團長、副團長ノ任命及ビ顧問ノ委解囑ニ關シテハ附表第一號ニ依リ内申スベシ
第四條 團長副團長ニシテ退職ヲ願出テ又ハ細則第十三條ニ依リ退職ヲ命ズルノ必要ア

リト認ムルトキハ後任者ヲ銓衡ノ上附表第二號ニ依リ内申スベシ
第五條 細則第二十三條及第二十四條ニ依リ巡檢及訓練ヲナシタルトキハ其ノ結果ヲ附表第三號ニ依リ警察部長ニ報告スベシ
第六條 細則第二十條及第三十一條ノ規定ニ依リ表彰ヲ要スト認ムルトキハ附表第四號ニ依リ警察部長ニ具申スベシ
第七條 團長、副團長ニシテ細則第三十二條ニ該當スルモノアルトキハ其ノ事實ヲ詳記シ速カニ警察部長ニ具申スベシ
其ノ他ノ團員ニシテ懲戒處分ニ附シタルトキハ警察部長ニ報告スベシ
第八條 細則第三十五條ニ依ル事由アルトキハ特ニ事實ヲ詳記シ警察部長ニ具申スベシ

第九條 警察部ニハ左ノ簿冊ヲ備ヘ整理スベシ

警防團役員名簿 (様式第一號)

自衛防護團體名簿

表彰狀授與臺帳 (同 第三號)

懲戒處分名簿 (同 第四號)

警防團關係書類

第十條 警察署ニハ左ノ簿冊ヲ備ヘ整理スベシ

警防團員名簿 (様式第一號ノ一)

自衛防護團體名簿

設備資材臺帳 (細則第五號様式)

表彰狀授與臺帳 (様式第二號)

感狀授與名簿 (同 第三號)

懲戒處分名簿 (同 第四號)

警防團關係令規

警防團關係書類

第十一條 團員ノ命免顧問委解囑ノ辭令書及表彰狀、感狀並ニ懲戒命令書ハ左記様式ニ依ルベシ

一、願ニ依リ退職スル場合ハ「願ニ依リ」ヲ加フ

○ ○ 警防團員

某 名

○ ○ 部第 班班長ヲ

(免) 命

昭和 年 月 日

○ ○ 警察署

(用紙模造紙十八載)

一、願ニ依リ退職スル場合ハ「願ニ依リ」ヲ加フ

○ ○ 警防團員

某 名

○ ○ 部第 班班長

(免) 命

昭和 年 月 日

○ ○ 警察署

(用紙模造紙十八載)

一、願ニ依リ退職スル場合ハ「願ニ依リ」ヲ加フ

某 名

○ ○ 警防團

副團長ヲ(免) 命

昭和 年 月 日

茨 城 縣

(用紙模造紙十六載)

一、願ニ依リ退職スル場合ハ「願ニ依リ」ヲ加フ

○ ○ 警防團員

某 名

○ ○ 部長ヲ(免) 命

昭和 年 月 日

○ ○ 警察署

(用紙模造紙十八載)

一、退職ノ場合ハ縣(署)印ヲ押捺セザルモノトス

- 1、願ニ依リ退職スル場合ハ「願ニ依リ」ヲ加フ
- 1、退職ノ場合ハ職(署)印ヲ押捺セザルモノトス

昭和三十二年 月 日
 ○ ○ 警察署
 (命) 免
 ○ ○ ○ 警防團警防員ヲ
 某 名
 (用紙模造紙十八載)

昭和三十二年 月 日
 茨 城 縣
 (委) 免
 ○ ○ 警防團顧問ヲ
 某 名
 (用紙模造紙十八載)

(縦三十二 横四十二 用紙) 厚紙

(厚紙美濃野紙)

表 彰 状
 ○ ○ ○ 警防團
 ○ ○ ○ (部) (班)
 防空 水火 消防 其ノ他警防ニ
 關シ功勞顯著ナルヲ認ム
 仍テ茲ニ之ヲ表彰ス
 昭和 年 月 日
 茨城縣警察部長 團

命 令 書
 ○ ○ ○ 警防團 (第 部)
 役 命
 團 長 (副 團 長)
 部 長 (班 係 組 長)
 警 防 員 某 名
 何年何月何日何々セシ廉不都合ニ
 付警防團令施行細則第三十三條ニ
 依リ(解職) (証責) ス
 依テ何年何月何日表彰状(感状)ノ
 返納ヲ命ス
 昭和 年 月 日
 茨城縣警察部長 團
 (茨城縣 ○ ○ 警察署長 團)

同

表彰状

〇〇〇警防團

〇〇部〇〇班

某名

右者防空 水火 消防其ノ他ニ關シ功勞拔群ニシテ一般ノ範ニ達シタリ仍テ技ニ(何々ヲ添ヘ)之ヲ表彰ス

昭和 年 月 日

茨城縣警察部長 ㊟

同

表彰状

〇〇〇警防團

〇〇部〇〇班

某名

右者十年以上勤続シ規律嚴正勤務 勉勵警防ニ關スル技能ニ熟達シ一般ノ模範タリ

仍テ技ニ(何々ヲ添ヘ)之ヲ表彰ス

昭和 年 月 日

茨城縣警察部長 ㊟

同

表彰状

市(郡)町(村)

某名

右者警防上(何々何々)ニシテ功勞顯著ナリ仍テ技ニ(何々ヲ添ヘ)之ヲ表彰ス

昭和 年 月 日

茨城縣警察部長 ㊟

(厚紙美濃罨紙)

命令書

〇〇〇警防團

(部) (班)

何々ノ爲何年何月何日授與ノ(何々)及(何々)ノ返納ヲ命ス

昭和 年 月 日

茨城縣警察部長 ㊟

一、感状文案ハ各表彰文案ニ準ズルモノトス

附 則

昭和十年四月八日茨城縣訓令第十七號消防組規則施行細則取扱手續ハ之ヲ廢止ス

附表第一號

何々市(町)(村) 團長(副團長)任命内申

何々警察署

年月日内申

職 名	細則第十一條該當ノ有無		資産ノ概要		經歷		兵役	職 業	氏 名	生年月日
	德望ノ有無	大要	前消防組員	前防護團員	關係					

附表第二號

何々市(町)(村) 團長(副團長)罷免内申書

何々警察署

年月日内申

職 名	團員任命年月日	在 職 年 數	罷免(依願退職)事由	前賞罰ノ有無	右意見並ニ参考トナルヘキ事項	名 氏	

附表第三號

警防團檢閱(訓練)狀況報告

備考	簿册ノ整否	設備資材及被服ノ完否並ニ其保存ノ適否	研究ノ熟否	訓練ノ技術	起律ノ良否	團又ハ(部班)ノ定員	團	訓練開始日時	解散ヲ命シタル日時	檢閱開始日時	檢閱指導官	名出席	名出席	名欠席	名出席	名出席	名欠席	名	名

何々警察署
年月日報告

附表第四號ノ一

警防團表彰具申書

團名(部)(班)(定員)	設置年月日	細則第三十條各號事項該當事由詳細	平素ノ功績	前賞罰ノ有無	右意見並ニ其ノ他參考事項

何々警察署
年月日具申

附表第四號ノ二

警防團表彰具申書

所屬(部)(班) (係)(組)名職名氏名 及生年月日	團員任命年月日	在職年數	細則第三十一條第一 項各號事項ノ一ニ該 當事由ノ詳細	平常ノ勤怠概要	前賞罰ノ有無	右意見並ニ其ノ他參 考事項

何々警察署
年月日具申

附表第四號ノ三

一般表彰具申書

本籍、住所、職業 氏名及生年月日	表彰事由ノ詳細	經歷	右意見並ニ參考事項

何々警察署
年月日具申

何々警防團	域區置設	員定	本部付	名名	警組保班部 防員長長長長	名
-------	------	----	-----	----	-----------------	---

樣式第一號

警防團(役)員名簿

何々警察部

一、團長及副團長ハ各別紙ニ登載卷頭ニ綴込ムコト
 二、從來消防組員又ハ防護團員タリシ者ニシテ引續キ警防團員ニ任命セラレタルモノハ消防組員又ハ防護團員ニ任命セラレタル年月日ヲ朱書記入ノコト

様式第二號

表彰狀授與臺帳

警察部(警察署)

		〇〇警防團		設置年月日	
團又ハ(部)名	(班部團)	授與	授與	授與	授與
		年月日	年月日	年月日	年月日
		由	由	由	由
		理	理	理	理
		與	與	與	與
		與	與	與	與
		與	與	與	與
		與	與	與	與
		與	與	與	與
		與	與	與	與

一、警防團毎ニ別口座トスルコト
 二、表彰ヲ擬奪セラレタルトキハ朱抹スルコト

様式第三號

感狀授與臺帳

警察部(警察署)

年月日	表彰	区市名	團名	部(班)名	氏名	年齢	摘要

一、警防團毎ニ別口座トスルコト
 二、表彰ヲ擬奪セラレタルトキハ其ノ事由及年月日ヲ摘要欄ニ記入ノコト

様式第四號

懲戒處分名簿

警察部(警察署)

職氏名 生年月日	懲戒處分ノ事由	懲戒處分ノ種別	摘 要	懲戒處分 年月日	警防團 員任命 年月日	團名(部) (班) (係) (組) 名

- 一、警察部ニ備フベキモノハ組長以上ノミ警察署ニ備フベキモノハ團員全部ヲ記載スルコト
- 二、警防團毎ニ別口座トスルコト
- 三、表彰ヲ視奪セラレタルトキハ處分種別朱書ノコト

警防團徽章並警防團旗
制式ニ關スル件

内務省訓令第二號

廳府縣(東京市ヲ除ク)

警防團徽章並ニ警防團旗制式左ノ通り定ム

昭和十四年四月六日

内務大臣侯爵 木戸 幸一

警防團徽章制式

